hiroba

ひろば

Number 91
2018 December

ARC2018

作　品　集

建築士事務所憲章

建築士事務所は、建築や環境が文化の形成に占める重要な意味を認識し、社会の健全な進歩と発展に寄与します。

一　誠意をもって設計と監理の業務を遂行し、建築主の期待に応えます。
一　健康で快適な生活環境の創造と、安全安心、持続可能で良質な資産の形成を図ります。
一　自己研鑽を怠らず、職業倫理を高め、法令遵守と公益の立場に立って最善を尽します。
一　設計意図の理解を施工者に求め、公正に工事を監理します。
一　互いに信頼を深め、連帯の精神をもって職務を全うします。

平成20年5月

一般社団法人　日本建築士事務所協会連合会
（平成25年4月1日一般社団法人に名称変更）

社団法人　北海道建築士事務所協会は、本憲章を誓約する建築士事務所を会員とする法定団体です。

平成21年1月

一般社団法人　北海道建築士事務所協会
（平成25年1月4日一般社団法人に名称変更）

〈一般社団法人　日本建築士事務所協会連合会シンボルマーク〉

“建築” の基本構成である “塊”、“面”、“線” の3つの普遍的要素をもとに構成し、
“屋根の建築” といわれる日本建築のイメージを取り込み、
柔らかな曲線によって、繊細な日本美を表現しました。

hiroba ひろば
一般社団法人 北海道建築士事務所協会 No.91 ARC 2018 No.51 建築作品集

目次　CONTENTS

巻頭言　平成という時代
一般社団法人北海道建築士事務所協会副会長・釧路支部長　三浦　啓 …… 2
第 43 回　北の住まい住宅設計コンペ　「場所を受ける」…… 4
最優秀賞に受賞して　北海道大学大学院 2 年　押川　快 …… 13
北海道大学大学院 2 年　秋山　瑞穂
平成 29 年度　北海道赤レンガ建築賞・北海道赤レンガ建築奨励賞 …… 15
平成 29 年度　高校生建築デザインコンクール …… 24
第 42 回建築士事務所全国大会（東京開催）…… 33
平成 30 年北海道胆振東部地震の発生に伴う（一社）北海道建築士事務所協会の活動 …… 36
栄誉を称えて …… 41
支部創立寄稿
お陰様で札幌支部 40 周年になります　札幌支部長　柳舘　直人 …… 42
函館支部創立 50 年に思う　函館支部長　松見　修二 …… 44
―新たなる出発―　室蘭支部設立 50 年を終えて　室蘭支部長　菅　俊治 …… 46
北見支部創立 50 周年にあたって　北見支部長　笹木　勇一 …… 48
2018 アクションリポート
・建築士事務所登録等事務の業務について …… 49
・設計等の業務に関する報告書に係る事務について …… 50
・建築士定期講習 …… 51
・管理建築士講習 …… 52
・震災復旧のための震災建築物の被災度区分判定基準および復旧技術指針講習会 …… 53
・住宅金融支援機構適合証明技術者登録・講習 …… 54
・開設者・管理建築士のための建築士事務所の管理研修会 …… 55
・既存住宅状況調査技術者講習 …… 56
・建築士事務所キャンペーンについて …… 57
平成 30 年度 委員会開催状況 …… 60
（一社）北海道建築士事務所協会青年委員会 …… 61
建築設計セミナーの開催について …… 63
行政等への要望活動 …… 64
日本建築学会北海道支部　第 38 回北海道建築作品発表会
風景を司る建築たち　株式会社アカサカシンイチロウアトリエ　代表取締役　赤坂　真一郎 …… 66
新入会員の紹介（平成 29 年 12 月～平成 30 年 11 月）…… 68
平成 30 年度　一般社団法人北海道建築士事務所協会　役員・支部長・委員会名簿 …… 70
ARC 2018 建築作品集 …… 73
建築士法の改正について …… 89
編集後記　広報委員会委員　髙橋　雅敏 …… 108

巻 頭 言

平成という時代

一般社団法人北海道建築士事務所協会
副会長・釧路支部長　三　浦　　啓

この原稿が掲載される hiroba が発刊される頃には世の中では「平成最後の」と言う言葉であふれていると思います。

この巻頭言も平成最後の巻頭言となりました。この 30 年間は「平成の」と言う言葉でくくられるようになるのですが、この平成と言う時代を建築から振り返って考えてみたいと思います。

まず、「大災害」これは建築に限ったことではなくすべてにわたる事象ですが、阪神淡路大震災に始まり東日本大震災という未曾有の大災害に見舞われ、また今年は我々の住む北海道も北海道胆振東部地震に襲われると言う事態となりました。これらの地震の際にはビル、木造住宅の倒壊が多数ありましたが、ある程度想定の範囲内であり建築の耐震性能は一定の力を発揮したとは思われますが、しかしながら地震に伴う津波では、RC 造のビルが引き波で転倒するなど、想像を超える事態となりました。

また近年多発する水害や土砂崩れなどの災害に対しては建築がいかに無力であるのかと言うことを思い知らされることになり、これらの事態は建築だけで解決の糸口が見えるものではなく、総合的な知見をもとに対処しなければならないもので、次の時代に向け防災、減災に対する取り組みは大きな課題として引き継がれていかなければならないことだと思います。

次に「業務の変化」があげられると思います。一つは仕事の仕方ということで、昭和には当たり前に使っていた定規、ドラフター、鉛筆がディスプレイとマウス、キーボードにとってかわり事務所の風景が一変し、図面も紙媒体は残っては居るものの、電子データ化されｅメール等によって届けられるようになり隣り合わせた所員間でも海外ともデータのやり取りで仕事をこなす時代となりました。このことにより設計行為の合理化、標準化ということにおいては大きな変化でしたが、一方、設計図がデジタル化されたということは、ただ単に記号として設計の内容を伝えるだけでなく、その設計事務所の設計に対する意思、哲学に近いものまで表現しうる手書きの図面を失うことでもありました。次の時代には、BIM、AI などさらなる変化も待ち受けています。

余談ではありますが、手書きの図面といえば昨年、六本木の国立新美術館で開催された安藤忠雄展で初期の作品の手書きの図面が展示されていました。まさに氏の建築に対する、意思、哲学が表現さ

れたものでした。見入っているのは私の同世代以上の方たちのような気もしましたが、さらに余談ついでに、私が作品展を見に行ったのは平日でしたが、当日は大変な混雑で建築関係者よりも圧倒的に一般の方が多いように思われました。この安藤忠雄展は入場者数が 30 万人となったそうで、一建築家の作品展にこれほどの人が詰めかけるとはまさに時代も変わったものだと感じ入った次第です。

さて本題に戻り、もう一つの「業務の変化」は制度上の点です、確認業務の民間開放さらには何といっても、耐震偽装問題に端を発する建築確認の厳格化の流れでしょう。これは皆さんも日々悩まされていることではないかと思います。建築の安全性の検証は重要なことであることは言うまでもありませんが不必要と思われる検証を求められたり、言わずもがなの事象を記述しなければならないなど、理解しかねることは多々あるのではないかと思います。これは法令に即したうえでのことですが、事務所協会としての取り組みがあってもいいのかもしれません。さらに今後のこととして、ZEH、ZEB などの法制度として環境に配慮した設計が求められるようになり、さらなる研鑽が求められる時代となります。これらは、事務所協会が会員に対する役割として重要な事柄でもあります。

平成の幕開けはバブルの名残から始まり、その後の停滞の「失われた 20 年」ともいわれる時代をへて、インバンウンドやら東京オリンピックに向けた特需から多少景気が上向きはじめて、気が付いてみると現場にも設計業界にも人がいないという事態に陥ってしまいました。本協会も遅まきながら、青年話創会なる会を立ち上げ、さらには単位会には青年委員会を創設するなど若い方への業界としての発信力を強めようとしております、これで人材が集まるわけではもちろんありません。いつも言われているように魅力ある業界となるための報酬の適正化、業務の効率化など、山積した問題を次の時代には解決することが求められています、もちろん建築設計が素晴らしい仕事であることを伝えていくことも。

平成最後のということですので、平成の建築について考えてみたいと思います。前の時代の昭和元年は 1926 年ですので、コルビュジェのサヴォワ邸が 1928 年設計開始 1930 年に完成ということですのでまさに近代建築の時代といえる元号だと思います。モダニズムからポストモダンまでを包含する 64 年であったのですが、平成はというとこれといったスタイルでくくられてはいないように思います。海外、国内を問わず前の時代では考えられない造形の建築が多く造られたのですが、これといったスタイルに対する表現は見当たらず、多種多様な技術や造形が生まれたことの証左であることなのかもしれません。平成に変わったばかりのころ昭和を代表する建物はとの雑誌のアンケートがあり、丹下健三設計の代々木第一、第二体育館が一位であったように記憶しております。ところが平成はとなると難しい、代々木の体育館は東京オリンピックという大きなイベントが生みだしたものでそのまま比べられないものがあるのですが、ただ次の元号に完成する東京 2020 の建物にその時代を代表する建築は生まれるのでしょうか。

平成という時代を考えてきましたが、次の時代がどのようになっていくのかはわかりませんが、設計という行為はなくなることはないと思います。そこで一番重要なことは人対人であることが今後さらに重要なこととなることはこの仕事に携わってきた皆さんがよくご存じのこと思います。それに備え一層の研鑽と努力と共に新しい時代を希望をもって迎えようではありませんか。

KITA SUMA 2018　第 43 回　北の住まい住宅設計コンペ募集要項

「場所を受ける」

建築には、場所が必要です。森の中や里山であったり、まちにはビルの隙間にある狭小地や原っぱもあります。もちろん住宅地もあるでしょう。地面を見れば、傾斜地、石だらけの土地、一面の野花、広大な雪原もあります。

あなたは、場所を探すことから始めて下さい。場所を取り巻く環境や地形から様々なことに気づくでしょう。そして、その場所から生まれる新しい住まいを創造してください。

計画条件

・北海道内の地域と敷地、住戸形式、家族構成等は自由に設定してください。

賞　金

・最優秀賞　25 万円（1 点）
・優秀賞　　5 万円（2 点）
・奨励賞　　2 万円（4 点）

締　切

・2018 年 8 月 7 日㈫　持参の場合は 16 時必着。
なお、土曜日、日曜日は、受付できません。
郵送の場合は 8 月 7 日消印有効。

参加資格

・一般、学生等を問いません。
・北海道内居住者とします（学生・生徒は北海道内の教育機関に在籍している者に限ります）。
・個人参加、グループ参加は自由です。

提　出　物

⑴　図面
作品名、設計趣旨及び設計意図を表現する図面（縮尺は自由）。図面には、氏名、記号、サインなどを記入しないでください。Ａ１（841×594）サイズ一枚、横づかい。表現は自由です。ハレパネ又はスチレンボード（厚さ 5 mm 程度）などでパネル化してください。

⑵　返信用ハガキ
受付番号をお知らせするために使用しますので 62 円の官製ハガキに応募者の住所、氏名を記入して提出してください。
（官製ハガキ以外は、受付できません。）

⑶　応募用紙
応募作品の「作品名」と応募者の郵便番号、住所、氏名（フリガナ）、所属先名（学生は、学校名・学年）、電話番号をＡ４版の用紙に記入して（形式は自由）応募作品とともに提出してください。

審査委員（委員は五十音順）

委員長　米田浩志
北海学園大学工学部教授

委員　赤坂真一郎
㈱アカサカシンイチロウアトリエ代表取締役

委員　小澤丈夫
北海道大学大学院工学研究院教授

委員　小西彦仁
ヒココニシアーキテクチュア㈱代表取締役

委員　佐藤孝
北海道科学大学工学部教授

委員　澤田貞和
㈱日本工房代表取締役

委員　松田眞人
㈱都市設計研究所代表取締役

選考経過

①一次審査（2018年8月22日～24日）
一次審査通過者の受付番号は9月3日㈪に主催者ホームページ（www.do-kjk.or.jp/）で発表します。

②二次審査（2018年9月19日10：30～）
一次審査通過作品からベスト10を選出します。

③最終審査（2018年9月19日13：00～）
二次審査通過作品（ベスト10）から各賞（7作品）を決定します。
最終審査は「公開審査」とし、ANAクラウンプラザホテル札幌23階白樺で行います。

入賞者発表

・2018年9月中旬
入賞者に直接通知するとともにホームページでも発表します。

入賞作品の展示等

①2018年10月22日㈪～10月26日㈮
大五ビル　6階ホール（札幌市中央区大通西5丁目11）

②2018年11月2日㈮～11月4日㈰
札幌地下街オーロラタウン

・1次審査通過作品は、協会広報誌「ひろば」（12月発行）に掲載します。
また、最優秀賞の方には、同誌への寄稿をお願いしています。

入賞者名簿

最優秀賞	押川　快	北海道大学大学院2年
（共同作品）	秋山瑞穂	北海道大学大学院2年
優秀賞	野口翔太	室蘭工業大学大学院1年
（共同作品）	福山将斗	室蘭工業大学大学院1年
優秀賞	大久保修平	室蘭工業大学大学院1年
奨励賞	千葉大輝	室蘭工業大学大学院1年
（共同作品）	蝦名　錬	室蘭工業大学4年
奨励賞	小林　賛	室蘭工業大学4年
（共同作品）	山崎　巧	室蘭工業大学4年
奨励賞	小野陽平	北海学園大学4年
奨励賞	浅野　樹	室蘭工業大学4年
（共同作品）	佐藤由花	室蘭工業大学大学院2年

応募作品の著作権等

・応募作品の著作権及び版権は、応募者のものとします。ただし、この事業の趣旨に基づいて、主催者が図書の出版や、新聞、雑誌、その他に掲載又は啓発宣伝などに利用する場合は無償で認めるものとします。
・応募作品は原則として返却しません（返却希望の場合は、事務局に相談してください）。

主　催

（一社）北海道建築士事務所協会

後　援

北海道
（一財）北海道建築指導センター
（一社）北海道建築士会
（公社）日本建築家協会北海道支部
（一社）日本建築学会北海道支部
㈱北海道建設新聞社

最優秀賞

「A HOUSE in/for Three Landscapes」

押　川　　快（北海道大学大学院２年）
秋　山　瑞　穂（北海道大学大学院２年）

（共同作品）

豊平峡ダムに隣接した大自然の中の敷地である。場所の設定が特徴的な案である。

また、廃棄物ともいえる堆砂に注目し、骨材などに再利用する提案にも拍手。

北海道らしい大自然を相手に、敷地にある３つの風景、自然・人工物（ダム）・湖面をそれぞれ庭園・コンクリート躯体・家具として建築に反映させている。

内部の壁・天井のコンクリートがダムのイメージを十分伝えている。欲を言えば、水の壁があったらよりリアルではないだろうか。

さらに、１階のギャラリーに、ダム湖に接するミニ水族館があったらより楽しさを加えられたのではないだろうか。しかしこの案は、住まいを越えて地域環境と結びついた新しい暮らし方を示唆しているように思える。

そんな想像を膨らませてくれる優れた提案である。

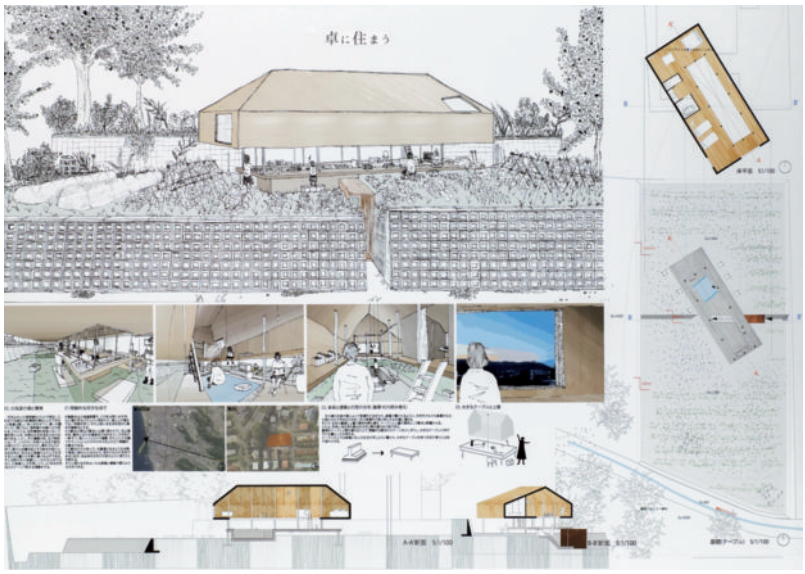
審査委員　澤田　貞和

優秀賞

「卓に住まう」

野口　翔太（室蘭工業大学大学院１年）
福山　将斗（室蘭工業大学大学院１年）

（共同作品）



北海道の住宅に見られる「厚い壁と小さい開口」が、環境、場所を受けるものの一つであろうと、作者は述べている。

確かにそのような住宅が大地に並び、北海道の景観をつくっていると思われる。今回設定した場所は、傾斜地をひな壇造成された住宅地である。

この場所に見られるレベルの異なる地面のステージを受けるように小川のレベルから敷地を幾つかのレベルに分けて畑を作っている。建物の基礎とスラブをオープンキッチン・カウンターに見立てた生活の場が、畑の食材に囲まれて大地に広がり、住居はその上に「厚い壁と小さい開口」の塊として浮いた。場所を捉えた建築が新しいライフスタイル生み出している。

優れた作品である。

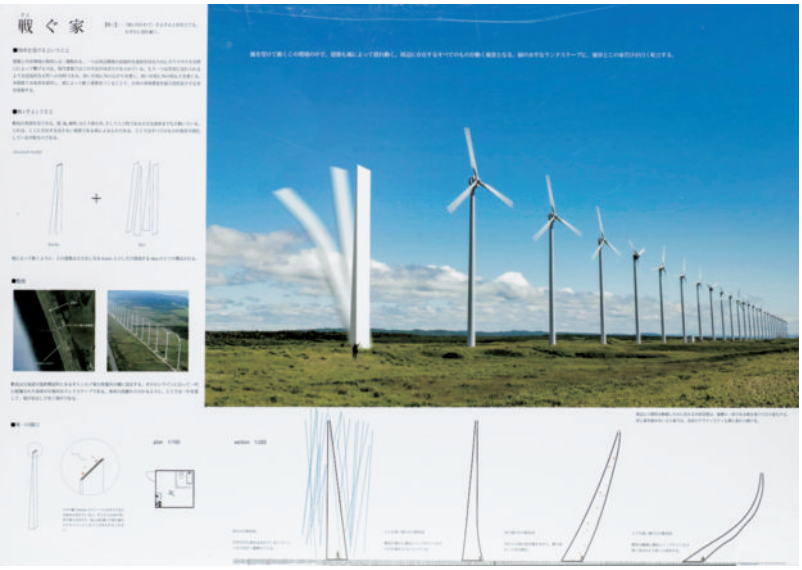
審査委員　佐藤　　孝

優秀賞

「戦（そよ）ぐ家」

大久保　修　平

室蘭工業大学大学院１年



素直に課題と向き合った清々しい作品です。

道北の特徴的風景のひとつである風力発電用の風車に並び、この建築がそよぐ姿は美しく、審査員を惹きつけました。

最も興味深かったのは、頂部にある僅かな開口を通じて降りてくる光や雨の状態です。それは建物の動きと連動して、内部空間に思いがけない現象を引き起こし、住まう人に劇的な体験を提供するでしょう。

この作品の特徴である「動く」建築の構造や素材について何らかの表現があると、前述の要素と相まって、提案を見る人に更に魅力あるシーンを想像させ得たのではないでしょうか。

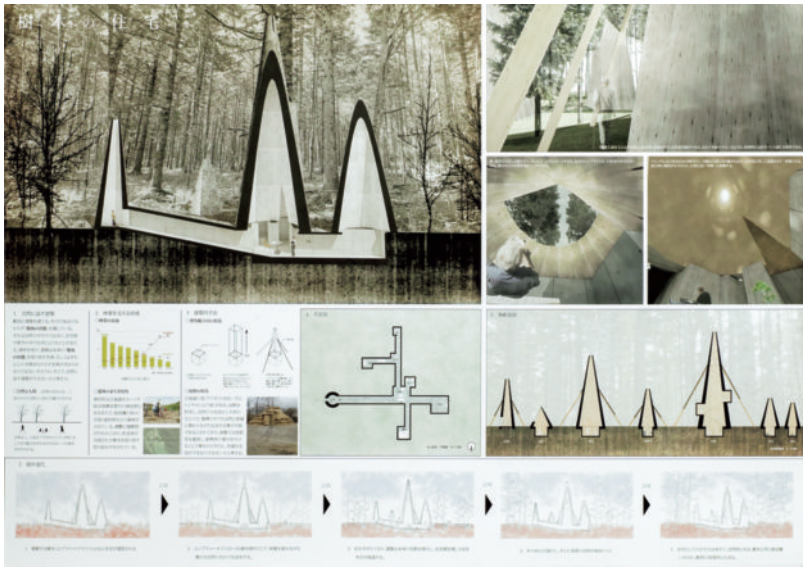
審査委員　赤坂真一郎

奨励賞

「樹木の住宅」

千葉　大輝（室蘭工業大学大学院１年）
蝦名　　錬（室蘭工業大学４年）

（共同作品）



都市の中でも、自然の中でも、建築することは即ち、敷地の状態を壊しており、この作者は「場所を受ける」とは、本来の敷地の状態を取り戻す事であり、建築することによってこれを実現したいと考え、樹木の住宅を提案している。

森の中での植林とともに家を建て、子育てを終わった夫婦が住み、その生涯を終えるとともに、その役割を終えた建築が徐々に朽ちて自然と一体化していくというストーリーである。

人間も自然の一部であることをより鮮明に浮かび上がらせてくれる建築で、詩的な哲学的な心地よいあり方を提案している。根としての地下の居室群と、枝葉としての吹き抜けボイド空間がユニークな住空間を作り上げている。

一方で、地下の空間が幾何学的なプランで、樹木の根の配置を損なうのではないか、もっと有機的な形でよかったのではないか。あるいは上部の架構が、骨組にベニヤのようなものを貼っている様に見え、杢材をくり抜くような形でも良かったのではないか。登り梁がやや不明解との指摘があったことを付け加えておきます。

審査委員　松田　眞人

奨励賞

「不自由を内包する家」

小林　　賛（室蘭工業大学４年）
山崎　　巧（室蘭工業大学４年）

（共同作品）

一年の３分の１を霧に包まれる釧路市昆布地区に計画された案である。

森の中に地上より３ｍほど浮かせ周辺の樹木の中に長方体の箱を縦においている。あえて閉ざされた外周部は森を見せることなく、その長方体の上部に穴を空け、さらに各階のスラブにも穴を空け全てが空気の通る状態である。

その縦穴より雪、雨そして霧が空間内に入り込む、各階に空けられたスラブの穴が少しずつズレ、そのズレにより雪はスラブにのり壁をつくり、雨は跳ねそして滴り心地よい雨音を発する、また霧は室内を雲中と化す。

天からの自然と共に暮らすための素敵な空間である。その一方で開口部は全て解放され生活のリアリティにかけているところが残念である。

この一点が上位入賞を阻んだ。

審査委員　小西　彦仁

奨励賞

「Coexist～軟石に寄生する家～」

小　野　陽　平

北海学園大学４年

札幌市藻南公園内、札幌軟石採掘所跡地における設計案である。本年度の課題「場所を受ける」に、力強くストレートに応えた優れた提案といえよう。

かつての採掘によって露出した崖面を、大胆にくり抜くことによって、店舗・アトリエをもつ三世帯住宅とし、さらに棚やテーブルなど家具を軟石でつくりこみ空間と一体化している。これによって、作者は「場所と建築が拒絶しあっている」現状に意義を唱え、すでに我々の日常の記憶から消えつつある旧採掘所へのこのような住空間の挿入が、「枯れた花の種子にもう一度水をあげる」こと、つまり、〝場所〟に再び生気と潤いをもたらすことになると主張する。

この提案が喚起させるのは、よく知られる大谷石地下採掘場跡（現大谷資料館、宇都宮市）であろう。石塊を大胆にくり抜いてできる圧倒的な非日常的空間は、多くの訪問者を強く魅了する。本提案にも、このような〝場所〟と空間との非日常的な関係が魅力的に表現されている。

一方で、平面構成が、汎用的な住戸プランを踏襲しているように見えることが気になった。空間の繋がり、間仕切りや建具などに、この提案ならではの独自展開の余地があったのではないかと思われた。

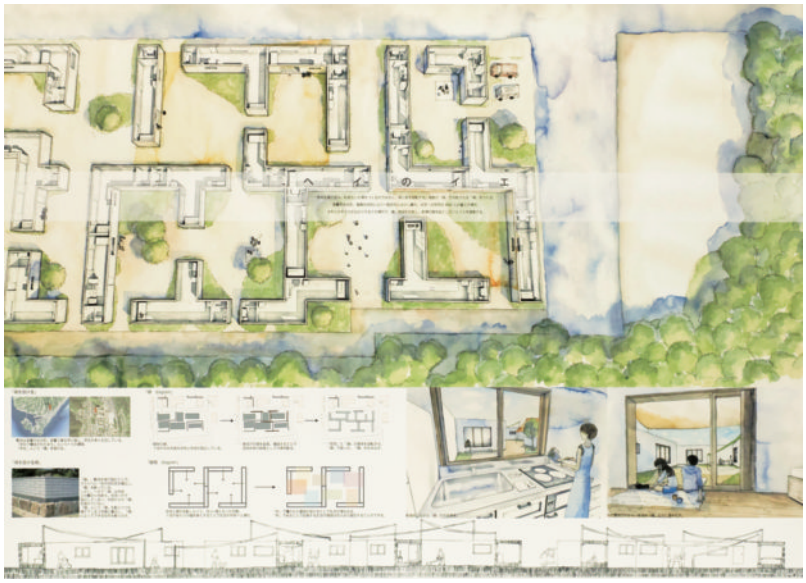
審査委員　小澤　丈夫

奨励賞

「ヘイのイエ」

浅野　　樹（室蘭工業大学４年）
佐藤　由花（室蘭工業大学大学院２年）

（共同作品）



多くの学生が暮らす地域に、「住宅」と「塀」との関係を逆転させた住まいを展開し、生活が滲み出る複数の広場を生み出し、それらを繋げ、新たな街のあり方を提案しようとする意欲的作品です。

CAD や CG によるプレゼンが主流の中、水彩風の手書きドローイングも目を引きました。しかし、アイディアの出処が「塀」であるが故に、全ての床が地表レベルで展開されていたり、建物幅が全て同じになっていたりと、自分のルールに縛られて、提案を発展させるチャンスを逃してしまった感もありました。

このルール設定をほんの少し変えるだけで、より魅力的な作品にすることが出来たのではないでしょうか。

審査委員　赤坂真一郎

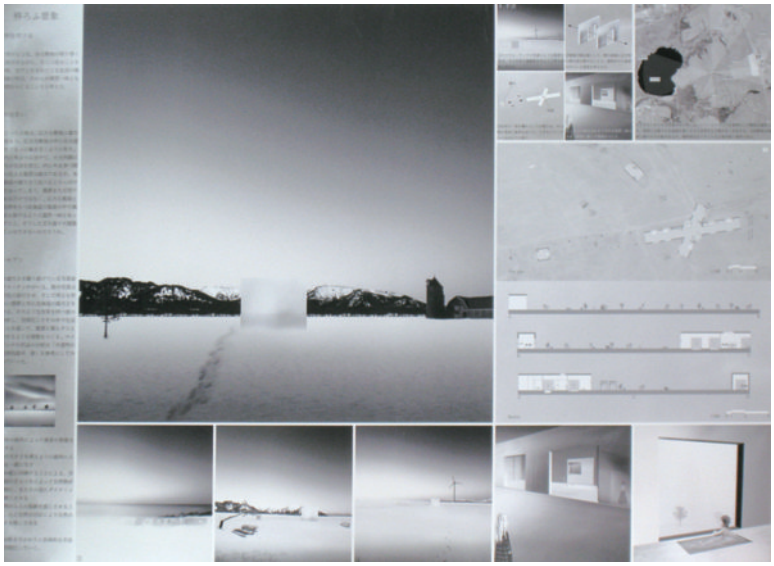
2 次審査通過作品

板　東　千　尋

北海学園大学 4 年

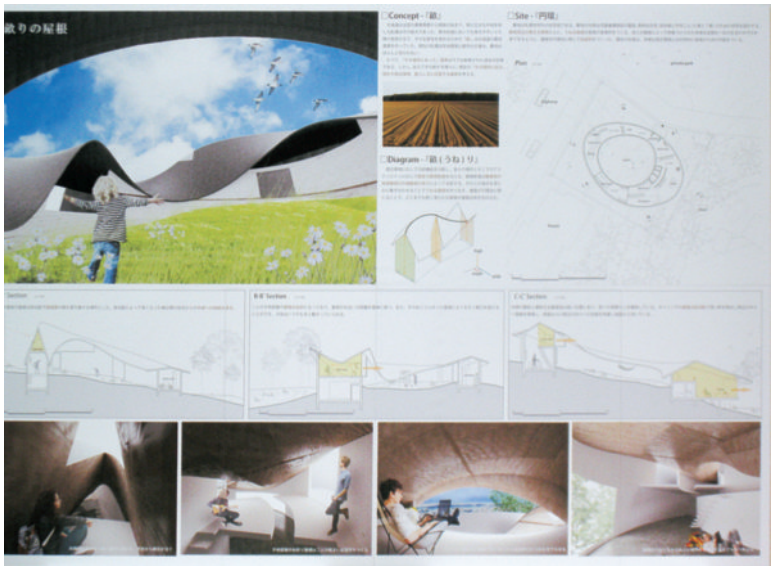
杉田　渉伍（北海道科学大学大学院 2 年）
若原　大介（北海道科学大学大学院 2 年）

（共同作品）



羽　田　崇　人

北海道大学大学院 2 年



1次審査通過作品

佐々木　のぞみ

札幌市立大学 3 年

中西　慶侑（北海道科学大学大学院 2 年）
吉川　明香（北海道科学大学 1 年）

（共同作品）

谷浦　脩斗（吉本考臣建築設計事務所）
岩木　智穂（合資会社 d.n.a.）

（共同作品）

蝦名　　錬（室蘭工業大学 4 年）
浅井　敬太（室蘭工業大学 4 年）

（共同作品）

表彰式

総　　評

住宅は、場所と共に生きる生活環境である。したがって、場所の特性を読み解きながら、住宅のプログラムや住宅の形式を追求する必要がある。もちろん、場所だけに目的性を有しているのではなく、設計者の理念の定位や住生活の機能性を優先させることもあり得る。しかし、実体としての住宅には、場所との間に呼応関係を導き出さなければならない。住宅を縦糸（垂直的なるもの）、場所を横糸（水平的なるもの）に例えると、丹念に編み出される織物のような関係と言い換えることができる。今年、第43回目を迎える北の住まい住宅設計コンペ、別称キタスマコンペの課題は、「場所を受ける」であった。住宅と場所の関係を言葉にすれば「場所に（住宅を）つくる」方が一般的かもしれない。しかし、今回の課題をあえて「場所を受ける」にしたのは、場所を生活環境の主体として提示するためであった。なぜならば、場所には実体としての特性にとどまらず、地域や風土への拡がりが含まれているからである。結果として、北海道の風土にふさわしい住宅の提案が期待された。

第43回北の住まい住宅設計コンペの締切日は8月7日であった。応募総数33作品が集まった。残念ながら例年と比較すると少なめの応募数であった。今年は課題の公開日程が例年よりも遅く、各関係部署に周知するタイミングが遅くなったことが減少の原因であった。コンペにおいてはスケジュール上の各タイミングも重要であることを再認識させられた。その後、一次審査は、8月22日から24日の3日間で行われた。各審査委員が7票を持ち、投票を行った。結果、一票以上が投票された14作品が一次審査通過作品として残った。二次審査会は、9月19日午前中に開催された。この審査会では改めて各作品に対し評価の議論を重ねながら投票を行った。この段階でベスト10入賞作品が決まった。同日午後には、一般公開を前提とした最終審査会が開催された。ここまで残ったベスト10入賞作品を前提に、さらに議論を重ねながら、7作品を選出した。その後投票を繰り返し、最優秀賞作品1点、優秀賞作品2点、奨励賞作品4点を決定した。今年は、最優秀賞作品が決選投票によって選出することになったのが大きな特徴であった。

最優秀賞作品（押川・秋山案）は、課題に対して最も的確に応えた作品だった。定山渓ダムを管理する住まいにおいて、周囲の風景や素材そして形態の関係を顕在化させたプロセスは、場所への眼差しから生み出されたものとして高く評価できる。優秀賞作品（野口・福山案）は、住空間の質に創造的リアリティがあった。家具の機能に限定されないテーブルを配置した一階部分の空間秩序は秀逸であった。しかし、主体である場所にあまり特徴がなかったのが悔やまれる。もう一つの優秀賞作品（大久保案）は、上位2作品とは異なったアプローチをとりながらも、強い印象を残した作品であった。風力発電に着目しながら、住宅と風との関係を解いていた。動く形態は、新たな住形式の可能性を提示していた。そして、奨励賞作品4点もそれぞれ特徴的な作品であった。さらに作品としての質を高めることができたなら上位入賞もあり得たであろう。

今年のコンペは、応募総数は少なかったものの、一次審査通過作品以降に残った作品は、例年と比べ、決して見劣りすることのない質の高い内容のものばかりであった。どの作品も、具体的な場所を「発見」しながら住宅の形式に変換されていた。場所という言葉の意味に限定されない、広範囲な視点、そして様々な与条件が統合されていたともいえる。このようなスタンスからは、北海道の住宅にあるべき姿が自然と生み出されていた。今回も、北の住まいの可能性が喚起させられる有意義な審査の『場』であった。

審査委員長　米田　浩志

コンペ最優秀賞に受賞して

第 43 回北の住まい住宅設計コンペ最優秀賞受賞者
押川　　快（北海道大学大学院 2 年）
秋山　瑞穂（北海道大学大学院 2 年）
（共同作品）

第 43 回の北の住まい住宅設計コンペ最優秀賞に選んでいただきまして、ありがとうございます。「課題を解釈すること」「話し合うこと」というふたつの切り口から、作品制作の経緯と受賞にあたっての感想を書きたいと思います。

課題を解釈すること

「A HOUSE in/for Three Landscapes」という作品タイトルは、コンペのポスター（Fig.1）に描かれていた線と球からなるビジュアルイメージから着想を得ています。 9 本の黒い線と、その上に浮かぶ、小さいけれども存在感のある赤い球。コンペのポスターには、課題である「場所を受ける」というフレーズの上に、そのようなイメージが描かれていました。私たちは、この線と球は場所と建築の理想的な関係をあらわしているように思いました。 1 本ではなく 9 本の線が描かれているように、場所を複層的で重層的なものとして捉えること。そして、描かれた線と球のあいだに生じている目に見えない力（線と球のあいだには、まるで次の瞬間にも動きだしそうな緊張感が感じられます）のように、建築と場所が互いに影響を与えあうこと。このふたつが、私たちが作品を考える上での大きなテーマとなりました。

敷地はこのふたつのテーマに沿うような、複数のそれぞれ性質の異なる要素が併存した場所として、豊平峡ダムに目と鼻の先まで迫ったところを選びました。人に左右されない巨大な「自然」と、その自然の力を人の力で制御しようとする「ダム」、そしてその狭間に生じる「堆砂」（ダムの上流から流れ込み、ダム湖の底に溜まった土砂）という、 3 つの風景が併存している場所です。圧倒的なスケールを持つ人工物である堤体の向こう側には、さまざまな動植物が生息するダム湖が広がっています。秋には紅葉を求めてたくさんの観光客がこの地を訪れ、冬には表面の凍った湖の上に真っ白な雪が降り積もります。このように、眼を向ける方向や、時間帯•季節によって、顕在化する場所の特徴が大きく変わる場所だと感じました。

そこで、これらの 3 つの風景が持つ魅力を生活に取り込むと同時に、 3 つの風景に対して新たな価値を与えることのできる建築を目指しました（Fig.2-5）。

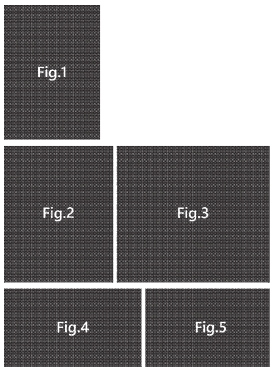
話し合うこと

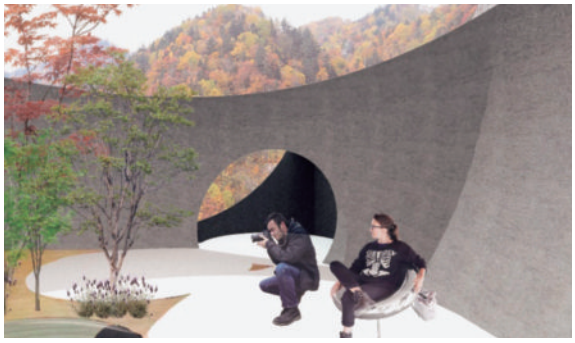
制作のプロセスのなかでは、ふたりで話し合うことが重要な役割を持っていました。話し合いの中での共鳴や衝突から、自分ひとりでは思いつかないアイデアが出てきます。それぞれが異なる切り口から考えることで、大胆な思考の飛躍が起こり、デザインの厚みが増していきます。

さらに、公開の最終審査会では、自分たちでは言語化できていなかった作品の魅力や、思ってもみなかったアイデアの発展可能性について、多くの講評をいただくことができました。まだまだ勉強不足であることを痛感しつつも、さらなる発展可能性へ期待をいただいたことを、とてもうれしく思っています。話し合うことは、建築を考えるために欠かせないプロセスであることを改めて実感しました。

今回の作品制作・審査で発見することのできたことがらを糧に、今後も思考と制作を展開していきたいと思います。

第 43 回　北の住まい住宅設計コンペ最優秀賞受賞作品「A HOUSE in/for Three Landscapes」





平成 29 年度	
北海道赤レンガ建築賞	松前町立松前中学校
北海道赤レンガ建築奨励賞	訓子府町幼保連携型認定こども園　わくわく園
北海道赤レンガ建築奨励賞	恵庭市生涯学習施設　かしわのもり

平成 29 年度　北海道赤レンガ建築賞

■主　　催■

(一財)北海道建築指導センター
(一財)北海道建設技術センター
(公社)日本建築家協会北海道支部
(一社)北海道建築士会
(一社)北海道建築士事務所協会
北海道

■趣　　旨■

地域社会の発展に貢献する創造性豊かな建築物等を表彰することにより、本道における建築創造活動を促進し、健全な地域文化の発展と広く建築文化に対する意識の高揚を進め、もって、地域に根ざしたまちづくりの推進などを図ることを目的とします。

■表 彰 内 容■

・北海道赤レンガ建築賞　1 点　表彰状、銘板
・北海道赤レンガ建築奨励賞　数点　表彰状
　両賞とも、北海道知事が建築主・設計者・施工者を表彰します。

■募 集 対 象■

北海道内に建設され、平成 29 年 3 月 31 日までに竣工した建築物及び建築物群とします。ただし、住宅など個人の利用に限定されるものは除きます。

■募 集 期 間■

平成 29 年 8 月 1 日から平成 29 年 9 月 1 日まで

■応募作品数■

32 作品

北海道赤レンガ建築賞実行委員会

(一財)北海道建築指導センター
(一財)北海道建設技術センター
(公社)日本建築家協会北海道支部
(一社)北海道建築士会
(一社)北海道建築士事務所協会
(一社)北海道設備設計事務所協会
(一社)日本建築構造技術者協会北海道支部
(公社)日本建築積算協会北海道支部
(一社)建築設備技術者協会北海道支部
(一社)北海道建設業協会
(一社)北海道電業協会
(一社)北海道空調衛生工事業協会
北海道管工事業協同組合連合会
(一社)北海道建築技術協会
北海道
※実行委員長(一財)北海道建築指導センター理事長
石塚　　弘

北海道赤レンガ建築賞審査委員会

委 員 長	羽深　久夫	札幌市立大学デザイン学部教授
副委員長	遠藤謙一良	(公社)日本建築家協会北海道支部長
委　　員	石塚　　弘	(一財)北海道建築指導センター理事長
委　　員	安藤　敏郎	(一社)北海道建築士事務所協会
委　　員	本間　惠美	(一社)北海道建築士会常務理事

平成 29 年度北海道赤レンガ建築賞

松前町立松前中学校

■建築主　松前町

■設計者　㈱象設計集団

■施工者　《小川・今井・佐々木特定建設共同企業体》
㈱小川建設
㈱今井工務店
《タマツ・森・阿部経常建設共同企業体》
タマツ電機工業㈱
㈲森電設
阿部電気
《池田・大明経常建設共同企業体》
池田煖房工業㈱
大明工業㈱
《西沢・森川・清水特定建設共同企業体》
㈱西沢工務店
㈱森川組
清水建設
《樺電・古海・真友経常建設共同企業体》
樺電工業㈱
真友電気
《サトウ・原田・川合経常建設共同企業体》
㈱サトウ設備工業
㈱原田設備工業
川合建設㈱

■建築物の概要

所　　在　　地：松前郡松前町字博多 265 番地
主 要 用 途：中学校
構造及び階数：木造 1 階
建 築 面 積：5,218.30 m²
延 べ 面 積：5,164.78 m²
竣 工 年 月 日：平成 27 年 8 月 31 日

□企画の特徴（地域との関わりなど、特に配慮した点）

松前中学校は、昭和 44 年に町内の 3 校を統合して誕生した学校で、建替え前の旧校舎は昭和 45 年に建設され、築 40 年以上を経過し老朽化が著しいことから、平成 25 年に改築に着手しました。改築後は、松前町内で唯一の中学校となることから、町のシンボルとなるよう、また様々なイベントなどでも中心的な役割を担う建物になるよう協議を重ね、その中でも特に強くこだわったのが、地域材である松前杉をふんだんに使用した「地材地消」の学校づくりでした。構造材としての利用はもちろんのこと、集成材として、また造作材として内装材や外装材、そして生徒が使用する机の天板まで、ありとあらゆるところに松前杉を利用し、温もりのある学校づくりを目指しました。

□設計の特徴

今までの学校という概念にとらわれず、全く新しいタイプの中学校を目指し設計を進め、基本的に 4 つのエリアに建物を分けて構成しました。それぞれのエリアは渡り廊下でつながれ、回廊を思わせる廊下からは、どこからでも中庭へ出られるようになっています。また全ての建物は木造在来工法で建てられ、大断面集成材などを使用して建てられる大規模木造建物群とは、一線を画す構造となっており、特に体育館棟のトラス構造は、この松前中学校を象徴する空間となっています。

また、「地材地消」以外の特徴として、ICT 機器を活用した ICT 教育を推進する無線 LAN の整備や、非常時に避難施設としての役割を担うという観点から、食料や毛布等を備蓄するのはもちろん、トイレの水を確保するための井戸や大型の自家用発電装置を備えた設計となっています。

□施工の特徴（工法の特徴、施工上の配慮、工夫等）

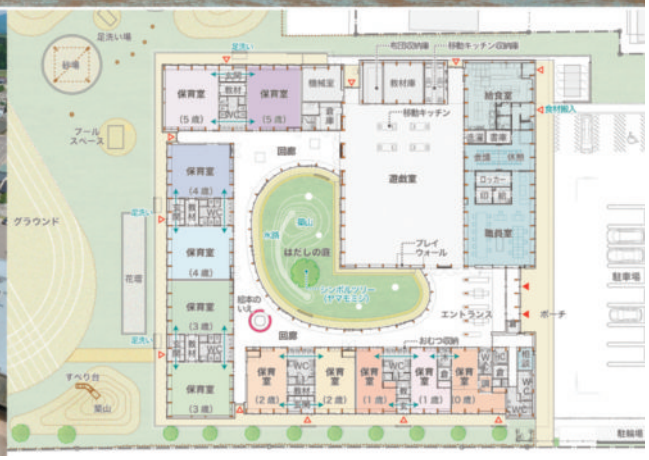
「地材地消」にこだわった松前中学校ですが、実際に建設に携わる人々も「オール松前」の名の下ほぼ全ての業種で地元の人々の協力がありました。特に、普段から木造在来工法に精通している大工さん達には、ほぼ着工から完成までお世話になり、大変ご苦労を掛けたことと思います。また施工中には、骨組みが立ち上がった段階で現場見学会を開催するなどして、松前杉を使用した「地材地消」の取り組みをアピールしました。

□完成後の地域への貢献度等

松前中学校が完成した後は、音楽鑑賞会の開催を始め、レバンガ北海道で活躍するプロバスケットボール選手を招いてのバスケットボール教室など、様々なイベントを開催するなどして、建物の有効活用を図っています。また、平成 29 年度には全面人工芝のサッカー場を含むグラウンド整備工事が完成することから、さらなる地域開放を含め、今後の展開を検討しているところです。

平成 29 年度北海道赤レンガ建築奨励賞

訓子府町幼保連携型認定こども園　わくわく園



■建築主　訓子府町
■設計者　㈱久米設計　札幌支社
■施工者　《北成・久島・丸建特定建設工事共同企業体》
北成建設㈱
久島工業㈱
丸建工業㈱
天内工業㈱

■建築物の概要
所　　在　　地：常呂郡訓子府町旭町 75 番地
主 要 用 途：認定こども園
構造及び階数：木造 1 階
建 築 面 積：2,080.68 m²
延 べ 面 積：1,902.06 m²
竣 工 年 月 日：平成 28 年 10 月 31 日

□企画の特徴（地域との関わりなど、特に配慮した点）

本施設は老朽化した幼稚園・保育園の建替・統合に伴い、多様化する保育ニーズに対応すると共に、隣接する役場・子育て支援センターと連携を図りながら子どもに関わる相談・支援を一元的に担う認定こども園として設立しました。園舎構造材には町有林の伐期を迎えた約 2 千本のカラマツを使用し、床材には姉妹町・高知県津野町産材ヒノキを用いた温かみのある空間の創出と、足裏からの刺激により健やかな発達を促す「はだし教育」を実現しました。また、地中熱や太陽光等の自然エネルギーを最大限に活用し、災害時にも一次避難施設として有効に機能するよう計画しました。町の資源と町の開拓に縁のある姉妹町の資源や自然・再生エネルギーを活用し、子ども達の健やかな成長を促す温かみのある空間を創出するとともに、訓子府町開基 120 周年を迎えるに相応しい施設づくりを目指しました。

□設計の特徴

町民及び町内事業所に関連する 0 歳から 5 歳までの約 200 名の子ども達が通う、訓子府町唯一の認定こども園です。年齢毎に活動が異なる保育室は独立した生活環境を確保し、園内から

裸足のまま駆け出し活動出来る「はだしの庭（芝生の中庭）」を中心に回廊で繋ぐ平面構成としました。異年齢や障がいをもつ園児らが共に生活し、様々な遊びや学びを共有しながら日常的に「ふれあい」や「たすけあい」が生まれる場となることを目指しました。園舎は外壁耐火の準耐火木造建築物（燃え代層不要）とすることで材積量とコストを抑えながら木の露出面積が大きく、回廊を中心に「互いに支え合う」構造形式が際立つ空間としました。地元食材を用いた給食調理が見える遊戯室や、移動キッチンによるライブ調理など「農業のまち」における様々な食育の展開を可能とし、町の資源・自然を活用した保育・教育・木育・食育により、郷土愛が醸成される子育て支援の核となる施設を目指しました。

□施工の特徴（工法の特徴、施工上の配慮、工夫等）

保育室と回廊の集成材柱・梁は見付 120 mm で統一され、その梁は回廊で交わり格子状となる構造デザインとなっています。園舎全体が木の構造体を積極的に見せる意匠となっており、ピットレベルで基礎・土間を一体化打設し、スラブ上で測量・墨出しを行った上で上部基礎を形成する 2 段階の施工とともに、アンカーフレームの活用や施工方法の効率化により短工期かつ高精度な建て方を実現しました。木架構を表しによる複雑な防火・防煙区画と配管配線納まりを監理者と密に打合せを行いながら施工を進めました。地中熱 HP 施工においては土中の温度変化を追跡調査できるよう温度センサーを自主設置し、CO_2 削減量及び省エネ率の解析を行い効率的な運用に役立てています。

□完成後の地域への貢献度等

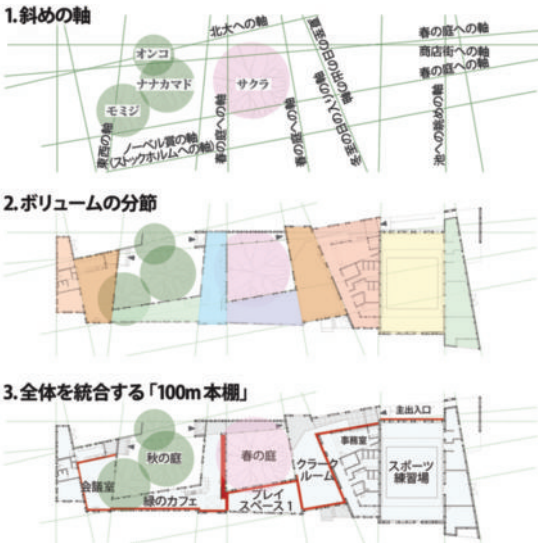
園舎完成後には町民、保護者をはじめ周辺市町村の職員や、森林組合、工務店、林業関係事業体、森林所有者等を招いての見学会を行い、約 400 名の参加者がありました。開設以来、保育・教育環境の充実により通園率が増加するとともに「この園に通わせたい」「安心して子育てができる」という理由から町内への移住・Uターンなどもあり、当初予想を超える園児数となっています。過疎化が進む地方都市において人口流出を抑制する魅力ある施設となっており、地方における認定こども園の好事例として近隣市町村をはじめ、全国各地から視察者が訪れています。

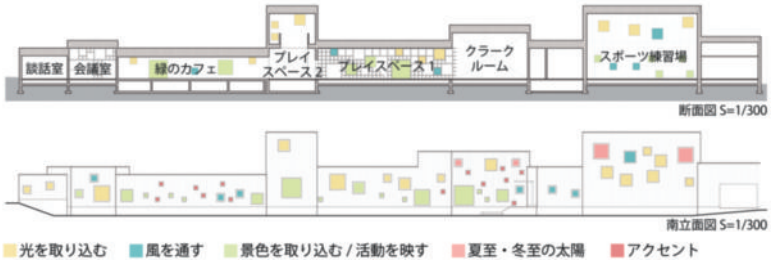
平成 29 年度北海道赤レンガ建築奨励賞

恵庭市生涯学習施設　かしわのもり

■建築主　恵庭市
■設計者　北海道大学工学研究院都市地域デザイン学
瀬戸口研究室
㈱エスエーデザインオフィス一級建築士事務所
㈱北洋設備設計事務所
■施工者　恵庭建設㈱
尾崎設備工業㈱
槌本電設工業㈱
■建築物の概要
所　　在　　地：恵庭市大町 1 丁目 5 番 7 号
主 要 用 途：生涯学習施設
構造及び階数：木造 1 階
建 築 面 積：1,016.64 m²
延 べ 面 積：949.67 m²
竣 工 年 月 日：平成 28 年 7 月 27 日

□企画の特徴（地域との関わりなど、特に配慮した点）
　恵庭市生涯学習施設かしわのもりは、恵庭開拓の起点として古い歴史を持つ柏地区に計画されました。「地域の子どもたちの教育拠点となる、図書館のような場所が欲しい」という住民の要望から、「次世代を担う子どもたちを地域が育む〝地育〟」をコンセプトに、子どもたちの知的好奇心を刺激し学びの場となる施設を計画しました。また、科学的興味を育てる科学実験教室や、生活の知恵を学ぶ宿泊学習の場、身体づくりの場であった佐伯武道館の建替が要望され、それら多様な地域活動の場が緩やかに繋がり、子どもを中心に多世代が集える施設を計画し





ました。計画段階ではワークショップにより地域住民と協働で建築を進めることで、住民によるカフェの運営等、住民自ら使い込んでいける建築を実現しました。

□設計の特徴

かしわのもりは多様な機能が求められたため、歴史あるサクラ、モミジ、オンコ、ナナカマドを活かすよう「斜めの軸」を設定し、94 m×20 m の細長い変形敷地を分節して計画しました。子どもなどの利用者の動きを誘発するために斜めの軸を活かして各部屋の平面形状は台形としました。施設全体に連続する「100 m 本棚」で、分節した居室同士を緩やかに繋げました。各居室は、科学実験教室が行える高天井と耐薬床仕上げの「クラークルーム」、武道ができる「スポーツ練習場」、地域の食事会のための「調理室付き会議室」等、地域固有の活動に合わせて設計しました。

□施工の特徴（工法の特徴、施工上の配慮、工夫等）

地域の歴史を継承する、樹齢 80 年のサクラ、モミジ、オンコ、ナナカマドを活かして建築形態や施工方法を決定しました。モミジの根を避けるよう片持ち基礎を採用し、枝振りを残すよう緑のカフェの高さを抑え、サクラを真近に愛でる屋上テラス、サクラに正対する 2 m× 2 m の大開口を計画しました。

建築は斜めの軸を基本に台形の居室群で構成し、細長い敷地でも広がりを感じるとともに、活動が一つの居室内に留まらずに遊動し、他の活動と融和して住民の交流を生み出すよう設計しました。複雑な建築形状でありながらも、木造在来軸組工法を採用することで施工費を抑えています。

「100 m 本棚」で採用した 400 mm グリッドを建築全体のモジュールとし、開口部や外装材の割付、天井高さ等、建築全体の寸法を決定しました。部材間の納まり等を標準化し、施工手間、部材ロスを抑えました。

□完成後の地域への貢献度等

「100 m 本棚」には住民の寄贈で集まった書籍が並び、本の紹介や読み聞かせ等、本による多世代交流が生まれています。クラークルームでは科学実験教室、会議室では親子料理教室等、子どもたちの好奇心を育むイベントが行われ、地域住民が子どもたちを育む「地育」が実践されています。「緑のカフェ」は地域住民により毎日運営され、誰もが気軽に利用できる居場所があります。「春の庭」ではサクラの花見や冬の雪遊び等、四季折々の遊びやイベントが開催され、施設が使い込まれています。年間利用者数は約 4 万人（市人口の 6 割）を見込み、かしわのもりは着実に市民の施設となっています。

また、2018 年 9 月 6 日に発生した北海道胆振東部地震の際にはかしわのもりは避難所として開設され、地域住民や旅行者などのべ 141 名に利用されました。7 日間、被災者への休憩・睡眠スペースの提供や生活必需品の配給などが施設で行われ、非常時でも市民の心の拠り所となる建築となっています。

審査講評

平成 29 年度（第 30 回）北海道赤レンガ建築賞は、32 作品の応募があり、第 13 回（平成 12 年）の 33 作品以降最大応募数となった。また、道央圏に集中することもなく、地域住民の日常に関わりのある施設が目立った。

この応募結果を受けて、9 月 7 日㈭に第 2 回審査委員会を開催して、審査員 5 名で改めて審査基準の確認を行った。北海道赤レンガ建築賞の主旨にあるように、「北海道赤レンガ建築賞は、地域社会の発展に貢献する創造豊かな建築物等を表彰することにより、建築文化の振興や地域に根ざしたまちづくりを推進させることを目的…」を踏まえ、「赤レンガ建築賞 20 周年によせて」（『北海道赤レンガ建築賞 1988-2007』平成 20 年 1 月刊、所収）にある越野武氏の「強く、正しく、美しく」を基本に、物語を紡ぐ建築であることを目指すことで合意した。また、建築主・設計者・施工者を表彰することで建築の力が地域の力になるようにとの審査員の想いをのせた。さらに、文化財保護法にあるように 50 年を経過すれば文化財建造物として基準の対象になるので、その基準の一つである「意匠的に優秀なもの」も重要な要素であると考えた。

この審査基準の検討を踏まえ、審査員 5 名でそれぞれ 5 作品を推薦し、2 票以上の作品ごとに推薦した審査員が作品ごとに講評を行い、次のとおり現地審査の対象作品を選出した。

①「訓子府町幼保連携型認定こども園わくわく園」（木造 1 階、延べ 1902.06 m²）
②「松前町立松前中学校」（木造 1 階、延べ 5164.78 m²）
③「恵庭市生涯学習施設かしわのもり」（木造 1 階、延べ 949.67 m²）
④「認定こども園カトリック聖園こどもの家」（鉄骨造 1 階、981.38 m²）
⑤「アシリ・和來」（木造 1 階、393.34 m²）
⑥「下川町まちおこしセンター　コモレビ」（木造 1 階、943.53 m²）
⑦「sitatte Sapporo　札幌フコク生命越山ビル」（鉄骨造地下 1 階地上 13 階、18844.44 m²）

上記の 7 作品を 2 次審査対象として、審査員 5 名全員と事務局で 10 月 4 日㈬から 10 月 23 日㈪にかけて現地審査を行った。

第 4 回審査委員会は、現地審査（7 作品の現地審査を第 3 回審査委員会とみなした）の実施後に、審査員 5 名が 7 作品の現地審査評を提出し、11 月 9 日㈭に開催した。第 2 回審査委員会で検討した審査基準を確認した上で、5 名の審査員が 3 ～ 4 作品を推薦したが、松前町立松前中学校、訓子府町幼保連携型認定こども園わくわく園、恵庭市生涯学習施設かしわのもり、認定こども園カトリック聖園こどもの家、の 4 作品を選出し、議論を行った結果、建築賞を松前町立松前中学校に、奨励賞を訓子府町幼保連携型認定こども園わくわく園と恵庭市生涯学習施設かしわのもりの 2 作品に選定した。なお、認定こども園カトリック聖園こどもの家は入選しなかったが、永山公園やサッポロビール園などから続く歴史性と緑のつながりを創出しながら、幼稚園と保育所の機能をシンプルでコンパクトに平面計画をまとめたことが評価できる。

平成 29 年度（第 30 回）北海道赤レンガ建築賞は、3 作品とも木造 1 階建ての建築となった。少子高齢化が進み、人口減少社会が現実となっている北海道で、179 市町村の中 3 市町の施設が選ばれ、災害時の利用も配慮した未来を担う子供や住民のための施設が受賞できたことは、北海道が赤レンガ賞で 30 年求めてきた地域の力となる建築を表彰してきた結果であり、偶然の所産ではないと審査員各自が確信したと思われる。

□平成 29 年度北海道赤レンガ建築賞　松前町立松前中学校

松前町立松前中学校は、国重要文化財である福山城（松前城）本丸御門・龍雲院・法源寺山門、国史跡である福山（松前氏）城跡・松前藩主松前家墓所など往時の松前氏城下町の西、字名が博多の地にあり、昭和 45 年に町内の 3 校を統合して開校した松前中学校を改築した町唯一の中学校である。全面人工芝をもつグランド越しに日本海を一望できる敷地に、既存施設の解体工事と新築工事を並行させて竣工させた。教育の場としての「学校」だけではなく、生活の場となり、環境意識を育み、地域施設となる町民みんなの学校に、加えて町のシンボルに、との将来への願いが城下町としての和風の意匠ではなく、洋風を感じさせるデザインを生んだのであろう。

平成 23 年 9 月の耐力度調査結果を踏まえ、施設整備基本構想と改築基本構想の策定、設計者選定プロポーザルの実施、基本設計案の町民ワークショップと地域説明会の開催、平成 25 年 8 月の第 1 期工事着工、平成 27 年 8 月第 2 期工事竣工まで、松前町と松前町民、設計者、施工者の良好な関係性が窺われる。町有林の松前杉（道南杉）を使用した在来工法による木造平屋建ては、道内企業による製材・集成加工・プレカットの流通と地元の施工者の参入を促している。これは、材料調達からの生産、今後の維持管理、解体までのライフサイクルコスト、二酸化炭素の抑制を考えれば、公共施設整備の妥当な方法であろう。

御髪山からの南勾配の敷地南にグラウンド、北に校舎群がある。西の体育館・武道場・音楽室は、木目が透けて見える一掃塗りで、隣接して連動し住民も使い易い配置である。東には職員室・ランチルーム・図書室、学校給食センターがある。グラウンドを見渡せる職員室は、開放感に溢れ、生徒の見守りと多目的な活動への対応も可能である。ランチルームはラチス状の耐力壁と洋小屋の架構が創り出す木の香漂う落ち着いた空間であり、学校給食センターは町内小学校の給食も担っている。体育館とランチルームに挟まれた中庭は、地元の漁師小屋をイメージしたカラフルな突出部をもつ立面に囲まれ、植栽と自然の緑、雪の白とも色合いが調和している。中庭に面する廊下を挟んで北側に教室・理科室・調理室、南側にワークスペース・教室・特別支援教室・保健室がある。廊下から中庭に突出した部分は、アルコーブ・小会議室・放送室・生徒会室に充てられ、町が推進している書道のための水場もある。トイレは

ブースごとに間仕切壁やタイルの色を違わせ、町内の屋号をくり抜いたシェードを使うなど細部にわたる配慮がみられる。武道館・音楽室・ランチルームはキングポストの三角屋根、体育館はトラスを組んだヴォールト状の屋根で南北を棟にしているので、南側立面のアクセントなるだけでなく、背後の山並みの稜線と調和している。また、ラチス状の耐力壁も漆喰の海鼠壁にもみえる。建築面積は5000 m² を越えているが、平屋建てにすることで木造が可能となり、天窓と南側からの自然採光を取り入れることができ、歴史的環境をもつ海沿いのまちにある明るい学び舎を生み出している。

以上の点を踏まえ、「松前町立松前中学校」は、地域社会の発展に貢献する創造豊かな建築であり、建築文化の振興や地域に根ざしたまちづくりに貢献し、意匠的にも優秀な建築であることを評価して平成29年度の北海道赤レンガ建築賞を贈る。

□平成29年度北海道赤レンガ建築奨励賞　訓子府町幼保連携型認定こども園　わくわく園

訓子府町幼保連携型認定こども園わくわく園は、老朽化した幼稚園・保育園の建替え時に統合し、近くに小中学校もある立地を活かして隣接する役場庁舎・子育て支援センターとの連携を図り、子供に関わる相談・支援を一元化するために設立された約200名の子供が通う施設である。

幼稚園と保育園に挟まれたグランドにこども園を新築し、南の幼稚園地を園庭、北の保育園地を駐車場とした。ヤマモミジをシンボルツリーにした中庭（はだしの庭）は裸足の活動を行う場であり、中庭を囲む回廊に接して東・南・西側に、2保育室の間にトイレ・教材庫・玄関を設けた保育室ユニットがある（東側は0～2歳児、南側は3～4歳児、西側は5歳児）。北側のエントランスに並び職員室・給食室があり、職員室・給食室の南に遊戯室が接している。中庭を囲む架構は、1.8 m スパンを基本にした門型フレームで（保育室の梁下2.6 m、遊戯室の梁下5.4 m）、回廊・エントランスは格子梁、柱・梁幅は町有林カラマツの樹径から見付120 mm と160 mm で統一した単純積層集成材を用いている。構造部材・木製品の大半を町と隣接する置戸町・北見市・津別町で調達し（床材は姉妹町・高知県津野町産ヒノキ）、設計を地元出身者が担当し、施工を地中熱ヒートポンプに実績のある地元業者が担当するなど町・設計者・施工者のチームワークは、わくわく園の誕生に大きく寄与したであろう。園児の気持ちを落ち着かせるために秘密基地のような読書スペースを回廊に設けたこと、保育室のテーマカラーに帽子の色、サイン色、トイレのタイル色を連動させたこと、遊戯室にイベント用の移動キッチンを設け、照明制御を可能にしたことなども町民も加えた協働の所産であろう。

平成24年から検討を行った「こども園基本計画書」に書かれた「こども園発信のまちづくり」は、設計ワークショップ、施工ワークショップ、木構造見学会、完成見学会の参加者数をみても支持されている。わくわく園は、障がい児も含めた5歳までの園児が裸足教育を通して触れ合い、助け合う場を表現する愛称だけでなく、町内の資源（人・森林）と自然エネルギー（太陽光・地中熱・風）を活用したまちづくりも推し進める中核施設である。総園児数が想定を超えていることは、安心して子育てができる環境が整い、町への移住・Uターンが促され、人口流出を抑え始めているためであろう。

以上の点を踏まえ、平成29年度の北海道赤レンガ建築奨励賞を贈る。

□平成29年度北海道赤レンガ建築奨励賞　恵庭市生涯学習施設　かしわのもり

恵庭市生涯学習施設かしわのもりは、太古と開拓の歴史を育んだ柏木川と漁川に挟まれた柏地区の旧国道36号線沿いの敷地に、地域の子供達の教育拠点となる図書館をという地域住民の願いにより創り出された建築である。10年以上前からの子供達の学びの場づくりという住民活動は、恵庭市を巻込み、住民に親しまれた佐伯武道館の建替を含んだコミュニティセンター＋寄贈本の貸出によるまちの図書室へと向かい、佐伯氏から「おとぎの国」づくりとして土地提供も叶えた。計画段階から市と大学の研究室と住民が協働し、施設を横断する寄贈本が並ぶ100 m 本棚、親子料理教室を行う会議室、高齢者団体が運営する緑のカフェ、プレイスペース、科学実験教室などのイベントを行うクラークルーム、事務室、武道館としてのスポーツ練習場の構成を生み出している。

敷地は南北に細長く、東に旧国道36号線、西に佐伯氏の庭園が接し不整形である。既存のサクラを残す春の庭、モミジ・オンコ・ナナカマドを残す秋の庭を活かし、南北にノーベル賞の軸・北大の軸と東西に夏至の軸・冬至の軸を設定し、各室のボリュームを結節させ、100 m 本棚で一体化させた空間構成は設計者の知的な腕力を感じさせる。東側立面と西側立面の開口は、東西軸を活かしながら、採光・通風・視線を考慮したファサードのアクセントにもなっている。木造在来軸組工法を用いて台形の居室群を組み合わせ、本の規格をもとにした400 mm モデュールで建築寸法を決めたことにより、100 m 本棚に付属する遊具・収納棚などを含め全体に統一感を生んでいる。緑・黄・青系統のテーマカラーは、各居室の本棚の背板に対応し、空間の分節をもたらしている。春の庭のサクラ、秋の庭のモミジ、柏地区のシンボル柏の葉によるサインは、地域住民が四季折々、気軽に訪れ親しむのに相応しい装置といえる。

恵庭市は、約3000年前の漆製品を納めた合葬墓遺跡がある国史跡カリンバ遺跡と国重要文化財北海道カリンバ遺跡墓坑出土品で注目されるだけでなく、「子ども読書の街」をめざした恵庭市立図書館で第5回（平成4年度）北海道赤レンガ建築賞を、また、恵庭市黄金ふれあいセンターで第26回（平成25年度）北海道赤レンガ建築奨励賞を受賞している。かしわのもりは、恵庭の長い歴史と住民の誠実な願いが結実した優れた建築である。

以上の点を踏まえ、平成29年度の北海道赤レンガ建築奨励賞を贈る。

北海道赤レンガ建築賞審査委員長　羽深　久夫（札幌市立大学デザイン学部　教授）

平成 29 年度

高校生建築デザインコンクール

課題／「北海道子どもの国公園 水景（噴水）施設の利用者休憩所としての四阿」

■はじめに

公共建築物は、行政や教育・文化、医療・福祉、研究など、さまざまな分野で、地域の産業や人々の生活に密接な関わりを持ち、地域の活性化や道民生活の向上、気候風土等と調和した魅力あるまちづくりを推進する上で重要な役割を果たしています。

道では、道内の建築を志す高校生の勉学の励みとし、将来の建築技術者となる若年層の育成を図るとともに、道民に愛され親しまれる施設整備を進めるため、道内の建築系学科に在籍する高校生を対象に、夢のあるユニークなデザインを募集する「高校生建築デザインコンクール」を平成 8 年度から実施しています。

平成 12 年度からは、公益社団法人日本建築家協会北海道支部、一般社団法人北海道建築士事務所協会、一般社団法人北海道建築士会との共催事業となり、平成 29 年度で 22 回目の開催となります。

平成 29 年度開催のコンクールでは、砂川市の北海道こどもの国の水景施設整備に伴い、新たに利用者のための休憩所として整備を予定している「四阿（あずまや）」を設計課題として募集したところ、 7 校 152 名から 108 作品の応募がありました。

休憩施設は 24 名程度が休憩することを想定し、ベンチやテーブルを配置し、車いすでも使用できるよう、また水景施設で遊ぶ子どもを保護者が見守れるよう配慮することなどを求めたところ、高校生らしい創造性にあふれた作品が数多く寄せられました。

応募された皆様には、心からお礼申し上げます。

厳正な審査を経て、最優秀作品賞 1 作品、優秀作品賞 3 作品、佳作 4 作品、特別賞 2 作品が選定されました。受賞者の皆様、誠におめでとうございます。

このコンクールに参加した皆様が公共建築物について考え、作品製作の過程で学んだ経験は、今後建築技術者として第一線で活躍される上で貴重な財産になるものと期待しています。

平成 29 年度 高校生建築デザインコンクールの実施概要

道内の建築を志す高校生の勉強の励みとし、将来の建築技術者となる若年層の育成と技術向上に寄与することを目的として、平成 8 年度から「高校生建築デザインコンクール」を実施しています。

道内の高等学校（建築系学科）に在籍する生徒から夢のあるユニークなアイデアを募集するものです。

最優秀作品に選ばれた作品の提案主旨は、道において、設計に取り入れ道民に親しまれる施設となるよう建設を進めていきます。

1 課題

「北海道子どもの国公園　水景（噴水）施設の利用者休憩所としての四阿」

車いすの方が利用でき、水景（噴水）施設で遊ぶ子供を保護者の方が見守れるよう設計してください。

2 応募資格

道内高等学校（建築系学科）に在籍する個人又は 3 名以下のグループ

3 提出図面

JIS 規格Ａ 2 判（420 mm×594 mm）横置き 1 枚

片面に下記の全ての図面を描く

(1)　作品タイトル
(2)　設計主旨
(3)　配置図・平面図　1/300・1/50
(4)　断面図　1/50
(5)　立面図　1/50
(6)　スケッチ
(7)　面積表

4 応募作品

152 名から 108 作品の応募

5 入選作品

最優秀作品 1 作品・優秀作品 3 作品・佳作 4 作品・特別賞 2 作品

6 経過

募集要項配付　平成 29 年 5 月 26 日
作 品 受 付　平成 29 年 8 月 21 日から
平成 29 年 8 月 31 日まで
選 定 委 員 会　平成 29 年 9 月 7 日
作　品　展　平成 30 年 1 月 11 日から
平成 30 年 1 月 12 日まで

7 選定委員

十河　昌司（公益社団法人日本建築家協会北海道支部　教育委員会教育委員長）
重網　博美（一般社団法人北海道建築士事務所協会　業務・技術委員会担当副会長）
針ヶ谷拓己（一般社団法人北海道建築士会　常務理事・まちづくり委員長）
山本　明敏（北海道教育庁学校教育局高校教育課長）
服部　勝雄（北海道建設部建築局建築整備課長）

審査講評

「高校生建築デザインコンクール」は、道内の建築系学科の高等学校に在籍する生徒の皆様から、道が整備する公共建築物のデザインについて、高校生らしい夢のあるユニークなアイデアを広く募集するとともに優れた作品を表彰しているものです。

今年度は、砂川市の北海道子どもの国に利用者のための休憩施設として整備を予定している「四阿」を設計課題としたところ、108 作品という例年より多い作品の応募がありました。今年度も多くの関係者のご協力により、高校生建築デザインコンクールを盛会に進めることができました。

選定委員を代表して、関係者の皆様にお礼を申し上げます。

応募作品は、水景施設と連携したデザインで四阿を利用する子ども達の遊び心をくすぐりそうな魅力ある作品や高校生らしい若々しい発想による外観のデザイン、構造など工夫された設計の提案が数多く見られました。何より、多くの作品から子どもの国で遊ぶ親子連れが四阿でくつろいでほしいという思いが伝わってきました。

応募のあった作品については、「高校生らしい若々しさと創造性にあふれているか」「設計のコンセプトやデザインに魅力があるか」「立地条件を活かしているか」「実施設計に反映させ得るデザインであるか」といった観点から厳正に審査を行い、最優秀作品 1 作品、優秀作品 3 作品、佳作 4 作品、特別賞 2 作品を選定いたしました。

このほか、惜しくも入賞されなかった作品の中にも、高校生らしい創造性にあふれたデザイン提案が数多くありました。

このコンクールへ参加したことにより、さらに建築に対する関心を高め、建築技術を学ぶ皆様の学習意欲の高揚や将来の建築関連分野への進路選択にもつながることを期待しております。

今回、ご応募いただきました皆様のこれからのご活躍をお祈りし、審査総評とさせて頂きます。

平成 29 年度高校生建築デザインコンクール選定委員会
委員長　北海道建設部建築局建築整備課長　**服部　勝雄**

平成 29 年度 高校生建築デザインコンクール入賞者一覧

最優秀作品賞（1 作品）

田村　祐太（北海道苫小牧工業高等学校　3 年）
菅原　　拓（北海道苫小牧工業高等学校　3 年）
澤田　元輝（北海道苫小牧工業高等学校　3 年）

優秀作品賞（3 作品）

髙杉　　后（北海道苫小牧工業高等学校定時制　2 年）
津田　美沙（北海道苫小牧工業高等学校定時制　2 年）

武藤　烈紀（北海道苫小牧工業高等学校　3 年）
佐藤　柊太（北海道苫小牧工業高等学校　3 年）
千葉　天音（北海道苫小牧工業高等学校　3 年）

横内　美紀（北海道函館工業高等学校　3 年）

佳　　作（4 作品）

工藤　　葵（北海道苫小牧工業高等学校　3 年）

袖山　　龍（北海道苫小牧工業高等学校　3 年）
枝松　大夢（北海道苫小牧工業高等学校　3 年）

江良　友希（北海道函館工業高等学校　3 年）

阿部　祐也（北海道留萌千望高等学校　3 年）

特　別　賞（2 作品）

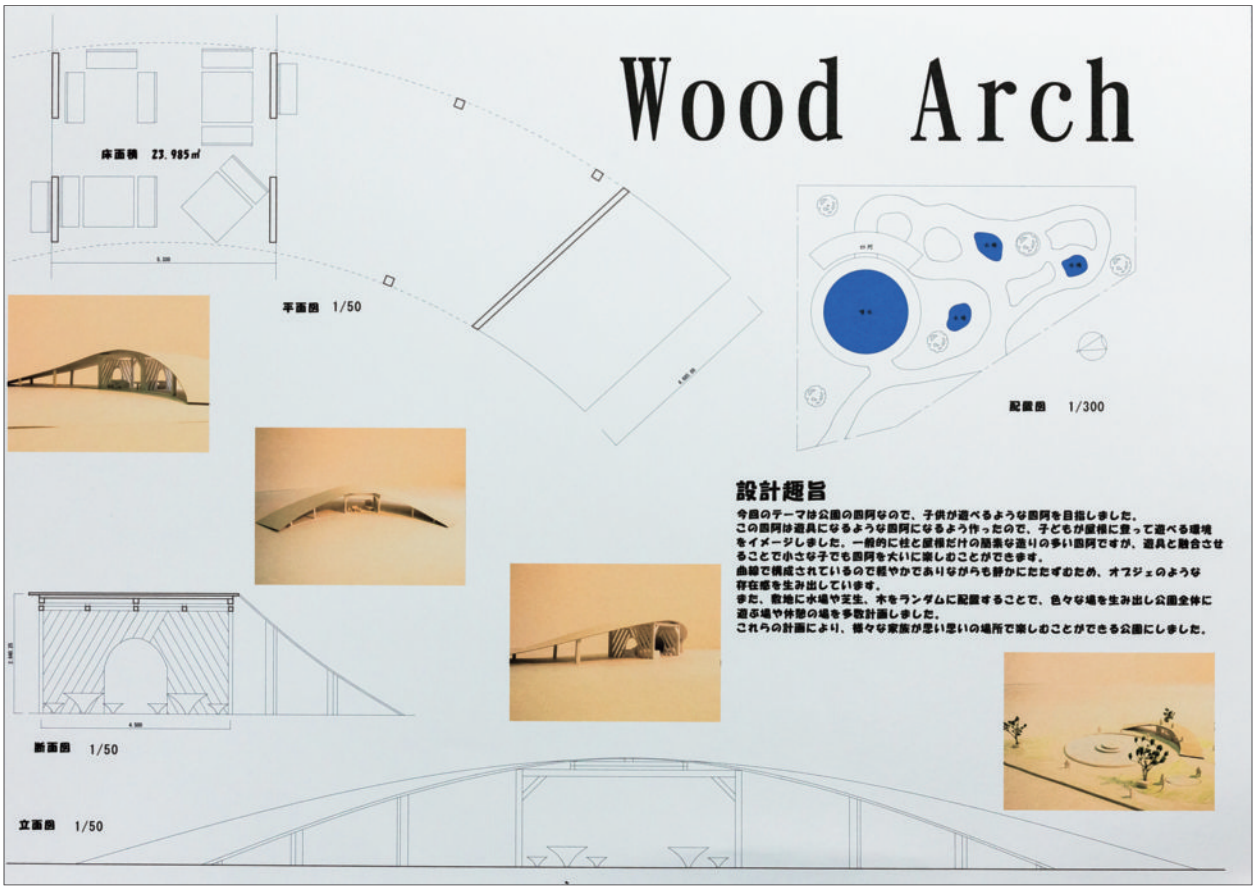
後藤　克之（北海道苫小牧工業高等学校　3 年）

高田　祐希（北海道苫小牧工業高等学校　3 年）

入賞作品

最優秀作品賞

北海道苫小牧工業高等学校
田村　祐太（３年）
菅原　　拓（３年）
澤田　元輝（３年）



作品名　「Wood Arch」

設計趣旨

今回のテーマは公園の四阿なので、子供が遊べるような四阿を目指しました。
この四阿は遊具になるような四阿になるように作ったので、子供が屋根に登って遊べる環境をイメージしました。一般的に柱と屋根だけの簡素な造りの多い四阿ですが、遊具と融合させることで小さな子でも四阿を大いに楽しむことができます。
曲線で構成されているので軽やかでありながらも静かにたたずむため、オブジェのような存在感を生み出しています。
また、敷地に水場や芝生、木をランダムに配置することで、色々な場を生み出し公園全体に遊ぶ場や休憩の場を多数計画しました。
これらの計画により、様々な家族が思い思いの場所で楽しむことができる公園にしました。

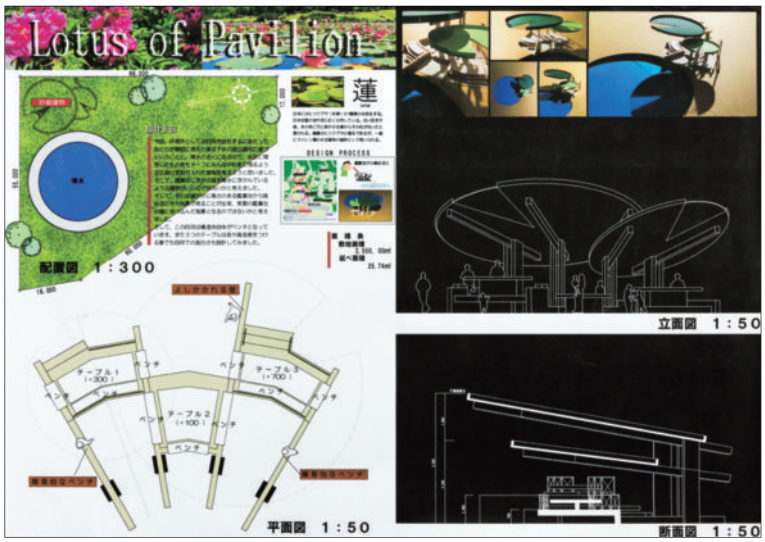
審査講評

水景施設と公園利用の条件をよく理解し、ユニバーサルデザインにも配慮された魅力ある提案である。
池を囲むように地面から屋根が立ち上がりアーチを描いて噴水や周囲との一体感があり、オブジェとしての外観やエリア全体の構成が高く評価された。

優　秀
作品賞

北海道苫小牧工業高等学校定時制

髙杉　　后（２年）
津田　美沙（２年）



作品名　「Lotus of Pavilion」

設計趣旨

今回、休憩所としての四阿を設計するにあたって私たちが最初に考えた事は、子供の国公園内に建つということと、噴水の近くにあるので、水辺に関係したものをモチーフにみんなの印象に残るような仕掛けを取り入れた建物を考えようと思いました。

そこで、鑑賞池に浮かぶ蓮を噴水に浮かんでいるような建物がいいのではないかと考えました。そして、それは緩やかに高さのある鑑賞池から眺めるとその光景が見ることが出来、実際の鑑賞池の蓮に溶け込んだ風景となるのではないかと考えました。

そして、この四阿は構造体自体がベンチとなっています。また、３つのテーブルは各々高低差をつける事でも四阿での面白さも設計してみました。

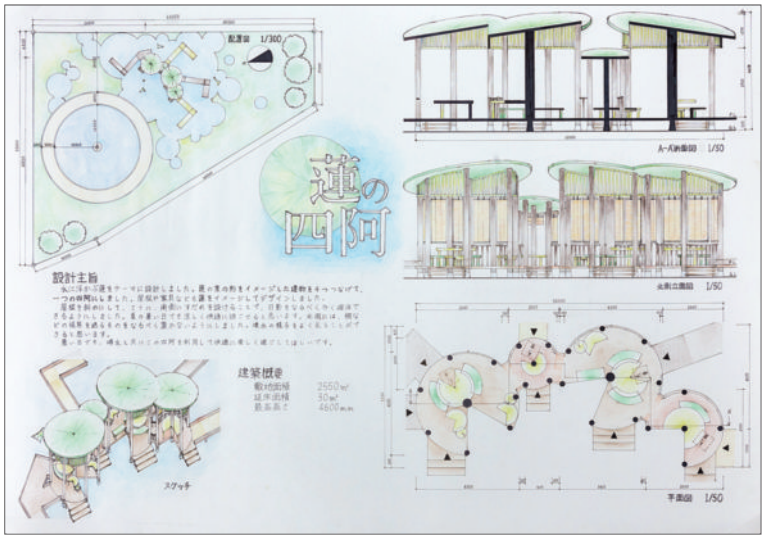
審査講評

噴水との関連付けが美しく、屋根の形状やベンチに変化があり、斬新なデザインが評価された。

優　秀
作品賞

北海道函館工業高等学校

横内　美紀（３年）



作品名　「蓮の四阿」

設計趣旨

水に浮かぶ蓮をテーマに設計しました。蓮の葉の形をイメージした建物を４つつなげて、一つの四阿にしました。屋根や家具なども蓮をイメージしてデザインしました。

屋根を斜めにして、さらに、南側にすだれを設けることで、日影をなるべく多く確保できるようにしました。夏の暑い日でも涼しく快適に過ごせると思います。

北側には、柵などの視界を遮るものをなるべく置かないようにしました。噴水の様子をよく見ることができると思います。

暑い日でも、噴水と共にこの四阿を利用して快適に楽しく過ごしてほしいです。

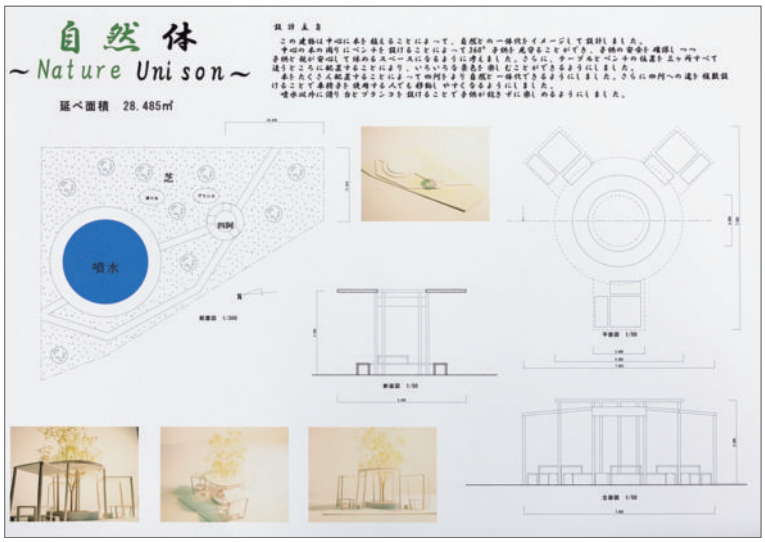
審査講評

蓮の葉の屋根の高さを変えて四阿を独立させ、アクセントを持たせた質の高いデザインが評価された。

優　秀
作品賞

北海道苫小牧工業高等学校

武藤　烈紀（３年）
佐藤　柊太（３年）
千葉　天音（３年）



作品名　「自然体～Nature Unison～」

設計趣旨

この建物は中心に木を植えることによって、自然との一体化をイメージして設計しました。
中心の木の周りにベンチを設けることによって 360°子供を見守ることができ、子供の安全を確保しつつ子供と親が安心して休めるスペースになるように考えました。さらにテーブルとベンチの位置を三ヶ所すべて違うところに配置することより、いろいろな景色を楽しむことができるようにしました。
木をたくさん配置することによって四阿をより自然と一体化できるようにしました。さらに四阿への道を複数設けることで車椅子を使用する人でも移動しやすくなるようにしました。
噴水以外に滑り台とブランコを設けることで子供が飽きずに楽しめるようにしまた。

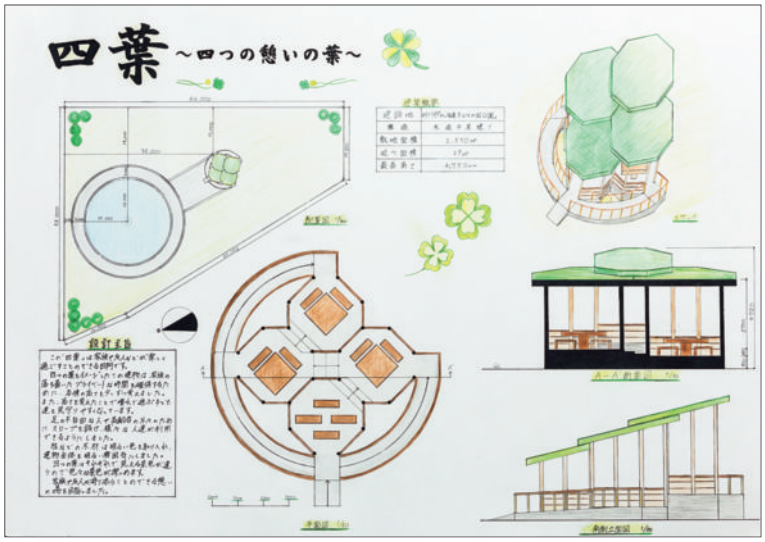
審査講評

四阿の中に木を植えるというアイディアや中央の屋根をくり抜いた樹木を中心にやや低い屋根の四阿がかろやかで美しいデザインが評価された。

佳　作

北海道函館工業高等学校

江良　友希（３年）



作品名　「四葉～四つの憩いの葉～」

設計趣旨

この「四葉」は家族や友人などが楽しく過ごすことのできる四阿です。
四つの葉をイメージしたこの建物は。家族の落ち着いたプライベートな時間を確保するために、各棟の高さを少しずつ変えました。また、高さを変えたことで噴水で遊ぶ子ども達を見守りやすくなっています。
足の不自由な人や高齢者の方々のためにスロープを設け、様々な人達が利用できるようにしました。
柱などの木材は明るい色を取り入れ、建物全体を明るい雰囲気にしました。
四つの葉はそれぞれで見える景色が違うので色々な景色が楽しめます。
家族や友人が寄り添うことのできる憩いの場を目指しました。

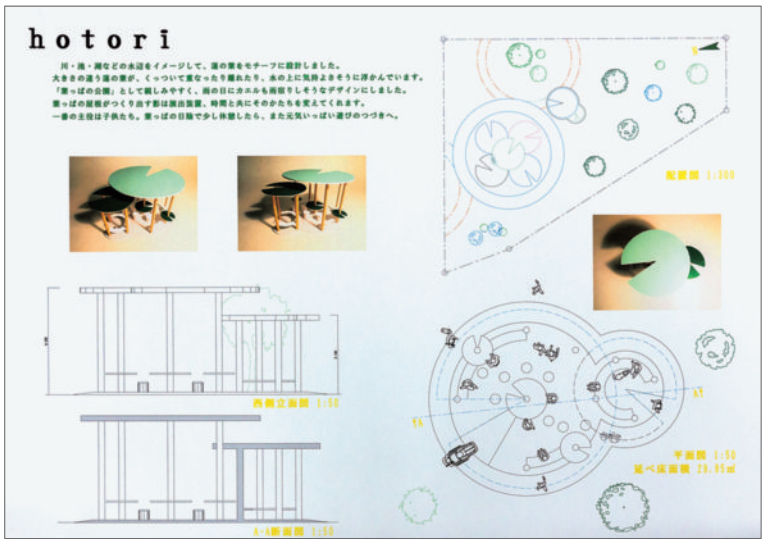
審査講評

４つの独立した四阿と円路の組み合わせは建物に広がりを与え、また四葉に高低差をつけ、その外周にスロープをまわすという工夫が評価された。

佳　作

北海道苫小牧工業高等学校

工藤　　葵（３年）



作品名　「hotori」

設計趣旨

川・池・湖などの水辺をイメージして、蓮の葉をモチーフに設計しました。
大きさの違う蓮の葉が、くっついて重なったり離れたり、水の上に気持ちよさそうに浮かんでいます。
「葉っぱの公園」として親しみやすく、雨の日にカエルも雨宿りしそうなデザインにしました。葉っぱの屋根がつくり出す影は演出装置、時間と共にそのかたちを変えてくれます。
一番の主役は子どもたち。葉っぱの日陰で少し休憩したら、また元気いっぱい遊びのつづきへ。

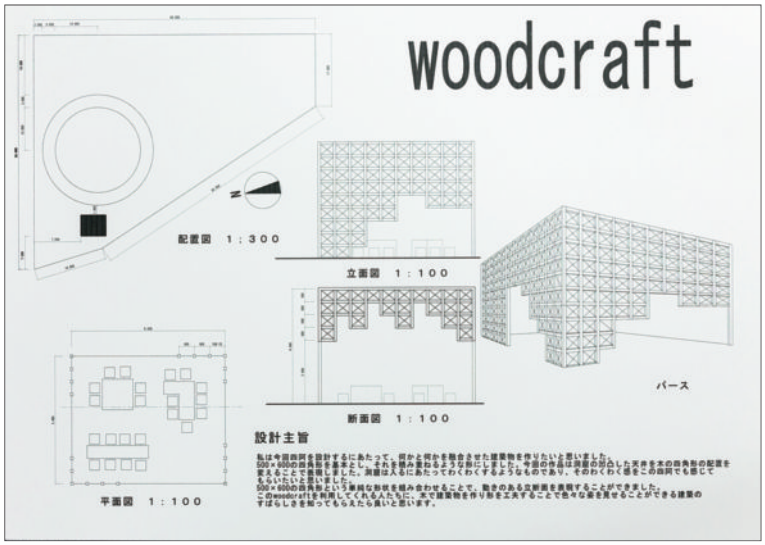
審査講評

蓮の葉の形状を上手に使ったデザインで、若々しさが感じられることが評価された。

佳　作

北海道留萌千望高等学校

阿部　裕也（３年）



作品名　「woodcraft」

設計趣旨

私は今回四阿を設計するにあたって、何かと何かを融合させた建築物を作りたいと思いました。
500×600の四角形を基本とし、それを積み重ねるような形にしました。今回の作品は洞窟の凹凸した天井を木の四角形の配置を変えることで表現しました。洞窟は入るにあたってわくわくするようなものであり、そのわくわく感をこの四阿でも感じてもらいたいと思いました。
500×600の四角形という単純な形状を組み合わせることで、動きのある立断面を表現することができました。
このwoodcraftを利用してくれる人たちに、木で建築物を作り形を工夫することで色々な姿を見せることができる建築のすばらしさを知ってもらえたら良いと思います。

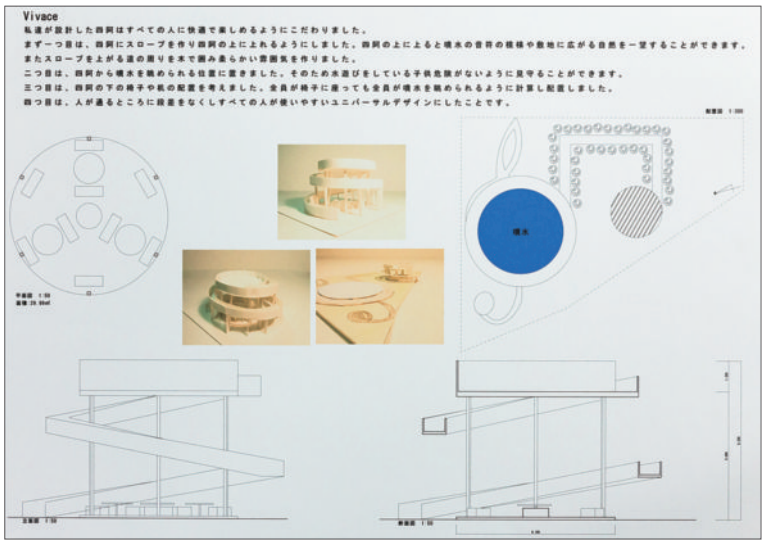
審査講評

四角形のグリッドを立体的に組み合わせ、様々なリズムを生み出している独創的なデザインが評価された。

佳　作

北海道苫小牧工業高等学校

袖山　　龍（３年）
枝松　大夢（３年）



作品名　「Vivace」

設計趣旨

私たちが設計した四阿はすべての人に快適で楽しめるようにこだわりました。
まず、一つ目は、四阿にスロープを作り四阿の上に上がれるようにしました。四阿の上に上がると噴水の音符の模様や敷地に広がる自然を一望することができます。また、スロープを上がる道の周りを木で囲み柔らかい雰囲気を作りました。
二つ目は、四阿から噴水を眺められる位置に置きました。そのため水遊びをしている子どもに危険がないように見守ることができます。
三つ目は、四阿の下の椅子や机の配置を考えました。全員が椅子に座っても全員が噴水を眺められるように計算し配置しました。
四つ目は、人が通るところに段差をなくしすべての人が使いやすいユニバーサルデザインにしたことです。

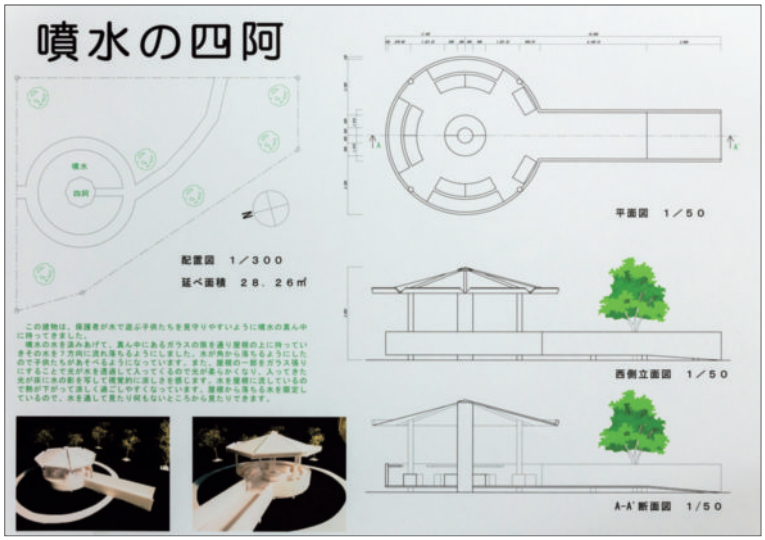
審査講評

円形平面の中心部レイアウトがきれいにまとまっている。外周のスロープの発想が評価された。

特別賞

北海道苫小牧工業高等学校

後藤　克之（３年）



作品名　「噴水の四阿」

設計趣旨

この建物は、保護者が水で遊ぶ子どもたちを見守りやすいように噴水の真ん中にもってきました。
噴水の水を汲み上げて、真ん中にあるガラスの筒を通り屋根の上に持っていき、その水を７方向に流れ落ちるようにしました。水が角から落ちるようにしたので子どもたちが遊べるようになっています。
また、屋根の一部をガラス張りにすることで光が水を透過して入ってくるので光が柔らかくなり、入ってきた光が床に水の影を写して視覚的に涼しさを感じます。
水を屋根に流しているので熱が下がって涼しく過ごしやすくなっています。屋根から落ちる水を限定しているので、水を通して見たり何もないところから見たりできます。

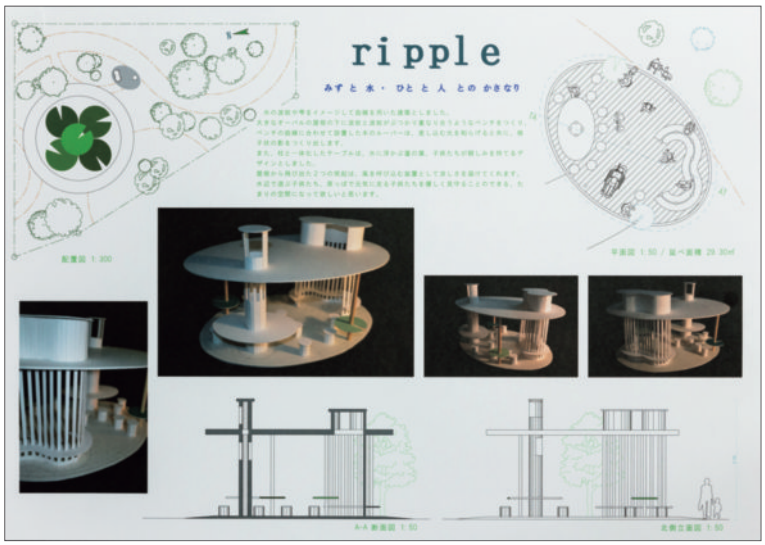
審査講評

中心がガラスになっていることで、夏は冷却効果が期待できる。涼を感じる作品であり、四阿を噴水に置くという発想が評価された。

特別賞

北海道苫小牧工業高等学校

高田　祐希（３年）



作品名　「ripple」

設計趣旨

水の波紋や雫をイメージして曲線を用いた建築としました。
大きなオーバルの屋根の下に波紋と波紋がぶつかり重なり合うようなベンチをつくり、ベンチの曲線に合わせて設置した木のルーバーは、差し込む光を和らげると共に、格子状の影をつくり出します。
また、柱と一体化したテーブルは、水に浮かぶ蓮の葉、子供たちが親しみを持てるデザインとしました。屋根から飛び出した２つの突起は、風を呼び込む装置として涼しさを届けてくれます。
水辺で遊ぶ子共たち、原っぱで元気に走る子共たちを優しく見守ることのできる、たまりの空間になって欲しいと思います。

審査講評

円筒が風を呼び込み、環境に配慮している。円形をうまく使ったユニークなデザインが評価された。

平成 29 年度高校生建築デザインコンクール応募者名簿

北海道札幌工業高等学校
- 川端　賢人［３年］

北海道小樽工業高等学校
- 明石　涼馬［３年］
- 大高　隼人［３年］
- 小熊　健太［３年］
- 小原ほのか［３年］
- 金田　優花［３年］
- 木村　凜［３年］
- 木元　宥輝［３年］
- 小林　亮太［３年］
- 櫻井　楓［３年］
- 佐々木要人［３年］
- 佐藤　翔太［３年］
- 佐藤　晴海［３年］
- 嶋田　優希［３年］
- 白岩　孝汰［３年］
- 須貝　龍哉［３年］
- 鈴木　優斗［３年］
- 田中　浩堅［３年］
- 中村　美慧［３年］
- 中谷　唯人［３年］
- 本間　士温［３年］
- 山口　拓人［３年］
- 山田　龍二［３年］
- 小間　拓海［３年］
  田中　蒼［３年］
  ２名グループ
- 本間　浩暉［３年］
  寺戸　友唯［３年］
  ２名グループ
- 野呂　みう［２年］
  滝澤実由希［２年］
  ２名グループ
- 三上　晏弘［２年］
  韮澤　一弥［２年］
  ２名グループ
- 竹田　一輝［２年］
  平野　温人［２年］
  ２名グループ
- 市川　青空［２年］
  石黒　竜也［２年］
  ２名グループ
- 喜多　策也［２年］
  小野　龍介［２年］
  ２名グループ
- 本間　未悠［２年］
  佐藤　亜紗［２年］
  ２名グループ
- 爰地　芽依［２年］
  坂本奈々美［２年］
  齊　麗奈［２年］
  ３名グループ
- 徳保　光［２年］
  熊川蒼一朗［２年］
  嶋津　綾［２年］
  ３名グループ
- 中川　涼音［２年］
  芳賀友里亜［２年］
  松原小都里［２年］
  ３名グループ
- 大隅冴太朗［２年］
  相原　悠希［２年］
  佐藤　友哉［２年］
  ３名グループ

北海道苫小牧工業高等学校
- 袖山　龍［３年］
  枝松　大夢［３年］
  ２名グループ
- 田村　祐太［３年］
  菅原　拓［３年］
  澤田　元輝［３年］
  ３名グループ
- 永井　拓武［３年］
  田中　諒［３年］
  丸山　龍一［３年］
  ３名グループ
- 福田　晋作［３年］
  吉田　海流［３年］
  吉村　玲［３年］
  ３名グループ
- 武藤　烈紀［３年］
  佐藤　柊太［３年］
  千葉　天音［３年］
  ３名グループ
- 小山　祐介［３年］
  青木　大心［３年］
  相澤　一寿［３年］
  ３名グループ
- 和田　亮治［３年］
  太田　隼輔［３年］
  須藤　百萌［３年］
  ３名グループ
- 佐々木辰也［３年］
  佐藤　彗伍［３年］
  菅原　光夢［３年］
  ３名グループ
- 舟山　彩音［３年］
  湯沢　空也［３年］
  渡邊　崇仁［３年］
  ３名グループ
- 高橋　祐太［３年］
  千葉　士吹［３年］
  引田　智也［３年］
  ３名グループ
- 山下　耀［３年］
  野沢　龍臣［３年］
  ２名グループ
- 野田　海力［３年］
  盤木　茜里［３年］
  ２名グループ
- 工藤　葵［３年］
- 板垣　政則［３年］
  髙橋　和真［３年］
  庄野　純輝［３年］
  ３名グループ
- 後藤　克之［３年］
- 高田　祐希［３年］

北海道苫小牧工業高等学校定時制
- 及川このみ［４年］
- 髙杉　后［２年］
  津田　美沙［２年］
  ２名グループ
- 佐藤　輩人［２年］
  清水　広行［２年］
  ２名グループ

北海道函館工業高等学校
- 穴田　香帆［３年］
- 泉　陽子［３年］
- 江良　友希［３年］
- 川﨑　月［３年］
- 工藤　由貴［３年］
- 小林　未空［３年］
- 佐々木怜奈［３年］
- 佐藤　文香［３年］
- 菅原　安佑［３年］
- 髙橋　彩友［３年］
- 花坂　亮太［３年］
- 本間　悠矢［３年］
- 松倉　綾人［３年］
- 山田　琢流［３年］
- 横内　美紀［３年］
- 横内　里帆［３年］
- 吉田　琳音［３年］
- 米田　圭杜［３年］
- 東　若菜［２年］
- 伊山月秋乃［２年］
- 菊池　奨真［２年］
- 紺谷　匡乃［２年］
- 佐々木愛可［２年］
- 佐々木塔子［２年］
- 佐々木楓華［２年］
- 佐藤万菜保［２年］
- 谷藤　らな［２年］
- 千葉奈々子［２年］
- 中川詩生里［２年］
- 中元　萌衣［２年］
- 野村　多究［２年］
- 藤広　瀬奈［２年］
- 三浦茉奈果［２年］
- 三浦未智花［２年］
- 山本絵里佳［２年］

北海道旭川工業高等学校
- 高松　奈菜［３年］
- 板垣　利来［３年］

北海道留萌千望高等学校
- 青山　直生［３年］
- 阿部　祐也［３年］
- 伊藤　竜生［３年］
- 宇治創一朗［３年］
- 尾泉　雅也［３年］
- 神部　祐嗣［３年］
- 清島亜斗武［３年］
- 工藤翔太郎［３年］
- 里深　慶也［３年］
- 丹野　拓弥［３年］
- 坪田　悠輔［３年］
- 飛島　颯斗［３年］
- 本間　楓［３年］
- 毛内　輝［３年］
- 横内　大輝［３年］

北海道帯広工業高等学校
- 小坂　友星［３年］
  松橋　冴英［３年］
  諏訪　光平［３年］
  ３名グループ
- 安部　凌［３年］
  浅野　太豪［３年］
  ２名グループ

高校別応募作品数一覧

学校名	応募作品数	参加人数
北海道札幌工業高等学校	1	1
北海道小樽工業高等学校	34	50
北海道苫小牧工業高等学校（全日制・定時制）	19	44
北海道函館工業高等学校	35	35
北海道旭川工業高等学校	2	2
北海道留萌千望高等学校	15	15
北海道帯広工業高等学校	2	5
計	108	152

第 42 回建築士事務所全国大会（東京開催）

建築士事務所全国大会は、建築士事務所が一堂に会し、建築設計監理業の公共性と社会的役割に対する意識の高揚を図り、以て建築士事務所の業務の進捗改善に努め、社会の期待に応えるより良い環境づくりに積極的に貢献することを目的として毎年度、開催されている。今年は、東京都で行われ、昭和 51 年に開催された第 1 回目から数えて 42 回目を迎えた。大会は、「未来に繋ぐ」をテーマに帝国ホテルで開催された。このテーマは、2020 年に開催が予定されているオリンピックに向けた、またそれ以降の都市構造が変わるような大規模都市開発が続く東京で、新たな設計プロセスへの移行や、次世代への継承、建築士事務所が何を目指すべきかを考えていこうという趣旨から定められたもの。大会では、式典に先立ち、「建築が変わる／仕事が変わる」をテーマに青木繁氏の講演及び家入龍太氏をコーディネーターに迎え、青木茂氏、石澤宰氏、小林範子氏による同テーマでのパネルディスカッションが行われた。また、大会式典では、石井啓一国土交通大臣、額賀福志郎衆議院議員（自由民主党建築設計議員連盟会長）をはじめ、多くの来賓者からの祝辞をいただくとともに日事連建築賞、年次功労者の表彰式が行われた。北海道会からは、庄司会長ほか 27 名の会員が参加し、㈱竹中工務店北海道一級建築士事務所が設計した「祈りの家　天心聖教函館礼拝堂」が日事連会長賞（小規模建築部門）を受賞し、また、日事連功労者には留萌支部の前支部長高田潔氏が受賞した。大会では、「私たち建築事務所は、これからの時代に備えた広い視野に立ち、建築界を取巻く社会情勢の変化に力強く向きあい、互いに連携し社会への責任を果たします。働き方と生産性を改革し建築士事務所の承継に努め、最先端技術を活用し知識・技術・創造性を高め、これからの社会の発展に貢献することを宣言します。」という大会宣言が満場一致で採択された。全国大会終了後のパーティでは、全国から集まった約 900 名の会員による記念パーティが行われ盛会に終了した。なお、来年の福島大会より、全国大会は通年地方開催に戻り、福島大会では、「七転び・八起き～福島からのメッセージ～」を大会テーマとして開催される予定となっている。

全国大会のあゆみ

第 1 回	第 2 回	第 3 回	第 4 回	第 5 回	第 6 回	第 7 回	第 8 回	第 9 回	第 10 回
東京	京都	栃木	広島	山形	神奈川	大阪	北海道	福岡	愛知
第 11 回	第 12 回	第 13 回	第 14 回	第 15 回	第 16 回	第 17 回	第 18 回	第 19 回	第 20 回
宮城	東京	岡山	沖縄	兵庫	秋田	石川	長野	鹿児島	香川
第 21 回	第 22 回	第 23 回	第 24 回	第 25 回	第 26 回	第 27 回	第 28 回	第 29 回	第 30 回
滋賀	岩手	静岡	千葉	長崎	山口	北海道	奈良	富山	埼玉
第 31 回	第 32 回	第 33 回	第 34 回	第 35 回	第 36 回	第 37 回	第 38 回	第 39 回	第 40 回
東京	大分	東京	愛媛	東京	東京	三重	東京	茨木	東京
第 41 回	第 42 回								
和歌山	東京								

■**日事連会長賞（小規模建築部門）**　祈りの家　天心聖教函館礼拝堂
竹中工務店北海道一級建築士事務所

■**平成 30 年度　日事連功労者表彰受賞者**　留萌支部　高田　潔氏

青年話（わ）創会 2018 東京開催～未来へつなげよう　青年の輪～

日事連では、平成 28 年より全国大会に併せて、これからの建築士事務所をどのように経営していくのかを若い世代で考えてもらうため「青年話（わ）創会」を開催している。今年は、この話創会も 3 回目の開催を迎えることとなり、建築士事務所全国大会が行われた平成 30 年 10 月 5 日㈮の 10 時から 13 時まで、TKP 新橋カンファレスセンターで全国から若い会員約 150 名が参加し、「未来へつなげよう　青年の輪」をテーマに活発な意見交換が行われた。なお、北海道会からは、青年委員会副委員長の岡田幸生氏（札幌支部）と同じく青年委員会委員の石井孝行氏（釧路支部）の 2 名が参加した。

日事連会長賞（小規模建築部門）

祈りの家　天心聖教函館礼拝堂

㈱竹中工務店北海道一級建築士事務所（札幌支部）

建設地：函館市
用　途：教会
構　造：RC 造
階　数：地上 2 階
面　積：敷地面積／4,325.35 m²
　　建築面積／924.86 m²　延面積／902.16 m²

平成30年北海道胆振東部地震の発生に伴う
(一社)北海道建築士事務所協会の活動

○地震発生

平成30年9月6日㈭未明、不思議なことに突然目が覚めた。そのとたんに激しい揺れ。本棚から崩れ落ちる本。今まで経験したことのない激しい揺れ。隣の部屋で猫と寝ている妻に声をかけた。「猫は大丈夫か？」と。これに対し、妻は「猫はどこかへすっ飛んでいった。」と答えた。いったい何が起きたのか？　猫は窓際の奥で、ブルブルと震え、抱きかかえると心臓の激しい鼓動が手に伝わる。命の危険を感じた猫。この地震は、それほどの揺れであった。

そして、ほどなく停電。それが北海道の夜が暗闇に覆われるブラックアウトの始まりとは、その時はわからなかった。

○地震と(一社)北海道建築士事務所協会

停電も解消し、地震発生の翌週から平常営業が始まった。しかし……ジリジリーン！「はい、北海道建築士事務所協会です。」「今回の地震で家の壁にクラックがはいった、お宅の協会から、誰か建築士が見に来てくれない？」そんな電話が一日に何本も入る。マスコミからも見解を求められる電話が入る。答えられるものなら、答えたいし、相談にものりたい。しかし、自分は建築士じゃない！

○(一社)北海道建築士事務所協会の目的

定款より抜粋

(目的)

第3条　本会は、北海道の地域において、建築士法（昭和25年法律第202号）第27条の2に基づく団体（以下「法定団体」という。）として、建築士事務所の業務の適正な運営と健全な発展及び建築士事務所の開設者に設計等を委託する建築主の利益の保護を図り、もって建築文化の向上と公共の福祉の増進に寄与することを目的とする。

○地震による被害建物の相談窓口設置

当協会の活動理念は、「社会」「建築界」そして「会員」に役立つこと。建物被害にあった人達は、建築士を頼りにしている。まず、動こう！を合い言葉に次のとおり相談会を開設した。

□被害建物に関する相談窓口（北海道建築士事務所協会主催）

・日時　9 月 28 日㈮、29 日㈯（2 日間）相談時間　10 時～16 時

・会場　里塚・美しが丘地区センター（札幌市清田区里塚 2 条 5 丁目 1－1）

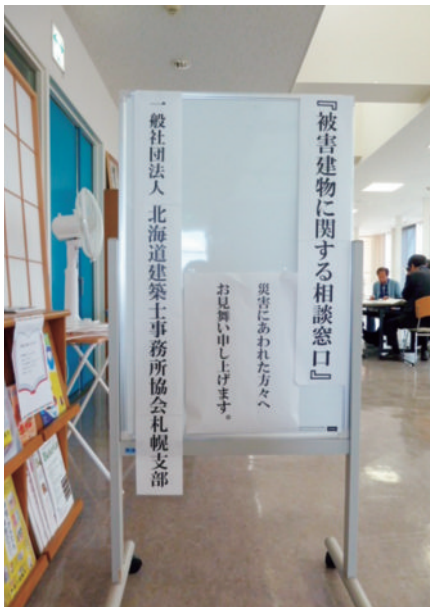
・相談対応者（2 人一組× 3 組と木造耐震関係にて対応）

28 日㈮　事務局：中川局長（本部）、山田局長（札幌支部）		
1 グループ	庄司　雅美（㈱ホクテイ建築事務所）	澤田　貞和（㈱日本工房）
2 グループ	柳舘　直人（㈱ドーコン）	酒井　隆幸（㈱ unica）
3 グループ	相良　敬治（㈱さがら設計事務所）	菊地　義紀（㈱ノース建築設計）
木造耐震関係	奈良　謙伸（㈲奈良建築環境設計室）	

29 日㈯　事務局：中川局長・小山次長（本部）、山田局長（札幌支部）		
1 グループ	川幡　宏一（㈱総合開発設計）	河村　和義（㈱アトリエＫ）
2 グループ	中島　　勉（㈱中島設計コンサルタント）	菊地　義紀（㈱ノース建築設計）
3 グループ	相良　敬治（㈱さがら設計事務所）	田所　裕司（㈱アクティ建築設計）
木造耐震関係	中島　正晴（㈲中島建築設計事務所）	奈良　顕子（㈲奈良建築環境設計室）

・以上［札幌支部］

・相談件数　28 日㈮ 22 件　　29 日㈯ 39 件　　計 61 件



□被害建物に関する相談窓口（北海道建築士事務所協会主催）

・日時　10 月 13 日㈯　相談時間　10 時～16 時

・会場　札幌エルプラザ　3 階「多目的室」（札幌市北区北 8 条西 3 丁目）

・相談対応者（2 人一組× 4 組にて対応）

	午前	午後
1 グループ	田所　裕司（㈱アクティ建築設計）	菊地　義紀（㈱ノース建築設計）
	奈良　謙伸（㈲奈良建築環境設計室）	中島　　勉（㈱中島設計コンサルタント）
2 グループ	山本　明恵（恵和建築設計事務所）	
	河村　和義（㈱アトリエK）	澤田　貞和（㈱日本工房）
3 グループ	中島　正晴（㈲中島建築設計事務所）	
	奈良　顕子（㈲奈良建築環境設計室）	酒井　隆幸（㈱ unica）
4 グループ	岡田　幸生（㈱岡田設計）	柳舘　直人（㈱ドーコン）
	鉄川　　大（㈱鉄川建築設計事務所）	相良　敬治（㈱さがら設計事務所）

・以上［札幌支部］

・事務局：中川局長（本部）、山田局長（札幌支部）

・相談件数　23 件

□現地相談会（住宅復旧・再建支援連絡会議）

・日時　10 月 19 日㈮～30 日㈫（ 6 日間）相談時間　13 時～16 時

・会場　むかわ町穂別、安平町追分、安平町早来

・相談対応者（ 2 人一組以上にて対応）

10/19 むかわ町穂別	川幡　宏一（㈱総合開発設計） ［札幌支部］	本田不二夫（㈲本田建築事務所） ［苫小牧支部］
10/21 安平町早来	中島　　勉（㈱中島設計コンサルタント） ［札幌支部］	田所　裕司（㈱アクティ建築設計） ［札幌支部］
10/21 安平町追分	神田　　進（王子不動産㈱北海道支店） ［苫小牧支部］	
10/23 安平町早来	木原　宗孝（エーシー企画） ［日高支部］	菊地　峰生（㈱ヤマト建設設計事務所） ［日高支部］
	加藤　優次（加藤優次建築士事務所） ［苫小牧支部］	
10/26 むかわ町穂別	荒川　正明（㈱カンシャス） ［苫小牧支部］	今成　宏道（㈲画建築設計） ［苫小牧支部］
10/28 安平町早来	上野　正徳（王子不動産㈱北海道支店） ［苫小牧支部］	上神田清巳（㈲上神田構造設計事務所） ［苫小牧支部］
10/28 安平町追分	中島　　勉（㈱中島設計コンサルタント） ［札幌支部］	奈良　謙伸（㈲奈良建築環境設計室） ［札幌支部］
10/30 安平町早来	鉄川　　大（㈱鉄川建築設計事務所） ［札幌支部］	奈良　謙伸（㈲奈良建築環境設計室） ［札幌支部］

□日曜相談窓口（札幌市主催）

・日時　10 月 28 日㈰～（ 5 日間）相談時間　12 時～15 時

・会場　札幌市清田区役所

・相談対応者（ 2 人一組にて対応）

10/28	柳舘　直人（㈱ドーコン）	田所　裕司（㈱アクティ建築設計）
11/ 4	奈良　謙伸（㈲奈良建築環境設計室）	酒井　隆幸（㈱ unica）
11/18	庄司　雅美（㈱ホクテイ建築事務所）	相良　敬治（㈱さがら設計事務所）
12/ 2	奈良　謙伸（㈲奈良建築環境設計室）	中島　正晴（㈲中島建築設計事務所）
12/16	河村　和義（㈱アトリエＫ）	菊地　義紀（㈱ノース建築設計）

・以上［札幌支部］

□現地調査（北海道建築士事務所協会主催）

・日時　10 月 29 日㈪～11 月 2 日㈮（ 5 日間）一日 3 件程度調査

・場所　被害建物に関する相談窓口で相談を受けた現地調査希望者宅

札幌市清田区（真栄・里塚・美しが丘・清田）、札幌市西区宮の沢、札幌市手稲区前田

・調査対応者（ 2 人一組にて対応）

10/29	柳舘　直人（㈱ドーコン）	田所　裕司（㈱アクティ建築設計）
10/30	岡田　幸生（㈱岡田設計）	澤田　貞和（㈱日本工房）
10/31	澤田　貞和（㈱日本工房）	庄司　雅美（㈱ホクテイ建築事務所）
11/ 1	遠田　雅宏（㈱浅井建築設計事務所）	菊地　義紀（㈱ノース建築設計）
11/ 2	相良　敬治（㈱さがら設計事務所）	中島　正晴（㈲中島建築設計事務所）

・以上［札幌支部］

・調査件数　14 件

□被害認定調査等支援業務（札幌市：業務委託）

・11 月 9 日入札（翌週契約予定）

・り災証明書の調査（ 4 次調査において固定資産税課職員に同行し技術的なアドバイス支援）

□北海道教育庁公立学校施設災害復旧事業（北海道教育庁：業務委託）

・調整中（17 件）

○　義捐金について

平成 30 年北海道胆振東部地震では、一般社団法人日本建築士事務所連合会や各県建築士事務所協会から以下のとおり義捐金が寄せられました。皆様の温かい支援に感謝します。

・一般社団法人日本建築士事務所協会連合会	1,000,000 円
・一般社団法人福岡県建築士事務所協会	300,000 円
・一般社団法人大阪府建築士事務所協会	100,000 円
・一般社団法人兵庫県建築士事務所協会	100,000 円
・建築士事務所協会北海道・東北ブロック	300,000 円
・建築士事務所協会近畿ブロック	100,000 円
・一般社団法人熊本県建築士事務所協会	300,000 円
計	2,200,000 円

栄誉を称えて

本年度、以下のとおり、当協会の会員の方々がそれぞれ賞を受賞されました。この受賞は、受賞された方々がいずれも経営者として、また、業界の優れた指導者として、建築業界の発展や地域社会の振興に努力されてきたことが認められたもので、私たち会員にとって大変喜ばしいことです。受賞された皆様、誠におめでとうございます。

○　大臣表彰

国土交通大臣表彰

松見　修二 氏（函館支部）

株式会社北匠建築設計事務所代表取締役
一般社団法人北海道建築士事務所協会副会長・函館支部長

○　日事連表彰

日事連年次功労者表彰

高田　　潔 氏（留萌支部）

株式会社高田建築設計事務所代表取締役
前留萌支部長

○　協会表彰

永年勤続等表彰

山崎　　宏 氏（根室支部）

みどり建工株式会社取締役
根室支部理事

原田　潤一 氏（根室支部）

有限会社斎藤組代表取締役
根室支部理事

支部創立寄稿

お陰様で札幌支部 40 周年になります

札幌支部長　**柳舘　直人**

会員の皆様、こんにちは。今年度から、8 年間勤められた川幡前支部長の後を継ぎ札幌支部長を仰せつかっております柳舘と申します。日頃、札幌支部の活動にご理解、ご協力をいただき誠にありがとうございます。御礼を申し上げると共に改めて宜しくお願い申し上げます。

先ずは、この度の北海道胆振東部地震で被害に遭われた方々に札幌支部として心からお見舞いを申し上げます。協会としても被害に遭われた方向けの建築相談会開催や相談窓口を設けるなど、復旧へのできるだけのご支援をさせていただいております。

東日本大震災以来、地震や台風、豪雨、伴う家屋損壊、洪水や土砂災害など近年経験したことのない規模の自然災害が続いております。北海道も過去最悪の震度 7 を経験しました。大きな災害や事故の都度、法が改正され建物の安全化、耐震化が進められておりますが、上部構造だけでなく地盤も含めた一体の安全化、耐震化、また地域全体のセーフティネットの構築が求められます。より安全安心な建物施設、インフラの整備が求められることとなります。増々建築士、建築士事務所および協会に求められる期待と責任が大きくなると考えられます。期待、信頼に応えるべく行動が必要です。

記念式典（川幡前支部長挨拶）

功労者表彰

札幌支部は今年度、皆様のおかげで創立 40 周年を迎えました。本部との一体の期間があったため、他の支部より少し若い支部でございます。平成 30 年 10 月末現在、正会員 425 社、賛助会員 125 社の会員数です。15 委員会、3 専門部会の構成で理事は 30 名です。今年度、 7 人の新理事を迎え年齢も多少若返っております。世のため人のため、会員各社、会員各人のお役に立つよう心がけ、少しでも多くの会員の方々とコミュニケーションがとれることを一つの目標として活動しております。

この 40 年の間に不動産、建設バブル、その崩壊、特に北海道で長く続いた建設不況、構造偽装等、我々建築士事務所協会を取り巻く環境が大きく揺さぶられ、変化し、そのたびに会員を問わず、多くの会社が多難な事務所経営を強いられ、建築士の信頼回復と相まって多くの難題に向かっては都度乗り越えて来

られました。

ここにきて他の業界同様に人手不足、技術者不足になってきております。特に若手です。一級建築士の6割が50歳以上というデータがあります。少子高齢化と、やむを得ない事情があるとはいえ、将来に向けて若い建築士の導入と育成は協会に課せられた大きな課題です。

札幌支部でも青年委員会を中心とした若手建築士の座談会、旭川支部に習った小学生を対象にしたお菓子の家づくりコンテスト、積極的な生徒、学生のインターンシップの受け入れ、一級建築士試験対策講習会など色々と〝若い〟をキーワードに取り組んでおります。建築士事務所の仕事は安心な日常生活の提供や北海道強靱化の創造に重要な役割を担います。近年は従来より進んだ省エネルギー、環境配慮技術の導入や建て替えだけでなくリノベーション、コンバージョンなど多様な技術を駆使してマネージメントするコンサルタント業務も建築士事務所に求められるようになっています。

札幌支部各委員会では住宅設計、統括設計、構造設計、設備設計の各分野ごとの会員向けに設計仕様書の整備、また、定期報告、定期講習に加えて構造技術者向け技術セミナー、設備、省エネ講習会なども開催しております。今回の地震を受けて、木造住宅耐震関連業務も増加しております。内外を問わず新建築を観て回るなどの技術研修会、会員同士の交流ゴルフ会、ボーリング大会を開催。賛助会員の皆様の力を借りた新技術建築フォーラムは毎年およそ300名の出席を得て盛大に開催しております。設計者と施工者、メーカーの方々との良いコミュニケーションづくり、情報収集、技術研鑽、人脈形成等の場として定着しております。会報誌ブラウズを通して毎月、支部会員に活動状況を報告しております。40年の歴史の過程を経て、改めて現在の札幌支部活動の一端をご紹介しました。会員の皆様の協会活動へのより積極的な参加をお願い申し上げます。

これからも19各支部と連携をとらせていただき、会員相互のコミュニケーションづくり、新しい建築関連情報・技術等の提供、行政への必要な働きかけ等、活発に活動してまいりたいと考えております。会員皆様のご意見もお寄せいただき、会員増強と合わせて、増々ご支援ご協力いただきますようお願い申し上げます。

結びに、この40年間、当協会および札幌支部の発展にご尽力いただいた多くの皆様に感謝と御礼を申し上げますと共に札幌支部50年に向けて当協会が増々発展するよう努力してまいります。皆様のご支援、ご指導、ご協力の程、重ねて宜しくお願い申し上げます。

柳舘新支部長　挨拶

支部創立寄稿

函館支部創立 50 年に思う

函館支部長　**松見　修二**

昭和 42 年 8 月 12 日、小南武一氏（小南設計創設者）を初代支部長に 17 社の会員をもって創立されて以来、平成 29 年には創立 50 年を経過するに至りました。創立当初の名称は建築設計監理協会と称され、この 2 年後に設計専業の函館建築設計監理事業協同組合が 7 名の組合員で発足しました。

小南武一氏

当時、略称で設監協会と設監組合、どちらの組織も行政の誘導的指導の基に創設された経緯があり、函館支部では実に紛らわしい名称であったことは否めません。小南支部長の在任は 42 年から 51 年までの 10 年、本部副会長を担当しました。この 10 年で会員数は 29 社となりましたが会員構成に問題点として専業と兼業の区分の無いことに違和感があった様です。

昭和 51 年小南武一氏が逝去され、藤原千代勝氏（北匠建築設計事務所創設者）が支部長の任を受けました。この年代には北海道の指定団体を受け建築士事務所登録に関する講習会、特殊建築物定期報告書の受付業務等、法定団体として認定される助走期にあったと思われます。

昭和 62 年 10 月 23 日、64 社の会員で函館支部創立 20 周年記念祝賀会が執り行われ、記念事業として、南北海道で消えつつある古建築を「歴史と風土が生んだ遺産」として後生への記録として調査を開始しました。この事業は実に 5 年の歳月を掛け平成 4 年に編纂を終え、函館支部創立 25 周年に記念発刊して各方面に寄贈しました。

藤原千代勝氏

故櫻井外治顧問

記念式典

ここで。「渡島の古建築」大武実行委員長の編集後記を紹介します。

社団法人北海道建築士事務所協会函館支部が創立 20 周年の記念事業として、埋もれている渡島地域の古建築の調査収録を志し着手したのは、今から 5 年前のことです。

先人達が築き、使い込んできた渡島という地域固有の歴史が染み込んだ主に民家を対象に、社寺建築や国指定、道指定を受けた建築については敢えて記載せず、いずれ人知れず時の流れと共に忘れ去られてしまうであろう建築物に光を当ててみようと試みたわけです。

中略

調査を進める中で、年代等の聞き取りの内容に代替わりが進み正確さを期することが出来なく、途中で解体されてしまう建物も数多く出る始末で有りました。それ故にこそ私たちが志した調査の意義がここにあり、この道南渡島の気候風土や地場産業を背景として産まれた、このような建築文化があったことに一段と確信を深めたのであります。

函館支部四半世紀の歴史の中で先輩諸氏の思いを込めた記念事業は貴重な資料となっています。

創立 25 周年

古民家

記念事業

松﨑和夫氏

30 年式典

支部設立 25 周年を終えることを期に藤原支部長が勇退し、平成 6 年　第 3 代支部長に松﨑　和夫氏（小南設計事務所）が着任しました。

松﨑支部長は本部と支部の融合に努め支部にあっては、専業、兼業、賛助の信頼と融和を強調し、平成 8 年には正会員 77 社、賛助会員 42 社を擁し地域建築界に対し協会の存在意義と貢献を強調しました。

特筆される事は、現行士法が施行される以前から管理建築士と開設者の指定講習で受講票に顔写真の添付を義務付け代行を防止した点が挙げられます。

平成 9 年 11 月 20 日創立 30 周年記念式典･祝賀会を本部貝田会長始め、木戸浦函館市長、渡島支庁長など各関係の方々のご出席を頂き挙行しました。

平成 11 年 12 月の支部理事会を開催中に松﨑支部長の体調に変化をきたし、翌 12 年 2 月 12 日急逝致しました。誠に残念なことでありました。

葬儀を滞りなく済ませ鎮魂の思いの中、2 月末日に支部総会を開催し松﨑支部長の偉功継承する理事を選出し暫定的に私が支部長に選任されました。

平成 19 年 11 月 30 日創立 40 周年記念式典を吉田会長を始め関係各位のご出席を賜り開催することが出来ました。

支部の最大の課題は会員の拡大にあります。このことは協会全体として共通の課題となっています。（全国の単位会にあっても共通の課題・問題）

近年はある意味での転換期を迎えている状況があります。それは世代交代と新規事業者の増加です。世代交代に対しては退会防止、新規事業者には加入促進を展開することが課題と感じています。また、賛助会を中心的に新規事業者、或いは既存事業者の掘り起こしも有りと考えています。

創立 50 周年記念事業は見送りとなりましたが、これに変わるものとして函館支部の 50 年の歩みを編纂して後生に伝えることを企画します。

末尾になりますが支部長の任を受けて 18 年、これまで函館支部を支えて頂いた理事の皆様、特に 3 代の支部長を支えてきた大武事務局長に感謝申し上げます。

支部創立寄稿

―新たなる出発―

室蘭支部設立50年を終えて

室蘭支部長　**菅　　俊治**

1967年（昭和42）設立以来、はや50年が過ぎ去りました。当初、北海道建築設計監理協会室蘭支部として設立し、初代支部長松阪谷周止氏、二代目支部長大友春陽氏、歴代役員一同、永年に渡りご協力賜り、深く感謝し、特にご指導、ご支援を頂いた行政機関、関係諸団体に対し、会員一同心から感謝申し上げます。2004年（平成16）に大友前支部長、理事各位より推薦され、支部長に拝命され、あっという間の年月でありました。

―変遷と変革の時代―　建築設計業界も様変わりし、建築技術の複雑化、大規模化、建築基準法の改正等、会員一同設計業界の向上に邁進して参りました。

・講演会、講習会の開催
・会員との親睦を通じての交流会
・行政との対応及び地域の人達との係わりに関する事業

など、重点的に支部活動を推し進めて参りました。

室蘭支部管内には、室蘭工業大学建築工学科があり、学生、教授たちを巻き込んだ講演会の開催で大いに盛り上がったものでありました。また、行政トップの方との交流、街づくりについてのディスカッション等、多方面に渡り活動して参りました。

2009.10.17　建築家五十嵐淳建築講演会
「ローカルな必然性より生まれる新しい普遍性について」

2012.4.26　ほくでん電化採用施設見学会社会福祉法人翔陽会特別養護老人ホーム清明庵｜電化生活情報館マドレ

2012.9.6　伊達噴火湾法律事務所林正樹弁護士「建物の建築に携わる者の責任」

2014.10.25　室蘭支部＋蘭歴建見会合同事業｜室蘭市歴史的建造物を探訪する

2018.7.27　支部設立 50 周年記念地域貢献事業｜西胆振 3 市 3 町へベンチ寄贈

2018.8.10　一般社団法人北海道建築士事務所協会周知活動｜新聞掲載

設立 50 年の支部事業とし、下記の内容で実施致しました。

地域貢献事業

1　地域の人達へ感謝と当支部の広報広聴活動
　西胆振 3 市 3 町へ会員デザインによる木製特注ベンチ寄贈

2　一般社団法人北海道建築士事務所協会の周知活動の一環として室蘭民報新聞掲載
　（庄司会長のコメント及び顔写真入り、正会員及び賛助会員の事務所名掲載など）

3　東京研修旅行｜平成 30 年 10 月
　安藤忠雄　21_21 DESIGN SIGHT、表参道ヒルズ
　隈　研吾　根津美術館、新国立競技場、浅草文化観光センター、他

4　東京研修を終えての報告会、参加会員による報告
　パネルディスカッション　―行政担当者への参加要請―

5　設立 50 年を終えて
　正会員、賛助会員及び関係団体各位との記念祝賀パーティー開催

最後にあたり、当協会運営発展にご尽力頂いた行政機関、関係諸団体の皆様へ改めて感謝し、更なる 50 年に向けて邁進し、地域に認知される協会であるべき姿を強く感じ、広く一般の皆様へ周知されるよう、会員一同、取り組みをさせて頂く所存であります。経済第一主義とやらで惻隠の情、情と恩が薄らいでいる昨今であるからこそ、地域の人達と共に建築を通じ、より良き地域の発展を願うものとし、室蘭支部設立 50 年にあたってのご挨拶と致します。

支部創立寄稿

北見支部創立50周年にあたって

北見支部長　**笹木　勇一**

昭和42年、建築士事務所協会　北見支部が設立され、今年で創立50周年を迎える事が出来ました。

初代　高谷支部長をはじめ、歴代の支部長、役員、会員各位の方々には、50年間大変ご苦労され、今日まで継続されてこられました事に、心から敬意と感謝の意を表し、会員一同、心より厚く感謝申し上げます。

当支部の会員数は平成12年42社が最大でありましたが、現在、平成30年28社と減少しております。会員減少により、活動が限られ、50周年の節目でありますが、式典等記念の事業として何も行う事が出来ませんでした。

全国の協会への加入率は14%程度であり、北海道においても22%程度でありますが、今後は、協会のPRに努め、一般市民からの信頼を得られるよう、会員の皆様のご協力を得ながら、会員増強を計り、支部の発展に努力する所存でございます。

今、我々建築業界においても、技術者の不足が上げられております。働き方改革、労働時間の短縮等が叫ばれている中、若い技術者の育成、物造りに対する意義・大切さ・魅力を我々の経験を基に出来るだけ、訴え続ける事が必要であると考えております。

設計業界の働きとして、改正建築士法が成立し、書面での契約締結の義務化や管理建築士の責務の明確化など、設計監理業務の適正化を柱に改正建築士法が施行されました。

また、さらには、業務報酬基準(告示15号)が見直されようとしております。これは、実態にそぐわない、あるべき姿とかけ離れたものになる恐れがあり、働く環境は悪化し、人材不足が一層深刻化すると考えられます。

事務所協会として、信頼される建築士事務所として、会員の技術力の向上、コンプライアンスは勿論、会員の一層の結束と人材育成に力を入れ、地域に必要とされる団体として努力して参りたいと思います。

課題は山積みでありますが、会員各位様には引き続きご協力頂けますようお願い申し上げます。

最後に今まで当協会支部の運営、発展に御尽力下さった多くの諸先輩方、会員の皆様に、感謝とお礼を申し上げ、北見支部創立50周年にあたってのご挨拶と致します。

建築士事務所登録等事務の業務について

建築士又は建築士を雇用する者は、他人の求めに応じ報酬を得て、次の業務を業として行おうとするときは、建築士事務所を定めて、その建築士事務所について、北海道知事が指定した指定事務所登録機関の登録を受けなければならず、その登録の有効期間は5年と定められている（建築士法第23条、第23条の2、第26条の4）。また、無登録業務は建築士法で禁止されており、違反した場合には罰則に処せられる（建築士法第23条の10、第38条）。

（建築士事務所の業務）

1　建築物の設計
2　建築物の工事監理
3　建築工事契約に関する事務
4　建築工事の指導監督
5　建築物に関する調査若しくは鑑定
6　建築物の建築に関する法令若しくは条例の規定に基づく手続きの代理

一般社団法人北海道建築士事務所協会では、平成2年4月1日より、北海道からの委託により、19支部が受付窓口となり、建築士事務所登録等事務の業務を実施してきたが、改正建築士法（平成18年12月20日法律第114号）第26条の3第1項の規定に基づき、平成22年2月17日付け建指第2570号指令をもって北海道知事から指定事務所登録機関に指定され、平成22年4月1日から指定事務所登録機関としての業務を開始した。

（指定事務所登録機関の業務）

1　業務内容
　建築士事務所の登録等事務
　登録簿及び所属建築士名簿の閲覧事務
2　業務の実施方法
　事務所登録等事務は、本部で行う。ただし、登録等の受付事務及び閲覧事務は、各支部で行うこととし、本部と19支部が専用パソコンによる回線で結ばれ、専用スキャナの活用により業務の厳正かつ公正な執行と迅速化を図ることとしている。

［建築士事務所の登録の状況（平成30年9月30日）］

			登録数	会員	会員以外
建築士事務所			4,371	1,020	3,351
	一級・二級・木造別	一級	2,687	765	1,922
		二級	1,670	252	1,418
		木造	14	3	11
	個人・法人別	個人	1,196	147	1,049
		法人	3,175	873	2,302
建築士事務所に属する建築士					
	一級・二級・木造別	一級	4,252	1,762	2,490
		二級	4,350	1,254	3,096
		木造	31	10	21

設計等の業務に関する報告書に係る事務について

平成 19 年 6 月 20 日施行の改正建築士法（第 23 条の 6 ）により、建築士事務所の開設者は、毎事業年度経過後 3 カ月以内に、設計等の業務に関する報告書（業務報告書）を作成・提出することが義務付けられることになった（改正建築士法第 23 条の 6 ）。この業務報告書は、一般の閲覧に供せられることとされており、当該建築士事務所がどのような業務の実績があるかを建築主や消費者に情報開示することを目的としている。なお、未提出又は虚偽の記載をした場合には、罰則が規定されており行政処分の対象にもなる（建築士法第 41 条第 1 項）。

（報告内容）

1　業務の実績
　当該事業年度における当該建築士事務所の実績の概要

2　所属建築士名簿
　当該建築士事務所に属する建築士の氏名、一級・二級・木造建築士の別及び構造一級・設備一級建築士の別、登録番号並びに定期講習受講歴、管理建築士はその旨

3　所属建築士の業務の実績
　所属建築士ごとの当該事業年度における業務の実績（当該建築士事務所におけるものに限る）

4　管理建築士による意見の概要
　建築士事務所の開設者に対して述べられた意見（技術的観点からその業務が円滑かつ適正に行われるようにするための意見）の概要

なお、設計等の業務に関する報告書に係る事務については、平成 21 年 4 月 1 日から平成 22 年 3 月 31 日までは、北海道からの委託事業として行い、平成 22 年 4 月 1 日以降は、北海道との協定により当協会が指定事務所登録機関として実施している。北海道との協定では、次の業務を行っている（業務経費については、建築士事務所登録手数料より支出）。

（指定事務所登録機関の業務）

1　設計等の業務に関する報告書の受付、内容確認、総合振興局・振興局への進達（各支部）
2　建築行政共用データベースシステム（建築士・事務所登録閲覧システム）への入力（本部）
3　未提出の建築士事務所への文書による督促（本部）
4　設計等の業務に関する報告書の閲覧（各支部）

［設計等の業務報告書の提出状況］

	平成 29 年 4 月 1 日 ～平成 30 年 3 月 31 日	平成 30 年 4 月 1 日 ～平成 30 年 9 月 30 日
建築士事務所数	4,406	4,371
業務報告書受付件数	3,686	2,415
提出率	83.7%	55.3%
業務報告書督促件数	2,231	1,759
督促率	50.6%	40.2%

建築士定期講習

平成 17 年 11 月に建築物の構造計算偽装事件をはじめ相次いで発覚した類似の事件によって失われた建築物の安全性と建築士制度に関する国民の信頼を回復するために、平成 18 年に建築基準法と建築士法がそれぞれ改正された。このうち、「建築士の資質・能力の向上」、「高度な専門能力をもつ建築士による設計［構造設計・設備設計］」、「設計・工事監理業務の適正化と消費者への情報開示」等を目的とする平成 18 年 12 月改正建築士法は、平成 20 年 11 月 28 日に施行され、建築士を対象とした各種講習制度が創設された。このことにより、設計・工事監理等の業務を「業」として行う建築士は、業務を実施するのに必要な能力を確実に身につけておく必要があることから、建築士事務所に所属している一級建築士、二級建築士又は木造建築士には、３年ごとに定期講習を受講することが義務付けられ、受講しなかった場合には、戒告または 2 カ月間の業務停止処分の対象となる（建築士法第 10 条第 1 項第 1 号、第 22 条の 2）。

なお、講習は、建築士法に基づき、登録講習機関である「公益財団法人建築技術教育普及センター」の実施協力機関として当協会及び一般社団法人北海道建築士会が実施しており、本年度は、平成 30 年 5 月 25 日㈮の札幌市を始めに、全道 8 市 10 会場で開催した。

［建築士定期講習の受講者数］

開催地	開催月日	開催会場	受講者数
札幌市	5 月 25 日㈮	北海道第二水産ビル	245
	7 月 27 日㈮	北海道第二水産ビル	198
	10 月 18 日㈭	北海道第二水産ビル	171
函館市	6 月 7 日㈭	北斗市総合文化センターかなで～る	127
旭川市	6 月 26 日㈫	旭川市勤労者福祉総合センター	88
北見市	6 月 22 日㈮	北見市端野町公民館	96
室蘭市	7 月 12 日㈭	室蘭市市民会館	33
苫小牧市	6 月 6 日㈬	苫小牧市民会館	65
帯広市	7 月 10 日㈫	とかち館	111
釧路市	6 月 14 日㈭	釧路市生涯学習センター	92
合計			1,226

管理建築士講習

管理建築士は、建築士事務所の業務に係る技術的な事項を総括する立場にある。従前は、建築士であれば誰でもなることができたが、平成 17 年 11 月に起きた建築物の構造計算偽装事件をはじめ相次いで発覚した類似の事件により、平成 20 年 11 月 28 日に改正建築士法が施行され、建築士事務所を管理する建築士（管理建築士）の要件が強化された。この改正により、管理建築士となるには、建築士として 3 年以上の設計その他国土交通省令で定める業務に従事した後、国土交通大臣の登録を受けた登録講習機関が行う「管理建築士講習」の課程を修了することとされた。

この講習は、当協会が、建築士法に基づく登録講習機関である公益財団法人建築技術教育普及センターの実施協力機関として、平成 20 年度は「管理建築士資格取得講習」、平成 21 年度からは「管理建築士講習」として実施している。講習内容は、「建築士法その他関係法令に関する科目」及び「建築物の品質確保に関する科目」で、テキストを使用した講義と修了考査となっている。本年度は、札幌市で 6 回開催した。

［管理建築士講習の受講者数］

開 催 地	開催月日	開　催　会　場	受講者数
札 幌 市	1 月 17 日㈬	協会会議室	7
	3 月 28 日㈬	大五ビル 2 階会議室	22
	5 月 30 日㈬	大五ビル 2 階会議室	14
	7 月 11 日㈬	協会会議室	8
	9 月 26 日㈬	大五ビル 2 階会議室	20
	11 月 14 日㈬	大五ビル 2 階会議室	17
合　　計			88

震災復旧のための震災建築物の被災度区分判定基準および復旧技術指針講習会

建築物の震災後対策としては、地震発生直後に、余震等による建築物の倒壊及び部材の落下等による二次災害から住民の安全を確保するために建築物への立ち入りの可否等を判定する「応急危険度判定」と、応急危険度判定が実施された後等に震災建築物の復旧を目的として震災建築物の主として構造躯体に関する被災度区分判定を行い継続使用するための復旧の要否を判定するための「被災度区分判定」がある。

応急危険度判定については、平成7年1月17日に発生した阪神･淡路大震災において我が国で初めて本格的に実施され、その有益性の認識と経験を踏まえ、その後都道府県において応急危険度判定士の養成登録が行われるとともに、応急危険度判定を迅速かつ的確に実施するための全国組織として全国被災建築物応急危険度判定協議会が平成8年4月に設立されるなど体制の整備がなされている。

一方、応急危険度判定実施後等に、住宅相談も含め震災建築物の復旧のために必要な被災度区分判定の実施に関する体制の構築も急務の課題となっており、当協会では、平成17年度より被災度区分判定及び復旧業務を行うことができる建築士を育成することを目的に講習会を実施してきた。なお、講習会の受講修了者で希望する建築士に対し、一般財団法人日本建築防災協会より技術者証が発行され、さらにその建築士を有する建築士事務所で、希望する建築士事務所を対象に建築士事務所名簿を作成し北海道に提出するとともに日本建築防災協会及び日本建築士事務所連合会のホームページに掲載し、震災後対策として住宅相談や被災度区分判定等の活動が必要となった際の建築士事務所（建築士）の検索、協力要請等の資料として活用に供することとしている。平成23年3月に発生した東日本大震災、また、昨年4月に発生した熊本地震など、近年、大きな地震が相次いで発生しており、さらには、首都直下地震や南海トラフ地震などの大規模な発生が危険視されているが、今年は、北海道胆振東部を震源とする地震が、この北海道でも発生し、41名もの尊い命が失われる事態となった。この講習の必要性は、益々高まっている。

［震災復旧のための「震災建築物の被災度区分判定基準及び復旧技術指針」講習会の受講者数］

開催地	開催時期	開催場所	講習種別	受講者数
札幌市	4月25日㈬	北海道自治労会館	全構造・全日講習	68
			木　造・半日講習	20
			計	88

住宅金融支援機構適合証明技術者登録・講習

「適合証明技術者」制度

この制度は、本講習の受講により、住宅金融支援機構の指定した登録機関（一般社団法人日本建築士事務所協会連合会）に登録した建築士事務所に所属する建築士（適合証明技術者）がフラット35（中古住宅）又はリ・ユース住宅購入融資、リフォーム融資を利用予定の住宅について、融資希望者等の依頼に基づき、融資する物件が住宅金融支援機構の定める技術基準への適合性を確認する業務で、物件検査の結果、融資利用予定の住宅が技術基準に適合する場合には、融資希望者等に対して「適合証明書」を交付することができるものである。

［住宅金融支援機構適合証明技術者登録・講習の受講者数］

開催地	開催時期	開催場所	受講者数
札幌市	8月22日㈬	北海道第二水産ビル	130
	9月21日㈮	大五ビル2階会議室	9
函館市	9月 4日㈫	北斗市総合文化センターかなで～る	18
旭川市	8月21日㈫	旭川市勤労者福祉総合センター	54
釧路市	8月30日㈭	釧路市生涯学習センター	37
合計（4市5会場）			248

開設者・管理建築士のための建築士事務所の管理研修会

平成 18 年 12 月に改正公布された改正建築士法のうち建築士事務所協会及び建築士事務所協会連合会の法定化に係る規定（第 7 章・第 27 条の 2 から 5 ）が平成 21 年 1 月 5 日に施行され、当協会は、建築士事務所業務の適正化と建築主の利益保護を担う団体として法律に位置づけられた所謂法定団体となった。

この研修は、それまでの「建築士事務所の管理講習会・開設者研修会」に替え、建築士法に規定された法定団体である一般社団法人北海道建築士事務所協会及び一般社団法人日本建築士事務所協会連合会が、建築士法第 27 条の 2 第 7 項に基づく研修として実施した。

研修は、平成 25 年から実施しているが、建築士法の定めに基づくほか、北海道知事からの受講奨励の文書を発行してもらうほか、講師の派遣も受けて実施している。また、研修は、建築士事務所の管理・運営を適切に進める上で把握しておくべき重要事項を網羅した内容となっており、 5 年ごとの事務所登録更新の機会にあわせて受講することで、開設者、管理建築士の資質の維持向上を図り、業務委託者の期待に応えるべく業務の適正化や建築物の質の向上等を目指すことを目的としている。

本年度の研修会は、平成 30 年 2 月 28 日㈬の札幌市をかわきりに、全道 6 市 8 会場で開催した。

［開設者・管理建築士のための建築士事務所の管理研修会の受講者数］

開 催 地	開催時期	開　催　場　所	受講者数
札 幌 市	2 月 28 日㈬	北海道第二水産ビル	58
	10 月 3 日㈬	北海道第二水産ビル	47
	11 月 7 日㈬	北海道第二水産ビル	58
函 館 市	10 月 16 日㈫	北斗市総合文化センターかなで～る	28
旭 川 市	10 月 10 日㈬	旭川勤労者福祉総合センター	30
北 見 市	10 月 26 日㈮	北見市民会館	16
苫小牧市	10 月 10 日㈬	苫小牧市民会館	16
釧 路 市	10 月 31 日㈬	釧路市生涯学習センター	31
計　6 市 8 会場			284

既存住宅状況調査技術者講習

既存の建物の流通を促進するとともに、宅地又は建物の買主等の利益の保護を図るため、宅地建物取引業者に対し、建物の構造耐力上主要な部分等の状況の調査を実施する者のあっせんに関する事項の媒介契約書への記載、当該調査の結果の買主等への説明を義務付けるとともに、宅地建物取引業者を営業保証金等による弁済の対象から除外する等の措置を講ずることを目的に宅地建物取引業法の一部が改正された(平成 28 年 6 月 3 日公布、平成 30 年 4 月 1 日施行)。

また、既存住宅の調査の担い手となる技術者の育成を進めることにより、宅地建物取引業法の改正による建物状況調査（インスペクション）の活用促進や既存住宅売買瑕疵保険の活用等とあわせて、売主・買主が安心して取引できる市場環境を整備し、既存住宅流通市場の活性化を推進するため、既存住宅状況調査技術者講習制度が創設された（平成 29 年 2 月)。

この既存住宅状況調査技術者講習の実施については、国土交通大臣の登録を受けなければならないが、一般社団法人日本建築士事務所協会連合会（以下「日事連」という。）は、平成 29 年 6 月 9 日に国土交通大臣の登録を受けたことから、当協会も実施協力機関として、昨年度から講習を実施している。

なお、講習は、既にインスペクター登録をされている建築士を対象とする「移行講習」と登録されていない建築士を対象とする「新規講習」に分けられるが、今年度は、当協会副会長の重綱博美氏、地方独立行政法人北海道立総合研究機構建築研究本部北方建築総合研究所構造判定部長渡邊和之氏による新規講習が実施された。

既存住宅状況調査技術者講習

［新規講習の受講者数］

開 催 地	開催日時	開　催　場　所	受講者数
札 幌 市	11 月 15 日㈭	北海道自治労会館	20

建築士事務所キャンペーンについて

当協会及び建築士事務所の存在と活動を広く一般の方々に知っていただくため、毎年度、各支部主催で多彩な事業を行っている。今年度の「建築士事務所キャンペーン」事業は以下のとおりとなっている。

支部名	行事名	開催日	参加者数
札幌支部	木造住宅の耐震改修工事に関する市民向けセミナー	8月6日(月)	37
	第4回お菓子の家づくりコンテスト	10月21日(日)	46
	第18回「きらりと光る北の建築」賞 パネル展	11月2日(金)～4日(日)	2,000
函館支部	はこだて住まいづくりサポートフェア	2月16日(金)～18日(日)	1,600
後志支部	「第11回ふるさとを描こう」絵画コンクール	11月3日(土)	72作品
小樽支部	工業高校生徒と市内歴史的建造物を巡る課外授業	10月3日(水)	30
	工業高校生への歴史的建造物についての出前授業	10月5日(金)	30
空知支部	住宅新築&リフォームフェア	4月7日(土)～8日(日)	1,000
旭川支部	第28回旭川建築作品発表会	2月17日(土)	67
	北海道建築展　巡回展2018	6月5日(火)～7月1日(日)	330
	第14回ボランティア塗装	6月23日(土)	44
	北の恵み食べマルシェ2018参加	9月15日(土)～17日(月)	555
	第16回お菓子の家づくりコンテスト	10月13日(土)	33
室蘭支部	創立50周年記念事業 西胆振3市3町ベンチ製作、寄贈	7月1日(日)～8月31日(金)	20
十勝支部	10士業合同 くらしの「よろず」無料・相談会	11月4日(日)	55
釧路支部	北海道建築展　巡回展2018	7月4日(水)～8日(日)	510
	住まいの無料建築相談会	9月5日(水)	2
	第9回くしろ安心住まいフェア	9月5日(水)	432
	木造建築セミナー	11月13日(火)	27

札幌支部
木造住宅の耐震改修工事に関する
市民向けセミナー

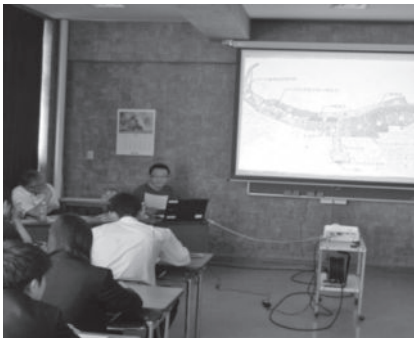
札幌支部
第 4 回
お菓子の家づくりコンテスト

札幌支部
第18回「きらりと光る北の建築」賞
パネル展

函館支部
はこだて住まいづくり
サポートフェア

後志支部
「第 11 回　ふるさとを描こう」
絵画コンクール

小樽支部
工業高校生徒と市内歴史的
建造物を巡る課外授業



小樽支部
工業高校生への歴史的建造物に
ついての出前授業

空知支部
住宅新築＆リフォームフェア

旭川支部
第 28 回建築作品発表会

旭川支部
北海道建築展　巡回展 2018

旭川支部
第 14 回ボランティア塗装

旭川支部
北の恵み
食べマルシェ 2018 参加

旭川支部
第 16 回
お菓子の家づくりコンテスト

室蘭支部
創立 50 周年記念事業
西胆振 3 市 3 町ベンチ製作、寄贈

十勝支部
10 士業合同
くらしの「よろず」無料・相談会

釧路支部
北海道建築展　巡回展 2018

釧路支部
住まいの無料建築相談会

釧路支部
第 9 回くしろ安心住まいフェア

釧路支部
木造建築セミナー

平成 30 年度 委員会開催状況

当協会には、8 つの委員会が設置されています。それぞれの委員会は、全道各支部から委員が参集し、協会運営についての様々な課題を検討するとともに「社会」「建築会」「会員」に役立つ一般社団法人北海道建築士事務所協会であることを目指しています。

委員会名	開 催 日	議　　題
総務委員会	2 月 14 日㈬ 5 月 21 日㈪ 7 月 17 日㈫ 11 月 9 日㈮ 12 月 7 日㈮	・平成 29 年度監査資料審査 ・定款の変更 ・理事会提出議案審査 ・日事連年次功労者表彰の選考 ・日事連建築賞一次審査 ・理事会提出議案審査 ・財政健全化計画 ・嘱託職員の採用 ・平成 30 年胆振東部地震に伴う経費 ・知事表彰の推薦 ・理事会提出議案審査
業務・技術委員会	5 月 1 日㈫ 7 月 18 日㈬	・副委員長、設計競技専門委員会、北の住まい設計コンペ審査委員会の決定（書面審査） ・平成 30 年取組検討（告示 15 号改定案） ・既存住宅状況調査技術者講習
広報委員会	5 月 18 日㈮ 9 月 3 日㈪ 11 月 26 日㈪	・平成 30 年広報活動 ・平成 30 年広報予算 ・会誌 hiroba の構成 ・入会案内書の作成 ・会誌 hiroba の構成確認
教育・情報委員会	5 月 23 日㈬	・建築士事務所の講習・研修 ・管理研修会の充実と受講者 UP
指導委員会	9 月 26 日㈬ 10 月 4 日㈭ 10 月 16 日㈫	・平成 30 年北海道胆振東部地震対策 ・相談窓口の設置結果 ・教育関係施設の被害状況 ・胆振東部 3 町での現地相談 ・北海道教育庁との契約について
IT 委員会	6 月 7 日㈭ 8 月 30 日㈭ 11 月 16 日㈮	・重点課題 ・BIM 研修会 ・BIM 研修会の開催
青年委員会	5 月 15 日㈫ 9 月 4 日㈫ 10 月 23 日㈫	・青年委員会活動 ・フォーラムの開催 ・フォーラム in 釧路
倫理委員会	開催なし	

(一社)北海道建築士事務所協会青年委員会

北海道会では、全国大会に併せて開催される青年話創会の趣旨に賛同し、平成30年度から青年委員会を設置した。同委員会は

① 建築士事務所の交流活性化に向けた企画・運営に関すること

② 建築士のプロフェッション（職能）向上への取組に関すること

③ 未来に向けた建築士事務所のあり方と活動に関すること

を委員会の業務とし、今年度は、2回の委員会を開催し、これらの業務をどのように進めるか意見を出し合った。また、初の試みとして釧路支部の協力により「変化の時代と建築士事務所」をテーマに北海道保健福祉部竹澤医務薬務課長と北海道建設部建築局清水主幹の講演、そして、青年委員会木谷委員長、岡田副委員長、石井委員参加のパネルディスカッションを行う「フォーラム in 釧路」を開催した。

⑴ 青年委員会の意見

① 建築士事務所の交流活性化に向けた企画・運営に関すること

- 会員の交流（様々な年代の経営者、会員企業の若手職員、正会員と賛助会員）を各支部が持ち回りで開催（岡田副委員長）
- まずは交流でお互いに顔を知った上で、徐々に活動のステップを上げていくのが理想、さらなる交流のアイデアもそうした中で醸成されていくのでは（金田委員）
- 学生の「企業インターンシップ」や「企業職業体験」の受け入れを建築士事務所単位毎ではなく支部内の建築士事務所が地域毎に連携して受け入れる「地域同業種インターンシップ」のような仕組みをつくること（深瀬委員）
- スタッフ交流会（ボスの参加不可）を全道単位で開催（石井委員）
- 代表、役員でない若手スタッフの集まりがあればよい（安原委員）
- 事務所に所属している人達多数の交流する場を設ける（梅原委員）

② 建築士のプロフェッション（職能）向上への取組に関すること

- CPDがつく研修・講習会（BIM、失敗例、裁判事例、経営経理、事業承継）技術講習会の開催（岡田副委員長）
- 能力向上に寄与する情報のネットアクセス環境作り（金田委員）
- 最新の倫理を学び身につけていくこと（深瀬委員）
- 事務所の代表者向けの勉強会や交流会の開催（石井委員）
- 定期的な勉強会、失敗事例への対策を考える会（安原委員）
- 異業種との交流（梅原委員）

③ 未来に向けた建築士事務所のあり方と活動に関すること

- 建築設計の魅力を子供達に伝えるイベントの開催（岡田副委員長）
- 柔軟で新しい考えを発揮できる機会や場面づくり（深瀬委員）
- 教育機関との繋がり、交流（安原委員）

(2)　フォーラム in 釧路

趣旨　少子高齢社会の到来が日本社会の各方面に大きな影響を及ぼしているが、建築士事務所においても、若手人材の減少が大きな問題となっている。今日的問題を取り上げつつ、行政関係者との連携を図るなど、青年委員会設置を広く会員に周知する。

内容　別掲「フライヤー」のとおり

司会者 金子釧路支部理事　　木谷コーディネーター

竹澤医務薬務課長の講演

パネリストによるパネルディスカッション

参加者の皆様

建築設計セミナーの開催について

当協会の委員会の一つである「IT 委員会」では、情報通信技術の著しい進展に伴い、近年、その活用が注目されている BIM（Building Information Modeling）について、会員への情報提供を行うため、札幌商工会議所との共催により、以下のとおり建築設計セミナー（BIM の現状と可能性）を行いました。

これも青年委員会で実施したフォーラム in 釧路と同じく、委員会で行うイベントとしては、はじめてになりますが、今後も協会の会員への情報提供を進めるため、このような機会をつくっていくこととしています。

建築設計セミナー
～BIM の現状と可能性について～

と　き：平成 30 年 11 月 16 日㈮　13：00～17：30
ところ：北海道経済センタービル 8 階　A ホール

次　　第

【セミナー】

1．開　　会

2．挨　　拶　札幌商工会議所　建築設計分科会長　川幡　宏一
（一般社団法人　北海道建築士事務所協会副会長）

3．先行事例紹介
① 株式会社　フィルド　設計部　菊地　翔貴　氏
② 株式会社　北海道日建設計
設計監理部門設計室　大門　浩之　氏
③ 岩田地崎建設　株式会社
ICT 推進部 BIM 担当　大竹口　勝未氏
～休憩　15 分～

4．メーカープレゼン
① Autodesk 株式会社
② グラフィソフトジャパン株式会社
～質疑応答　15 分～

【展示・交流会】

1．挨　　拶　札幌商工会議所　建築設計副分科会長　三栖　博
（一般社団法人　北海道建築士事務所協会　IT 委員会委員長）

2．展示・交流
- **主　　催**　札幌商工会議所　建築設計分科会
- **共　　催**　一般社団法人北海道建築士事務所協会
- **協　　力**　Autodesk 株式会社／グラフィソフトジャパン株式会社
株式会社　大塚商会

先行事項

メーカープレゼン

行政等への要望活動

当協会では、建築士事務所の健全な発展と建築文化の向上を図るため、一般社団法人日本建築士事務所協会連合会（略称「日事連」）との連名で、毎年度、北海道開発局営繕部長、北海道建設部建築企画監、札幌市都市局長へ当協会単独の要望書と併せて提出し、また、道内の全市町村に対しては同要望書を郵送しております。また、自民党北海道支部連合会との「団体要望懇談会」に参加し、建築士事務所の現状や当協会からの要望などについて意見交換を行っています。

1　北海道開発局への要望

要 望 日　平成 30 年 8 月 7 日㈫

出 席 者　（相手方）北海道開発局営繕部長ほか

（協　会）庄司会長、柳舘副会長、中島副会長、松田業務･技術委員長、中川事務局長

要望項目　下記のとおり

2　北海道への要望

要 望 日　平成 30 年 8 月 7 日㈫

出 席 者　（相手方）北海道建設部建築企画監ほか

（協　会）庄司会長、柳舘副会長、中島副会長、松田業務･技術委員長、中川事務局長

要望項目　下記のとおり

3　札幌市への要望

要 望 日　平成 30 年 8 月 7 日㈫

出 席 者　（相手方）札幌市都市局長ほか

（協　会）庄司会長、柳舘副会長、中島副会長、松田業務･技術委員長、中川事務局長

要望項目　下記のとおり

【共同要望項目】

①　建築物の設計・工事監理業務及び耐震診断・耐震改修に係る業務の発注に際しては、業務報酬基準（告示 15 号及び告示 670 号）に準拠し、業務委託内容を明確化した契約をすること

②　建築物の設計・工事監理業務の設計者選定に際しては、価格以外の要素を考慮し、やむを得ず価格競争による入札方式で設計者の選定をする場合は、適正な価格による「最低制限価格」等の設定を実施すること

③　建築物の設計･工事監理業務の設計者選定に際しては､賠償責任保険への加入を条件とすること

④　建築物の設計・工事監理業務の設計者の選定に際しては、「建築 CPD 情報提供制度」の実績を活用すること

【北海道単独要望】

（北海道）①　最低制限価格の設定範囲を予定価格の 90％以上に引き上げていただきたい。

②　建築士事務所登録事項変更届け等についても手数料を措置していただきたい。

（札幌市）上記①に同じ

4　自由民主党北海道支部連合会との懇談

日　時　平成 30 年 10 月 17 日㈬ 10：00～

場　所　北海道議会 2 F「自民党・道民会議会議室」

出席者　（相手方）自民党道連中司哲雄政務調査会長ほか

（協　会）庄司会長、柳舘副会長、松田業務・技術委員長、中川事務局長

【自民党への要望】

①　業務量の確保

建築設計業の持続的な発展が図られるよう、安定的な公共工事事業量及び設計委託事業量を確保していただきたい。

②　事業の平準化

公共工事では、建築設計業務の発注が春先から夏まで、そして締切が年度末に集中する傾向がある。働き方改革が求められる今日、所員の労働環境を改善するためにも事業量の平準化に取り組んでいただきたい。

③　災害対応

災害における復興対策を円滑に進めるため、所要経費の手当をしていただきたい。また、地震による建物被害に迅速に対応するため、当協会との災害協定の締結を検討していただきたい。

④　最低制限価格の引き上げ

建築設計委託業務に係る発注に際しては、建築設計事務所の健全経営や設計業務の品質確保の観点から、最低制限価格を予定価格の 90％まで引き上げていただきたい。

⑤　管理研修会の義務化

建築士法第 27 条の 2 第 7 項で規定されている建築士事務所の開設者に対する建築士事務所の業務の運営に関する研修及び建築士事務所に属する建築士に対する設計等の業務に関する研修について、受講を義務化するとともに、建築士事務所登録（更新を含む。）の要件としていただきたい。

風景を司る建築たち

赤坂　真一郎

株式会社アカサカシンイチロウアトリエ　代表取締役

38回目の北海道建築作品発表会が道立近代美術館講堂にて開催された。29組の発表は、新築のみならず、増改築、保存、地区計画など多岐に渡り、どれも奮闘の跡が見える質の高いものであったことは言うまでもないが、ここでは幾つかの作品に絞って所見を述べてみたい。

「上士幌町生涯学習センター／設計：アトリエブンク　基本構想：森傑　北海道大学大学院」は、町内にある4つの施設をひとまとめにし、それを更に既存図書館に増築するという、かなり「意欲的」なプログラムを持つ。敷地は町の中心部ゆえ、周囲には様々な生活シーンがあり、施設は全方位的に開かれている。周辺の生活感は動線空間「プロムナード」となって内部に引き込まれ、施設全体に賑わいをもたらしている。低い大屋根が浮かぶシンプルなデザインは、天井高のある円形プレイルームを際立たせ、それが町のランドマークとなっている。派手さはないが、吟味された建築的仕掛けにより、様々なシーンを体験できる建築だ。**「東川町複合交流施設せんとぴゅあII／小篠隆生＋アトリエブンク、IA建築研究所、KITABA」**は、写真・家具・大雪山に関する文化活動、読書、住民活動など、多様な交流の拠点となる施設。高さを抑えた書架による見通しの良い空間が、建物前に広がる芝生広場まで、視覚・体験的に連続している。分野の境界線が無く、空間全体に公共建築らしからぬ「余白」がある建物で、利用者発想の様々なアクティビティが生まれそうだ。**「札幌市立中の島小学校／北海道日建設計」**の敷地は狭隘で不整形だが、そうした条件がむしろコンパクトでありながら密度の高い学校建築を生み出したように思える。体育館を中心とした行き止まりのない動線のあちこちに、たまり場としてのデンや、見る・見られる仕掛け、円弧状の吹抜け、精進川の緑など、様々なシーンが用意され、回遊する子供たちを飽きさせない。大きな都市では「平等」という考えが変形して学校建築の「均一化」が進み、設計者は素材や色など建築の表面操作によってのみ差異を生み出すところに追い込まれている感もある。そうした状況において「仮校舎無し・狭隘変形グラウンドが敷地」といった、より厳しい条件のプロジェクトが、むしろ他校よりも魅力を持ち、子供達の記憶に残る空間として完成した事実は興味深い。やはり設計者魂は難条件のほうが燃えるのだ。

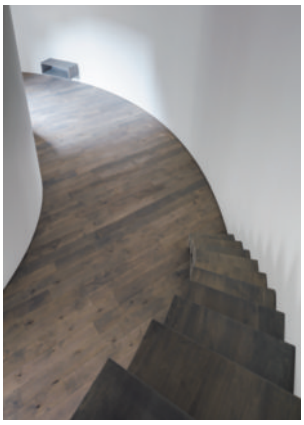
高木貴間の住宅改修が面白い。昨年の住宅改修作品に続き今年は**「富良野の異形屋根」**という築40年の農家住宅のリノベーションプロジェクト。道民には見慣れた出所不明の住宅形態を妻面側にトレースし、約一間の半屋外空間を新たに生み出している。波板ポリカと白い樹脂サッシュで構成された立面は建物の機能と目的を、新設の開口部周りの操作はこれがリノベプロジェクトであることを、それぞれ明瞭に表現

上士幌町生涯学習センター

東川町複合交流施設　せんとぴゅあII

札幌市立中の島小学校

富良野の異形屋根



酒乃屋 稀八

している。人口減や住宅性能の向上により、リノベ案件が更に増えよう北海道において、厳しい条件の改修工事でも諦めず、自らの思いを空間化しようと格闘する高木の姿勢は、彼に続く若い設計者を刺激する。**「酒乃屋稀八／五十嵐淳」**は3道路に面する店舗併用住宅。タイトな幅で構成された記号的な平面図に目を引かれる。1階店舗へのアクセス、来店者の視線、商品に至るまでのシークエンスなどから、「特殊」な平面形状が「必然」をもって導き出され、その立体は店舗の強力なサインとしても機能している。設計者の力量を感じるのは、この「特殊」な店舗平面をトレースした上階に「日常」生活を見事に重ね合わせているところにある。非日常的空間で日常を過ごす魅力。「中野本町の家」を思わせる写真の奥には、鮮度を失わない家族のくらしが見え隠れする。

「パドックの家／牧場に建つ家 no.2／宮城島崇人」は昨年発表された「牧場に建つ家 no.1」と同じ牧場景観の中に建つ。パドックに沿って配置された建物は僅かに折れ曲がり、両妻面に設えられた大きなポーチ状空間と相まって不思議な空間体験を提供してくれそうだ。ここで見られる北海道の原風景とでも言うべき美しい田園風景は、一次産業の事業主によってつくられているとも言える。宮城島のような設計者が、彼らの求める機能や費用の問題をクリアしつつ、景観要素としての「建築」のあり方、ランドスケープデザインまで、広い範囲にわたって統括できる職能を持つことを、より多くの一次産業関係者に理解してもらい、魅力的な北海道の風景を今後更に広げていってほしい。

「粘る家／圓山彬雄」は北海道におけるCB造住宅文化の歴史を振り返る発表であった。蓄熱・保温性（室温が下がり難い＝「粘り」）から、CB建築は災害時の避難所に相応しく、各町内に一軒外断熱CB住宅があるべきだという主張は、胆振東部地震の後だけに少なからぬ説得力を持っていた。

「琴似の街家／佐野天彦・佐野光」は近商地域に建つ店舗併用住宅。高さ1.4mの格子状の構造体が7層重なる中、ピット床含め8枚の床がリズミカルに配置されている（基準法上の階数は2）。構造材から仕上げ材までを等価に扱うことで、工事途中の木造建築が持つ心地よさ、美しさが内包された魅力的な住まいとなっている。

遠藤謙一良による**「小樽市の歴史的建造物の保存・再生・活用と街づくりの試み」**では、NPO小樽ワークスにおける2008年からの活動報告がなされた。単なる建物の管理や修繕という方法だけでなく、アートプロジェクトを絡めた「一時的再生」を試み、それをきっかけに多くの人々を交え、建築的価値について多様な視点で再考するという手法に興味がある。空知炭鉱遺産などでも同様の手法が試みられているが、NPO間のネットワーク形成や活動の持続によって今後物理的な成果が増えることも期待したい。

「南幌町みどり野　きた住まいるヴィレッジ／北海道、JIA北海道支部」は北海道がモデルヴィレッジ（住宅展示場／後にモデルハウスは販売される）の全体計画や企画、モデルハウス（5棟）の設計をJIA北海道支部に業務委託し、協働するという新しい試みである。こうした方法が定着し、美しい町並みと豊かな生活、建築文化がいつの日か北海道に根付いてくれることを期待している。

パドックの家

粘る家

琴似の街家

新入会員の紹介（平成 29 年 12 月～平成 30 年 11 月）

支部名	名　　称	代表者又は開設者	所　　在　　地	電　話	FAX
札幌	㈱上村建築設計事務所	上村　福里	〒060-0042 札幌市中央区大通西 9 丁目 3-33	011-272-8025	011-272-8031
札幌	スミタス Re ホーム㈱	佐藤　直樹	〒064-0953 札幌市中央区宮の森 3 条 1 丁目 4 番 1 号	011-622-3739	011-622-6560
札幌	JAS 構造サポート㈱	相馬　靖宏	〒005-0004 札幌市南区澄川 4 条 3 丁目 5 番 13 号 ウェルス澄川 2 階	011-833-7779	011-833-7811
札幌	㈱総合設備コンサルタント 札幌事務所 一級建築士事務所	市村　　充	〒060-0004 札幌市中央区北 4 条西 16 丁目 1 番地 テルウェル札幌第二ビル	011-643-1321	011-643-1421
札幌	㈱丹波組	丹波　正宏	〒066-0047 千歳市本町 1 丁目 14 番地	0123-23-7711	0123-24-2959
札幌	物林㈱ 一級建築士事務所	淡中　克己	〒060-0003 札幌市中央区北 3 条西 2 丁目 10 番地 2	011-271-1685	011-271-3030
札幌	デイズ建築設計事務所	髙橋　大輔	〒064-0810 札幌市中央区南 10 条西 10 丁目 1-20 さくらビル 5 階	011-522-9725	011-522-9729
札幌	㈱アユミ建築設計	伊東　祐一	〒003-0022 札幌市白石区南郷通 14 丁目南 10 番 1-103 号	011-876-8970	011-876-9723
札幌	㈱ジェンテックス	碓井　伸典	〒002-0855 札幌市北区屯田 5 条 3 丁目 1-2	011-788-9464	011-788-9497
札幌	ARCHIve	杉山　友和	〒065-0011 札幌市東区北 11 条東 4 丁目 2 番 2 号	011-557-7557	011-557-7557
札幌	㈱創元建築設計	三浦　良夫	〒004-0064 札幌市厚別区厚別西 4 条 4 丁目 15-13	011-896-2511	011-896-2512
札幌	日立造船㈱北海道支社 一級建築士事務所	谷所　　敬	〒060-0003 札幌市中央区北 3 条西 4-1-1	011-231-2215	011-231-2419
札幌	角田木製品工業㈱	角田　祐一	〒007-0852 札幌市東区栄町 911 番地 8	011-783-2289	011-783-8631
札幌	北ガスフレアスト㈱ フレアスト東	金沢　明法	〒003-0029 札幌市白石区平和通 14 丁目北 1 番 23 号	011-865-2010	011-865-2019
札幌	クラシタス㈱札幌支店 一級建築設計事務所	廣中　　聡	〒004-0041 札幌市厚別区大谷地東 2 丁目 1 番 60 号	011-896-2341	011-896-2342
札幌	㈱お茶の水工房	坂井　正周	〒062-0025 札幌市豊平区月寒西 5 条 8 丁目 2-17	011-859-6555	011-876-8550
札幌	メビウス	横井　亮治	〒006-0823 札幌市手稲区前田 13 条 10 丁目 4 番 6 号	011-556-4539	011-556-2486
札幌	㈱和泉組 一級建築士事務所	和泉　輝彦	〒062-0904 札幌市豊平区豊平 4 条 8 丁目 1 番 25 号	011-811-1586	011-821-0035
札幌	W㈱	渡辺　仁基	〒063-0002 札幌市西区山の手 2 条 12 丁目 10 番 1 号	011-777-9476	―

支部名	名　　称	代表者又は開設者	所　　在　　地	電　話	FAX
札幌	オリエント建設㈱	藤田　春幸	〒005-0841 札幌市南区石山1条7丁目27番7号	011-594-2066	011-594-2788
札幌	一級建築士事務所 ㈱アーキ・プロジェクト	藤田　利長	〒063-0034 札幌市西区西野4条10丁目8-3	011-827-5136	011-827-5137
札幌	㈱日江金属	小林　　隆	〒067-0051 江別市工栄町3番地5	011-382-7711	011-382-7722
札幌	㈱フィルド	齋藤　貴之	〒060-0062 札幌市中央区南2条西1丁目7番地8 山口中央ビル4Ｆ	011-233-3101	011-233-3102
札幌	㈱テクノクルー	矢吹　定夫	〒060-0807 札幌市北区北7条西1丁目1番11 バームハイツ札幌701号室	011-700-4103	011-700-4773
函館	三光工業㈱	林　　完治	〒040-0081 函館市田家町2番32号	0138-41-1504	0138-41-1643
後志	フレイハウス	渡邉　勝之	〒044-0051 虻田郡倶知安町北1条西1丁目19番地 山崎ビル2Ｆ	0136-55-5961	0136-55-5961
宗谷	保険サービス㈱ アトリエＫ	澤村　勝幸	〒097-0017 稚内市栄5丁目8番13号	0162-32-4574	0162-32-4575
紋別	北栄建設産業㈱ 建築設計事務所	青田喜代美	〒094-0005 紋別市幸町1丁目1番15号	0158-24-3185	0158-24-3187
室蘭	㈱内池建設 一級建築士事務所	内池　秀敏	〒050-0065 室蘭市本輪西町1丁目5番10号	0143-55-7785	0143-55-7795
室蘭	東海建設㈱ 一級建築士事務所	中田　孔幸	〒050-0072 室蘭市高砂町4丁目14番16号	0143-46-1201	0143-45-6790
室蘭	遠田建設㈱	遠田　耕治	〒059-0024 登別市緑町2丁目31番地3	0143-85-6561	0143-88-1294
室蘭	高橋建築事務所	高橋　芳朗	〒051-0022 室蘭市海岸町3丁目10番11号	0143-24-0333	0143-24-4511
室蘭	㈱ベルン	髙橋　博哉	〒059-0032 登別市新生町1丁目17番地1	0143-57-6544	0143-57-4430
室蘭	大内建設㈱ 二級建築士事務所	森本　　靖	〒050-0074 室蘭市中島町3丁目40番13号	0143-43-5630	0143-45-4412
苫小牧	㈱カンシャス	荒川　正明	〒053-0031 苫小牧市春日町3丁目3番13号	0144-33-8178	0144-84-8078
十勝	くらしといえ	土田　美佳	〒080-0021 帯広市西11条南11丁目3-8	0155-66-4996	0155-66-4997
十勝	㈱ネクサス設計事務所	曽根　啓介	〒080-0016 帯広市西6条南6丁目4番地	0155-22-4531	0155-22-4531
十勝	鳥本設計	鳥本　君彦	〒080-0026 帯広市西16条南41丁目1番地11	0155-47-8402	0155-47-8402
釧路	大陸建設㈱	土屋　憲幸	〒084-0913 釧路市星が浦南1丁目1番2号	0154-65-1000	0154-65-1001
釧路	氏家設計事務所	氏家喜久雄	〒085-0061 釧路市芦野3丁目32番13号	0154-37-1891	0154-37-1891

平成 30 年度　一般社団法人北海道建築士事務所協会　名簿

役　　員

役職名	氏　名	所　　属
会　　長	庄司　雅美	㈱ホクテイ建築事務所
副 会 長	柳舘　直人	㈱ドーコン
〃	川幡　宏一	㈱総合開発設計
〃	中島　　勉	㈱中島設計コンサルタント
〃	中野　隆二	㈲フォルムデザイン
〃	松見　修二	㈱北匠建築設計事務所
〃	重綱　博美	㈱ Fan 建築設計
〃	三浦　　啓	三浦建築設計事務所
〃	笹木　勇一	㈱清和設計事務所
専務理事	中川　國義	(一社)北海道建築士事務所協会
理　　事	木谷　靖孫	㈱北海道日建設計
〃	相良　敬治	㈱さがら設計事務所
〃	中原　隆一	㈱札幌日総建
〃	奈良　顕子	㈲奈良建築環境設計室
〃	藤原　昇悟	㈱中山設計事務所
〃	松田　眞人	㈱都市設計研究所
〃	三栖　　博	㈱アトリエブンク
〃	大古　正平	㈲オオフル建築設計事務所

役職名	氏　名	所　　属
理　　事	榊　　政信	北の杜合同会社建築設計事務所
〃	中田　信広	㈱中田建築設計
〃	柴野　修一	㈱柴滝建築設計事務所
〃	大野真一郎	大野土建㈱
〃	原田　欣典	興北建設㈱
〃	阿部　　裕	㈲阿部設計事務所
〃	土屋善治郎	土屋工業㈱
〃	桒原　一夫	㈲桒原測量設計事務所
〃	菅　　俊治	㈱菅設計企画
〃	本田不二夫	㈲本田建築事務所
〃	木原　宗孝	エーシー企画
〃	太田　　豊	㈱創造設計舎
〃	高橋　正明	㈲ﾀｶ・ｱｰｷﾃｯｸ一級建築士事務所
〃	志田　純司	第一宅建設計㈱
監　　事	福本　雅之	㈱福本構造設計
〃	寺西　政二	㈲設計同人アルファ
〃	鈴木　貞司	新田・鈴木法律事務所

支　部　長

支部名	氏　名	所　　属
札　　幌	柳舘　直人	㈱ドーコン
函　　館	松見　修二	㈱北匠建築設計事務所
桧　　山	大古　正平	㈲オオフル建築設計事務所
後　　志	榊　　政信	北の杜合同会社建築設計事務所
小　　樽	中野　隆二	㈲フォルムデザイン
空　　知	中田　信広	㈱中田建築設計
旭　　川	重綱　博美	㈱ Fan 建築設計
名　　寄	大野真一郎	大野土建㈱
留　　萌	原田　欣典	興北建設㈱
宗　　谷	阿部　　裕	㈲阿部設計事務所

支部名	氏　名	所　　属
網　　走	土屋善治郎	土屋工業㈱
北　　見	笹木　勇一	㈱清和設計事務所
紋　　別	桒原　一夫	㈲桒原測量設計事務所
室　　蘭	菅　　俊治	㈱菅設計企画
苫 小 牧	本田不二夫	㈲本田建築事務所
日　　高	木原　宗孝	エーシー企画
十　　勝	太田　　豊	㈱創造設計舎
釧　　路	三浦　　啓	三浦建築設計事務所
根　　室	志田　純司	第一宅建設計㈱

委　員　会

総 務 委 員 会

役　職	氏　名	所　　属
担当副会長	川幡　宏一	㈱総合開発設計
委 員 長	相良　敬治	㈱さがら設計事務所
副委員長	田所　裕司	㈱アクティ建築設計
〃	本久　公洋	㈱M・A設計工房
委　　員	金山　研一	㈱福島工務店一級建築士事務所
〃	菊地　峰生	㈱ヤマト建設設計事務所
〃	池本　裕治	空間工房シリウス㈲
〃	神田　光英	㈱神田設計
〃	塩川　顕児	塩川建設㈱

業務・技術委員会

役　職	氏　名	所　　属
担当副会長	重綱　博美	㈱ Fan 建築設計
委 員 長	松田　眞人	㈱都市設計研究所
副委員長	遠田　雅宏	㈱浅井建築設計事務所
委　　員	鈴木　吉嗣	㈱ビーゴーイング
〃	三ツ江元治	一級建築士事務所㈱三ツ江建築測量事務所
〃	亀田　　宏	亀田工業一級建築士事務所
〃	柳　　雅人	柳雅人建築設計工房
〃	眞壁　喜男	くりえいと創
〃	中川　勝一	㈱エヌ・ケー建築設計室

(設計競技専門委員会)

役　職	氏　名	所　　属
委 員 長	澤田　貞和	㈱日本工房
委　　員	小西　彦仁	ヒココニシアーキテクチュア㈱
〃	三ツ江元治	一級建築士事務所㈱三ツ江建築測量事務所

(建築物耐震診断等評価委員会)

役職名	氏　名	所　　属
委 員 長	石山　祐二	北海道大学名誉教授
副委員長	遠藤　淳治	㈱あい設計札幌支社 技術顧問
〃	小田　信一	㈱竹中工務店北海道支店 品質部部長付
〃	後藤　隆之	(一社)日本建築構造技術者協会 北海道支部顧問
委　　員	荒井　一博	魁建築設計事務所　代表
〃	五百蔵健行	(一社)日本建築構造技術者協会 北海道支部元監査役
〃	内山　晴夫	㈱久米設計札幌支社　支社長
〃	久次米　薫	㈱北海道日建設計 構造設計室長
〃	佐々木克也	㈱NTT ファシリティズ北海道 営業部　NTT 営業部門長
〃	城　　攻	北海道大学名誉教授
〃	武田　　寛	北海道科学大学名誉教授
〃	福井　　勉	鹿島建設㈱北海道支店 建築部専任職
〃	真柄　祥吾	北海学園大学工学部 建築学科　教授

広 報 委 員 会

役　職	氏　名	所　　属
担当副会長	三浦　　啓	三浦建築設計事務所
委 員 長	藤原　昇悟	㈱中山設計事務所
副委員長	蒔田　淳一	㈱白樺設計
委　　員	宮房　晋矢	㈲ハース設計一級建築士事務所
〃	西島　弘志	㈲西島設計
〃	徳留　裕敏	㈲ Rize international
〃	山田　利彦	㈱ひのき
〃	佐藤　徳文	㈲さとう建築デザイン室
〃	髙橋　雅敏	一級建築士事務所髙橋建築企画

教育・情報委員会

役　職	氏　名	所　　属
担当副会長	松見　修二	㈱北匠建築設計事務所
委 員 長	中原　隆一	㈱札幌日総建
副委員長	中薮　則喜	㈱中薮建築工房
委　　員	小倉　治郎	㈱二葉設計事務所
〃	佐藤　　裕	エスワークス建築設計事務所
〃	中原　茂人	㈱渡辺建築設計苫小牧本社
〃	柴田　茂嘉	㈲柴田建設一級建築士事務所
〃	小沢　昌博	㈱小澤建設
〃	桒原　一夫	㈲桒原測量設計事務所

指 導 委 員 会

役　職	氏　名	所　　属
担当副会長	中島　　勉	㈱中島設計コンサルタント
委 員 長	奈良　顕子	㈲奈良建築環境設計室
副委員長	荒川　治通	㈱荒川建築設計事務所
委　　員	河村　和義	㈱アトリエK
〃	中岡　正憲	㈱アトリエブンク
〃	山本　明恵	恵和建築設計事務所
〃	鈴木　貞司	新田・鈴木法律事務所

（建築相談調査委員会）

役職名	氏　名	所　　属
委 員 長	柳舘　直人	㈱ドーコン
副委員長	中島　　勉	㈱中島設計コンサルタント
道央ブロック委員	中野　隆二	㈲フォルムデザイン
道南ブロック委員	松見　修二	㈱北匠建築設計事務所
道北ブロック委員	重綱　博美	㈱ Fan 建築設計
オホーツクブロック委員	笹木　勇一	㈱清和設計事務所
道東ブロック委員	三浦　　啓	三浦建築設計事務所

倫 理 委 員 会

構成委員は５名とし、会長が指名する副会長３名、当該地域の支部長１名、弁護士等の外部委員１名とする。

IT　委　員　会

役　職	氏　名	所　　属
担当副会長	中野　隆二	㈲フォルムデザイン
委 員 長	三栖　　博	㈱アトリエブンク
副委員長	澤田　貞和	㈱日本工房
委　　員	田所　裕司	㈱アクティ建築設計
〃	石丸　修二	㈱北海道日建設計

青 年 委 員 会

役　職	氏　名	所　　属
担当副会長	笹木　勇一	㈱清和設計事務所
委 員 長	木谷　靖孫	㈱北海道日建設計
副委員長	岡田　幸生	㈱岡田設計
委　　員	梅原　博大	伊藤組土建㈱一級建築士事務所
〃	金田　貴彦	㈱金田設計
〃	深瀬　正人	須藤建設㈱ SUDO 設計
〃	齋藤　弘源	H.S.A
〃	神田　光英	㈱神田設計
〃	石井　孝行	㈱武田建築設計事務所
〃	安原　英司	安原建築設計

A R C 作品集 2 0 1 8

A R C
作品集
2 0 1 8

目次　CONTENTS

ゆめちからテラス …… 78

設計監理　株式会社北海道日建設計

施工　株式会社中山組

札幌市立中の島小学校 …… 79

設計監理　㈱北海道日建設計
設備設計は㈱北日本技術コンサル（実施設計～）

施工　建築：田中・丸竹竹田 JV、強電：北盛電設㈱
弱電：システムサービス㈱、空調：立川工業㈱
衛生：㈱日新工業、解体：板谷土建㈱

釜谷多目的活性化施設「釜谷ゆうなぎ館」 …… 80

設計監理　株式会社北匠建築設計事務所

施工　茂泉・川瀬・平澤経常建設共同企業体

学校法人市村学園　芦別みどり幼稚園附属保育園リリー 81

設計監理　株式会社西村建築設計事務所

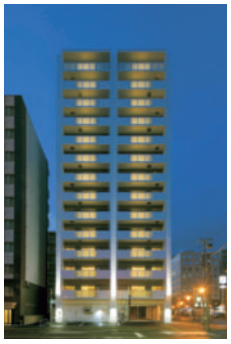
施工　泰進・渡辺共同企業体

社会福祉法人高陽福祉会　ピッコリーノ保育園 82

設計監理　株式会社西村建築設計事務所

施工　大木建設株式会社札幌支店

éclair 83



設計監理　株式会社 DESIGN FIELD

施工　株式会社藤井工務店

ロータス伏見邸 …… 84

設計監理　株式会社 DESIGN FIELD

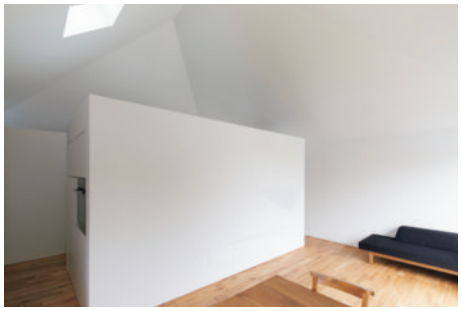
施工　株式会社アセットプランニング

北広島市役所新庁舎 …… 85

設計監理　久米・ブンク共同企業体

施工　岩田地崎・丸彦渡辺・田島特定建設共同企業体

ヨハクノイエ …… 86



設計監理　小坂裕幸建築設計事務所

施工　株式会社福島工務店

赤平市立赤平中学校 …… 87

設計監理　株式会社ドーコン

施工
建築主体工事（校舎棟）　西出・植村・丸宮特定 JV
建築主体工事（体育館棟）　むらかみ・和泉・佐々木特定 JV
強電設備工事　相栄・末廣屋特定 JV
弱電設備工事　麻生・北弘特定 JV
空気調和換気設備　石川・植村特定 JV
給排水衛生設備　西出・川本特定 JV

道の駅　石狩「あいろーど厚田」 …… 88

設計監理　株式会社ドーコン

施工　三津橋・酒井・三和・半澤　特定共同企業体

ゆめちからテラス

発注者　株式会社ジャンス
設計監理　株式会社北海道日建設計
施　　工　株式会社中山組

《設計概要》
面　　積　延べ　2,428.35 m²
構　　造　S造・地上2階
外観仕上　ガルバリウム鋼板、レンガタイル、レンガ
工　　期　平成29年9月～平成30年4月
建 設 地　北海道江別市

《設計主旨》
国産小麦のみでパンを作りたいという敷島製パン(Pasco)、自分たちの育てた小麦からできるパンを見たいという道央農業協同組合(JA道央)、両者の強い思いが結実した共同プロジェクト。硬質小麦「ゆめちから」を扱う製パン工場、ベーカリー、野菜直売所、小店舗からなる複合施設。ロードサイドをにぎわす商業施設としての顔と、衛生面に配慮した食品工場としての2つの顔を併せ持つ。背景に拡がる豊かな緑を借景に、江別レンガ、道産木材を効果的に使用した開放性の高い共用空間とした。
設計担当：川東　隆、江崎岳史（元所員）

札幌市立中の島小学校

発注者　札　幌　市
設計監理　㈱北海道日建設計
　　設備設計は㈱北日本技術コンサル（実施設計～）
施　工　建築：田中・丸竹竹田 JV、強電：北盛電設㈱
　　弱電：システムサービス㈱、空調：立川工業㈱
　　衛生：㈱日新工業、解体：板谷土建㈱

《設計概要》
面　　積　延べ　9,443.54 m²
構　　造　RC／SRC／S・地上 4 階
外観仕上　外断熱湿式工法のうえ可とう形外装薄塗材E
工　　期　2016 年 6 月～2017 年 8 月
建 設 地　北海道札幌市豊平区
写真撮影　佐々木育弥

《設計主旨》
仮設校舎を設けず建替えた小学校。体育館を内包した校舎とし狭隘なグラウンドで建設可能な計画とした。体育館を中心に教室、水呑み場やデン、精進川に面した図書室、テラス等を連続させ、行き止りのない動線とした。体育館を囲む教室群は断熱空間となり冬季の活動の場となる体育館の温熱環境を冷負荷から守っている。児童の好奇心、探求心を引出すよう各所に色、素材、様々なスケールやテーマ性を持ったデンを散りばめた。校舎には児童の多様なアクティビティ、コミュニケーションの連鎖する風景が溢れている。
設計担当：佐藤教明、濱口芳郎

釜谷多目的活性化施設
「釜谷ゆうなぎ館」

発 注 者　木古内町長　大森　伊佐緒
設計監理　株式会社北匠建築設計事務所
施　　工　茂泉・川瀬・平澤経常建設共同企業体

外観

ロビーホール

玄関

《設計概要》

建設地	上磯郡木古内町字本町 218
面積	349.46 m²
規模・構造	木造平屋建
外観仕上	マグネシウム含有ガルバリウム鋼板
工期	平成 28 年 4 月～平成 28 年 10 月

《設計主旨》

木古内町釜谷の地域住民が使用していた会館の老朽化を受け、新しい集いの場として本施設を新築しました。

漁港に近接した周辺環境を考慮し、床高は防波堤より高い位置に設定し、外装材の鋼板は、耐食性に優れるマグネシウム含有のガルバリウム鋼板を採用しました。

本施設は幅広い用途に応えることができる会館となるよう、研修室を可動間仕切りにより区画可能な大広間と、和室の２種類計画し、大広間にはイベントや葬儀が行える祭壇を兼ねたステージを設置しました。

ロビーホールは、杉羽目板を用いたアクセントウォールを持つ吹抜け空間とし、登り梁と化粧野地板を用いた天井仕上げとしました。また、吹抜け上部には電動式のハイサイドライトを設置し、風通しがよく、開放的な交流の場となるよう計画しました。

設計担当・松見陽介、小牧樹弘

学校法人　市村学園
芦別みどり幼稚園附属保育園リリー

発注者　学校法人　市村学園
設計監理　株式会社　西村建築設計事務所
施　　工　泰進・渡辺共同企業体

外観（1）

外観（2）

玄関

ほふく・保育室

《設計概要》
面　　積　延べ 183.33 m²
構　　造　S造・地上1階
外観仕上　ガルバリウム鋼板角波張り
工　　期　平成 29 年 10 月～平成 30 年 3 月
建 設 地　芦別市南1条東1丁目 8-2
施　　工　泰進・渡辺共同企業体

《設計主旨》
自然豊かな芦別市にある本保育園は、0歳～2歳児までを対象とした芦別みどり幼稚園附属の小規模保育園として、ゆったりとした環境の中で丁寧な保育ができる園舎を目指し建設されました。
外観は、隣接する芦別みどり幼稚園のイメージを崩さないように白と淡いピンクを基調とし園長先生の言われる「やわらかい」イメージに合わせ、固い印象を与えない計画としています。建物中央の三角形の屋根にはハイサイドライトを設け建物内部に光が届くように配慮しており天井には街のキャッチフレーズを意識したクロスを取り入れることにより、園児が芦別という土地に興味を持って豊かな個性や感情を自然豊かな土地を利用して育むことが出来るような環境を提案しています。
中央に建物出入口と職員室を配置し左右に乳児室（0歳）とほふく保育室（1・2歳）を配置することで年齢に合わせた保育を混同することなく適切に行うことを可能にしています。また、既存の幼稚園側に調理室や前室を設けることで、将来的に保育事業が拡大した場合にも保育部門と管理部門の動線が重なることなく給食を配送できるように配慮して内部計画を行いました。
本施設が少しでも園児の成長や使用する職員の手助けになることを願っています。（記・岡部）
設計担当：安中元規、岡部宏祐

社会福祉法人高陽福祉会
ピッコリーノ保育園

発注者　社会福祉法人高陽福祉会
設計監理　株式会社　西村建築設計事務所
施　　工　大木建設株式会社　札幌支店

外観

ポーチ

ホール

遊戯室

《設計概要》

面　　積　延べ 700.73 m²
構　　造　RC 造・地上 2 階
外観仕上　コンクリート打放し仕上の上多意匠装飾仕上塗材、レンガタイル、FRP 製装飾塔
工　　期　平成 29 年 8 月～平成 30 年 3 月
建 設 地　北海道札幌市白石区北郷 1 条 6 丁目 1 番 25 号
施　　工　大木建設株式会社　札幌支店

《設計主旨》

0 才～ 5 才児までを対象とした本保育園は、JR 白石駅より程近い閑静な住宅街の中に位置します。

外観は、「お城のような」という園の依頼に近づけるため JR 沿線上から見える正面に大小合わせて 7 つの塔を配置し、庇には装飾手すりを施しています。また、屋外空間は園庭の他、2 階屋上に園児が保育室から直接アクセスできる屋外遊戯場を設け、限られた敷地の中で広々と遊ぶことができる計画としました。

内部空間はお城を意識したレンガ調クロスを取り入れ、1 階の 0 才～ 2 才児の部屋は暖色、2 階の 3 ～ 5 才児の部屋は寒色で色分けすることにより、年齢別に変化のある空間で保育を行える計画となっています。2 階の遊戯室では窓から列車が行き来する姿を楽しむことができ、のびのびと豊かな個性を育む環境づくりに配慮しました。

また、遊戯室は隣接する保育室と可動間仕切りで仕切ることで、お遊戯会や卒園式などのイベント時には大きなホールとしても活用することができます。

全体としてコンパクトにまとまりながらも、園児たちが自由に感情豊かにのびのび育つことのできる保育園を目指しました。（記・山本）

設計担当：安中元規・綿谷裕司・山本　楓

éclair

発注者　合同会社 VENUS
設計監理　株式会社 DESIGN FIELD
施工　株式会社 藤井工務店

外観（南面）

ポーチ

エントランス

2 LDK

《設計概要》

面　　積　延べ 5,324.90 m²
構　　造　RC 造　地上 14 階
外観仕上　シリコン樹脂塗装、コンクリート打放
工　　期　平成 29 年 4 月～平成 30 年 8 月
建 設 地　札幌市中央区南 1 条西 17 丁目
　　1-3、-4、-5、-6、-17、-21

《設計主旨》

本建物は地下鉄東西線『西 18 丁目駅』付近、札幌医科大学及び附属病院の北側という好立地にあり、建主からは〝立地特徴を活かした良質な賃貸マンションを〟との計画依頼があった。要望に応えるべく、まずは容積を限度まで駆使した無駄のない設計を実現させ、ファミリー向けの 2 LDK と単身向けの 1 LDK で入居者の可能性を広げた。

外壁は精度を上げるために何度も検査を行い、シリコン樹脂塗装・コンクリート打放であるのにも関わらずパネルのような仕上がりを実現し、病院付近である事を意識した白を基調とする清潔感ある見た目とした。

別棟として約 60 m の自立式立体駐車場も併設し、14 階建て 76 戸の住人が不自由なく便利に駐車できるスペースを確保した。

この建物が入居者や地域の人々に長く愛される、街の新たなシンボルのようになる事を目指した。

設計担当・神田雅章

ロータス　伏見邸

発注者　株式会社ロータス
設計監理　株式会社 DESIGN FIELD
施　　工　株式会社　アセットプランニング

2 LDK

エントランス

2 階ホール

外観（正面）

《設計概要》

面　　積　延べ 1,786.66 m²
構　　造　RC 造　地上 11 階
外観仕上　コンクリート打放、外装用ボーダータイル、
　　ウレタン樹脂塗装
工　　期　平成 29 年 7 月～平成 30 年 9 月
建 設 地　札幌市中央区南 19 条西 16 丁目 13-4

《設計主旨》

日影規制・33 m 高度地区の制限がある中で限度まで計画をした、11 階建てのサービス付き高齢者向け住宅である。

3～11 階に 1 LDK（18 戸）・2 LDK（9 戸）、2 階に厨房併設の多目的ルーム・介護用浴室を、1 階には理容室を設けるなど、サービスは充実した内容となっている。

オーナーからテーマとして与えられたのが『和』と『モダン』であった。外部は木調の色合いと縦格子の手摺、瓦を意識したタイルで『和』を表し、反対にコンクリート打放によって『モダン』を表現した。

内部にもふんだんに木目調を使い、高齢者が生活していく中で『温かみ』のある空間となることを意識した。

設計担当・神田雅章

北広島市役所新庁舎

発注者　北広島市
設計監理　久米・ブンク共同企業体
施工　岩田地崎・丸彦渡辺・田島特定建設共同企業体

北西側外観

トップライトからの自然光が注ぐ吹抜

地域子育て支援センター活動室

議場

市内を一望する５階展望テラス

《設計概要》

面　　積　延べ　10,785.43 m²
構造規模　鉄骨造　地上５階建（建築基準法　地上４階・地下１階）
工　　期　平成 27 年８月～平成 30 年８月
建 設 地　北広島市中央４丁目２番地１
外観仕上　磁器質タイル貼（PC 板＋外断熱 FRC パネル下地）
　　アルミスパンドレル（PC 板外断熱＋鋼製下地）
　　アルミカーテンウォール（防音 Low-E 複層ガラス）他
設備業者　機械設備：池田煖房・丸北三建・フォルテック JV
　　電気設備：三共・北英・丸寛佐藤 JV
　　地中熱ヒートポンプ設備：藤井・道三建・島田 JV

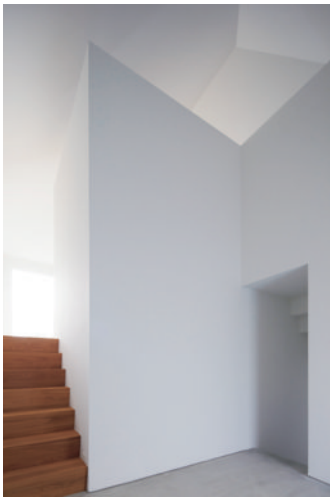
《設計主旨》

新庁舎は、市庁舎機能に加え、新たに保健センター、地域子育て支援センターの他、市民活動の場となる多目的室を備えた複合庁舎として計画された。敷地の高低差を活かし、１階・２階それぞれのレベルで人・車がアクセス可能な計画とし、１階には保健センター・子育て支援センターと多目的室、２階には市民利用頻度の高い窓口機能を配置。３・４階には窓口・行政機能、５階には議会関連諸室の他、市民の憩いの場としてカフェや展望テラスを配した。市民が親しみ、利用し易いことは勿論、あらゆる世代の方が集まる施設として、交流の広がる庁舎を目指し、様々な活動の様子が見えるよう視覚的つながりに配慮し、５層に渡る建物全体を吹抜と階段で繋ぐオープンな計画とした。構造的には重要度係数 1.5 の高耐震構造とする一方、環境面では、PC 外断熱外壁や Low-E ペアガラス等による高気密・高断熱化、床輻射冷暖房や床吹出空調等の居住域空調の採用、太陽光発電や地中熱ヒートポンプ等の自然エネルギー利用等、エコ庁舎を目指した。

外観は、各面毎の機能に合わせて開口率を調整すると共に、防音サッシを採用する等、航空騒音や隣接鉄道騒音に配慮した仕様とする一方、共用部は可能な限りガラスを使用し、にぎわいや活動が外部へ表出することを意図した。

ヨハクノイエ

設計監理　小坂裕幸建築設計事務所
施　　工　株式会社　福島工務店



《設計概要》
面　　積　延べ 96.68 m²
構　　造　W造　地上 2 階建
外観仕上　ガルバリウム鋼板　長尺横葺
工　　期　平成 29 年 4 月～平成 29 年 8 月
建 設 地　札幌市中央区円山西町

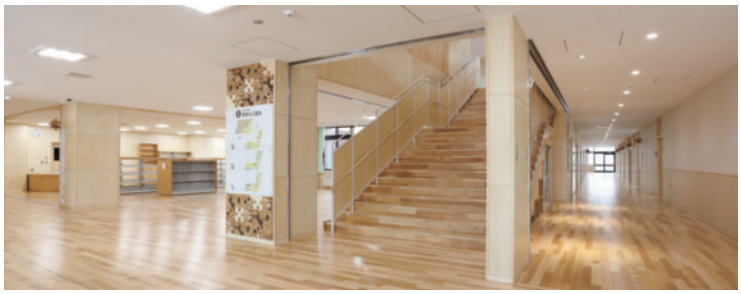
《設計主旨》
夫婦と子供の 3 人が暮らす小さな家。
アトリエを併設した住まいである。
奥様は紙物のデザインをする作家であり、製作活動を行う場となるこの家で 1 日の大半を過ごす。職住を完全に分離することなく日常生活を送りながらも作品作りに没頭することができる暮らしができないかと考えた。
敷地は札幌市中央区円山西町の傾斜地にある緑豊かな住宅街にあり、東側に札幌の街や円山を望むことができる。この眺望を生かすため隣地の隙間を読み取り開口部の位置を決めた。この開口部から差し込む朝日は北面の大きな壁に当たり季節や天候の変化を映しだす。
平面は間口 6.4 m、奥行き 7.8 m の小さな矩形である。
前面道路のレベルを玄関のある中間階とし、半階下がる個室と水周り、半階上がると LDK、さらに数段上がった位置にアトリエを配置することで、個室とアトリエの適度な距離感を保っている。螺旋状の動線には絶えず光が廻り込み様々な表情を見せる。
2 階は外周部以外に柱は無く、寄棟屋根によりフロア全体が包み込むように覆われている。
建物の中心に据えられたアトリエは壁に反射した朝日の光が登る神秘的な空間となる。
季節によって、日によって、時間によって変化する光を映す「ヨハク/余白」のある家になったのではないかと思う。
設計担当・小坂裕幸

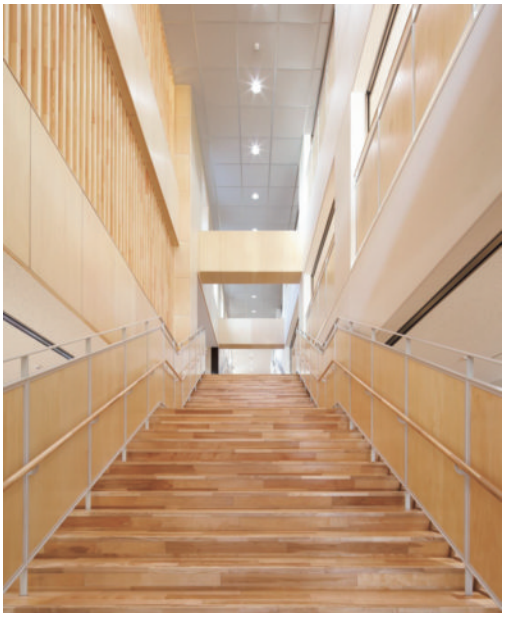
赤平市立赤平中学校

発注者　赤　平　市
設計監理　株式会社ドーコン
施　工　建築主体工事（校舎棟）　西出・植村・丸宮特定 JV
建築主体工事（体育館棟）　むらかみ・和泉・佐々木特定 JV
強電設備工事　相栄・末廣屋特定 JV
弱電設備工事　麻生・北弘特定 JV
空気調和換気設備　石川・植村特定 JV
給排水衛生設備　西出・川本特定 JV

正面外観

多目的ホール


エントランスホール


上り階段

《設計概要》
面　　積　延べ　52,351.65 m²
構　　造　RC 造・地上 3 階
外観仕上　乾式レンガタイル、石調シート、複層塗材
工　　費　278 千万
工　　期　平成 29 年 6 月～平成 30 年 7 月
建 設 地　赤平市北文京町 1 丁目 2 番地
設備業者　石川・植村特定 JV、西出・川本特定 JV

《設計主旨》
　赤平市赤平中学校は、統廃合により、市内で一つの中学校となる。赤平市の子ども達全員が通い、学ぶ場として、居心地の良い空間と思い出に残る建物をコンセプトに、１階から３階までを開放的に繋げる階段、木ルーバー天井の多目的ホール、ランチスペースも兼ねることのできるホールを設けた。また敷地は 8 m の大きな高低差があり、生徒や来校者がアクセスしやすくバリアフリーに対応するため、前面道路のレベルに合わせた「校舎棟」と体育館や家庭科室など地域開放に利用する部屋を集め、高台レベルに建設する「体育館棟」の 2 棟とし、校舎棟 3 階床レベルと体育館棟レベルを合わせ、２本の渡り廊下で繋げることで、大きな回遊動線を創出した。
　また内装は木質化を図り、木に囲まれた落ち着いた空間とした。サイン計画では、赤平産木材を使い、地元デザイナーや地元企業、生徒と協力し、オール赤平のサインデザインとすることで、施設に愛着を持てる計画とした。

道の駅　石狩「あいろーど厚田」

発注者　石狩市
設計監理　株式会社ドーコン
施工　三津橋・酒井・三和・半澤　特定共同企業体

外観 1

外観 2

自然・歴史展示コーナー

交流スペース

《設計概要》

面　　積　延べ　1,334.56 m²
構造規模　RC 造　地上 2 階・地下 1 階
工　　期　平成 29 年 1 月～平成 30 年 3 月
建 設 地　北海道石狩市厚田区厚田 68- 5 ほか
外構仕上　コンクリート打放し・塗装仕上
設備業者　電気設備　北盛・クリヤ特定共同企業体
機械設備　石狩環境・石狩管工　特定共同企業体

《設計主旨》

本施設は国道 231 号線沿いに道の駅石狩「あいろーど厚田」として建てられました。建物は日本海を見渡すことのできる斜面地に建てられ、隣接する厚田公園などのランドスケープと一体的な整備を行いました。

1 階は地場産品を紹介・販売するコーナーや地域観光情報コーナー、休憩スペースや 24 時間トイレ等を配置しました。2 階には眺望の良い交流スペースや自然歴史展示コーナー、地場産品体験コーナーや自由に使える休憩スペースを配置しました。また 2 階からは、屋外のこども広場にアクセスすることができます。さらに日本海を一望する 3 階には地域コミュニティー施設と日本海を一望できる展望バルコニーを配置し、美しい夕日を眺めることができます。3 階からは厚田公園へバリアフリーでアクセスできるよう計画しました。

建物の内装には天井やサッシ等に地域にゆかりのある木材を用い、お年寄りから若い世帯まで親しみやすい木のぬくもりを感じられる空間としました。

設計担当：大槻政洋

ご存知ですか？ 建築士法が 改正されました！

（平成27年6月25日施行）

今回の建築士法の改正では、建築主の皆様にとって
重要な項目が規定されました。

❶ 書面による契約の締結が義務化されました

（延べ面積300㎡を超える建築物の設計等）

トラブル防止のため、書面で契約をしましょう

❷ 国の報酬基準に準じた代金での契約が努力義務化されました

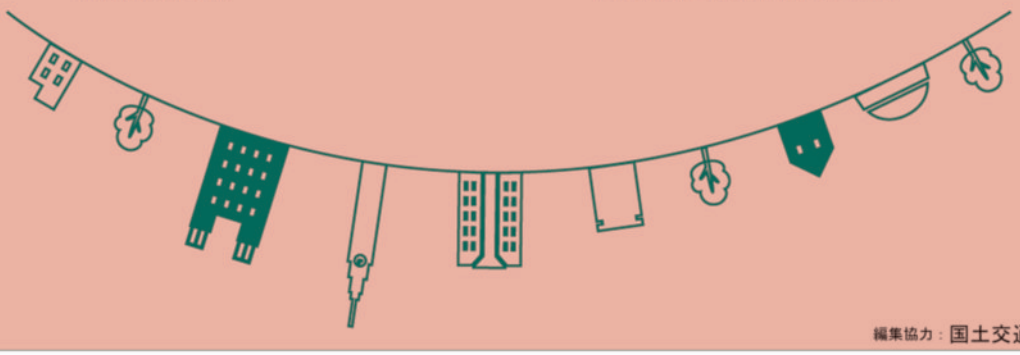
業務の質を確保するため、適正な代金で設計等の契約をしましょう

❸ 登録を受けた建築士事務所と契約が必要です

法律改正にあわせ、無登録業務の禁止が徹底されます

❹ 建築主からの求めによる建築士免許証の提示が義務化されました

建築主は依頼先の建築士に対し、建築士であることを確認できます



編集協力：国土交通省

▶その他にも改正事項があります。詳細は、以下の各会ホームページをご覧ください。

一般社団法人 日本建築士事務所協会連合会
http://www.njr.or.jp

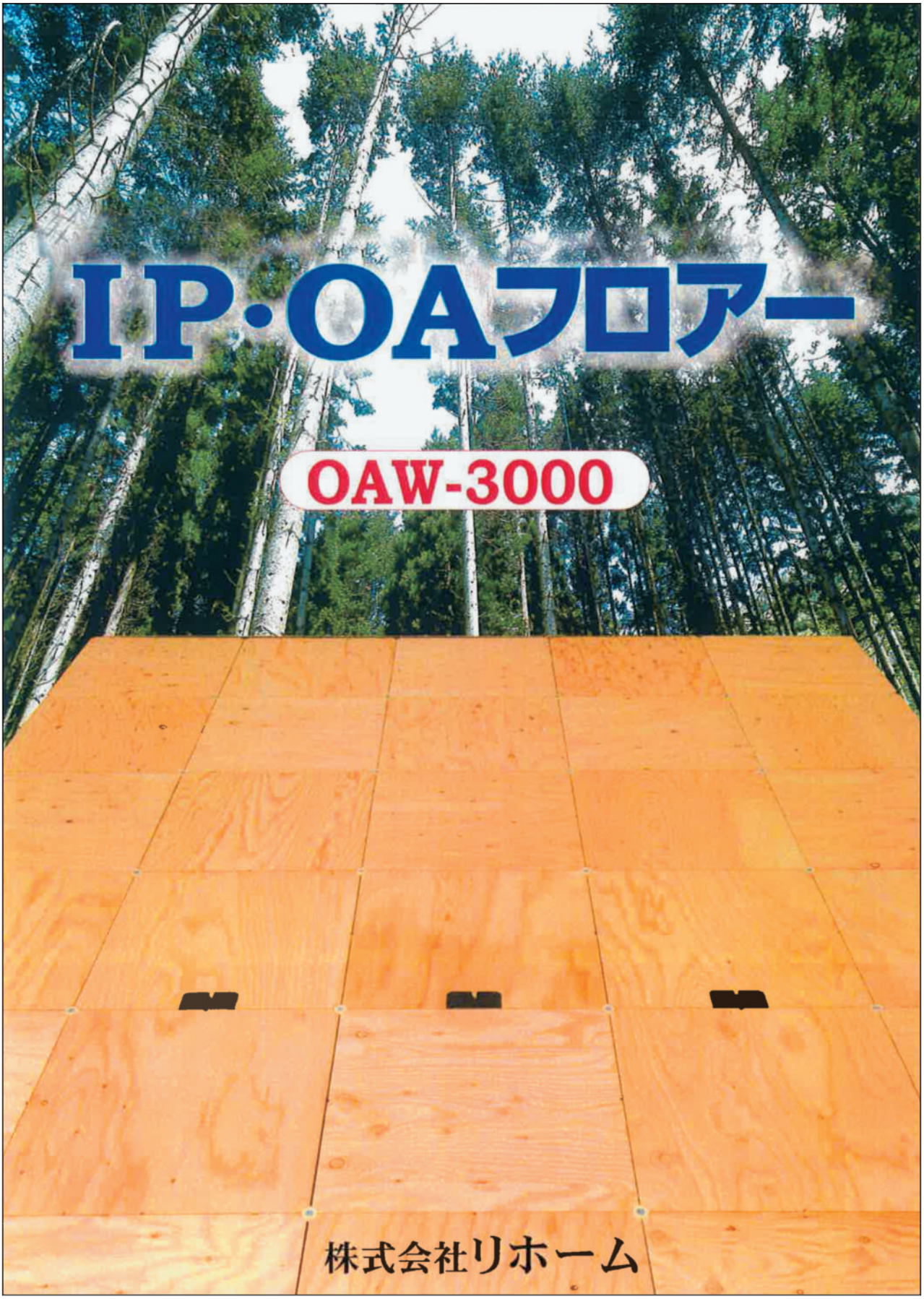
（一社）日本建築士事務所協会連合会（日事連）
都道府県の建築士事務所協会へ
http://www.njr.or.jp/society/

いつもそばに 地域と共に …未来へ

吉田産業

株式会社吉田産業 函館支店
支店長　大川　博
〒040-0076 北海道函館市浅野町1-2
TEL:0138-42-8111 FAX:0138-42-7176

建設資材、環境資材、土木資材、住宅設備機器の販売および施工、気象情報の販売


IP・OAフロアー
OAW-3000
株式会社リホーム

避難の新しいカタチを提案します。

- 体力を使わずラクラク避難
- 簡単操作でスムーズ避難
- 電力不使用の確実避難

操作方法は映像で

https://youtu.be/jaVbYY2b4X4

UDエスケープ、または避難器具についてのご相談は、弊社Webサイト問い合せ資料請求ページの「避難器具お問い合わせフォーム」をご利用ください。

テレビ東京ワールドビジネスサテライト
トレたま2015年間大賞受賞製品

ジャパン・レジリエンス・アワード2018
優秀賞受賞

2018年 第20回国土技術開発賞
入賞受賞

床埋設式降下型避難機器
UDエスケープ

ナカ工業株式会社 www.naka-kogyo.co.jp

札幌支店 〒063-0836北海道札幌市西区発寒16条13-2-50 Tel.011-662-7611 Fax.011-666-1350

特定機器評価取得済み
（特定警報避難機器）
特評第262号

塗装業界のリサイクルに貢献

オミリーパック

ダンボール容器オミリーパック情報

- 国土交通省NETS元登録製品
- グリーンマーク登録製品
- 北海道リサイクルブランド認定製品
- 北海道グリーン購入特定調達品目指定製品
- 道庁本庁舎1階ロビー「地球環境コーナー」に展示中

北海道建設部建築局建築保全課　営繕工事特記仕様書

- 環境への配慮
  環境物品等の調達の記載内容に該当する　オミリーパック

特徴

- 一斗缶同様　現場での一般的段積ができます
- 一斗缶同様　片手で持てます(U－1)（M－1）

用途

- 水性塗料
- 水系塗料
- 水系木材保護塗料
- 水系木部用塗料
- その他水性・水系全般

オミリーパック、塗装業界のリサイクルに貢献

サーマルリサイクル

使用済内袋
混在原料として利用

→

固形燃料製造工場

→

固形燃料

→

使用済後の灰は他分
野への資源に利用

マテリアルリサイクル

使用済後運搬ｹｰｽ
は循環古紙として
回収業者へ

→

循環古紙として
再生工場へ

→

循環古紙再生工場で
ﾀﾞﾝﾎﾞｰﾙ板紙に再生

→

運搬ｹｰｽ製造
再生利用

製造・販売元

株式会社 マルダイ建装

〒084-0923 北海道釧路市鶴野東 3-20-26
TEL 0154-51-9284　FAX 0154-52-2211
【Mail】marudai@abelia.ocn.ne.jp
【URL】 http://www.omiri.jp/

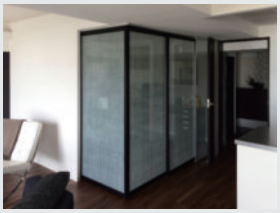
当社比較

大手メーカーの製品は、サイズと仕様が決まっていて高い … とお悩みの方へ

オーダーメイドで注文できる、アルミフレームの建具はいかがですか？

お客様の声と施工事例

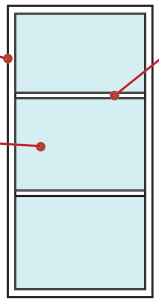
寸法など、現場ごとで融通がきくので助かります。
手直しの対応も早くて信頼できます。
４枚引き込み戸も可能でした。
施工前、施工後にご連絡をいただき、安心してお願いできました。



アルミフレームの建具「アル☆セオ」

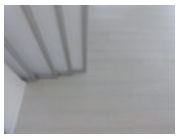
アルミフレームは７種類から選べます。
ご希望の色に塗装したり、シート貼りも可能！

パネルは 100 種類以上！
種類と色をお選びいただけます。
スチロール（ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝ）板、アクリル板、
ポリカーボネート板、デザインフィルム貼ガラス、
アルポリック等からお選びいただけます。



建具の中間あたりに取り付ける中桟の位置は、
ご希望の位置に変更可能ですので、オリジナルなデザインにも対応いたします。

1mm 単位でご注文可能！
現場ごとに建具の収まり図を作成いたします。



レール無しや鍵付き、閉める時にゆっくりスムーズに閉まるソフトクロージングも対応可！

戸建て、マンション、施設や学校、企業の会議室など施工実績多数。
和室リフォーム等で、襖（ふすま）をアルミフレームの建具に変更されるお客様も多くいらっしゃいます。
他の施工事例をご覧になりたい方は、お問い合わせください。

アル☆セオの資料と見本をご希望の方は、お電話か、ホームページのお問い合わせフォームよりお申し付けください。

TEL:011-370-5301 受付時間 平日 9:00～17:00

ホームページは「アルセオ」で検索

アルセオ　検索

DANK 株式会社ダンク
www.kk-dank.co.jp
【本社】〒004-0871　札幌市清田区平岡1条4丁目5-1
【工場】〒061-1274　北広島市大曲工業団地4丁目6-6
TEL：011-370-5301 / FAX：011-370-5877
mail：info@kk-dank.co.jp

PREMIUM SERIES

窯業系サイディング

業界初※

30年

変色・褪色 保証に対応

※ 2017年11月時点。沖縄県の物件を除く。
保証書発行には諸条件がございます。

PREMIUM SERIES
プレミアムシリーズ

住み続ける人のことを、考えて、考えて、考えて、誕生した外壁材です。

人も住まいも、長く生きていく時代。
住まいの外壁材にも、人生に、長く寄り添う役割があると思う。
色あせにも塗膜のひび割れにも強い進化した外壁材。
それが、ニチハのプレミアムシリーズ。

素晴らしい人間環境づくり
NICHIHA ニチハ株式会社　札幌営業所　札幌市東区北42条東15丁目1番1号（栄町ビル）　TEL（011）753-7171　FAX（011）753-7333

くらしの安全を支える基礎に。

ビル、住宅、橋梁など、建築物や道路構造物にしっかりとした基礎工事は非常に重要です。
さらに昨今は、地震などの不慮の災害に強いまちづくりが急務。
クローバーシステムは住宅基礎から耐震補強、地盤・地質調査に至るまで、基礎工事の
スペシャル企業です。
経験豊富な営業マンが自慢のフットワークで北海道全域をカバー致します。

私たちにお任せください！

地盤、地質調査・基礎工事各種・LED照明

CLOVER SYSTEM CORP. クローバーシステム株式会社

Sapporo
〒065-0022 札幌市東区北22条東2丁目1番20号 ヴィラ・ポレール1F
TEL:011-741-2687 FAX:011-741-5073

Asahikawa
〒070-0032 旭川市2条通2丁目54-1 中根ビル2F
TEL:0166-23-9680 FAX:0166-23-9681

E-mail:eigyo@clover-sys.co.jp http://www.clover-sys.co.jp

設計から製造・施工まで製販一体の取組み、北海道を地場とした41年の実績でお応えします。

「信頼を築く」

株式会社 タカフジ

営業内容 ●金属製建具工事 ●硝子工事

本社・工場
札幌市白石区米里1条3丁目6番8号
〒003-0871 電話代表 (011)871-0666
FAX (011)871-0519
E-mail; info@takafujinet.jp
HP; http://www.takafujinet.jp/

釧路営業所
釧路市新栄町13番18号
〒085-0032 電話(0154)68-4351
FAX(0154)68-4352

會澤高圧コンクリート株式会社

代表取締役社長 會澤 祥弘

本　社/苫小牧市若草町3丁目1番4号 独楽ビル	TEL0144-36-3131
札幌支社/札幌市東区苗穂町12丁目1-1	TEL011-723-6600
東京支社/東京都千代田区外神田5丁目3-1 秋葉原OSビル8F	TEL03-5812-9521

皆さまの合格実績に支えられ、もうすぐ50周年

since 1969

結

努力を結果に結びつける

1級建築士 合格実績 No.1

1983～2017年 合格者累計
日建学院 1級建築士
113,712人
全国累計1級建築士 197,391人※
当学院合格者の
1級建築士占有率
57.6%
この35年間の1級建築士の
半分以上が
日建学院出身者です。
2級建築士 合格者数 173,239人 ＊1980～2017年累計
宅地建物取引士 合格者数 102,328人 ＊1978～2017年累計

※上記全国累計は(公･財)建築技術教育普及センター発表試験結果(1983～2017年)のデータです。

あなたの夢、応援します。

日建学院

＊各種お問い合わせ、試験情報については最寄校へお気軽にどうぞ！＊

札幌校 TEL:011-251-6010
札幌市中央区北2条東4丁目1-2 サッポロファクトリー3条館4階

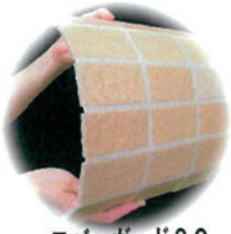
旭川校 TEL:0166-22-0201
旭川市1条10丁目103-85 AJビル5階

株式会社 アイ・ディー・エフ

私たちアイ・ディー・エフは、防水工事を主とした建物改修の専門会社です。防水の他にも、外壁改修、アスベスト対策等、高度な知識と確かな技術力でお客様のご要望にお応えします。

防水工事 … 専門システムによる超速硬化ウレタン吹き付け工法は従来のアスファルト防水では施工が難しかった勾配・傾斜部・複雑な形状にも対応し極めて水密性の高い防水膜を形成します。

外壁改修 …



エバーガードSG

① 外壁タイル剥落防止工法
エバーガードSG工法
（美しい外壁タイル仕上げを保全する）

② 外壁タイルの色・柄・艶を忠実に再現する
貼り替え工法『クローンタイル』工法

クローンタイル

③ タイルをラディカル・リノベーション
無清掃100年の輝き石材を超えた人造石
百年外壁
『ハマキャスト仕上＋タイル脱落防止工法』

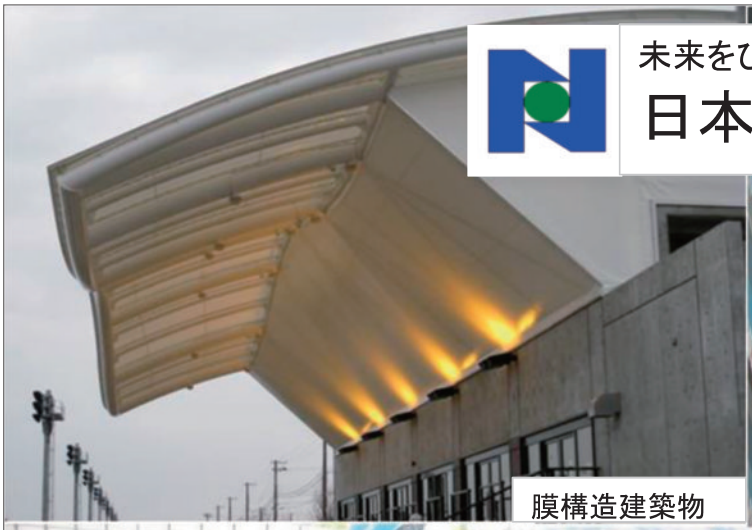
アスベスト対策 … 老朽化した建物の解体時に必要なアスベスト調査もお任せください

また、社会貢献事業として今年で4年目となる花咲スポーツ公園での桜の苗木植樹をアイ・ディー・エフ安全衛生協力会として実施しました。

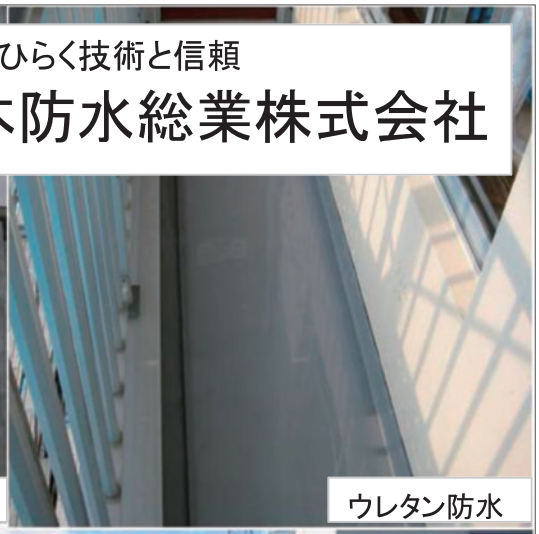
アイ・ディー・エフは、北海道（旭川）で誕生したプロバレーボールチーム「ヴォレアス北海道」を応援しています。

未来をひらく技術と信頼

日本防水総業株式会社



膜構造建築物



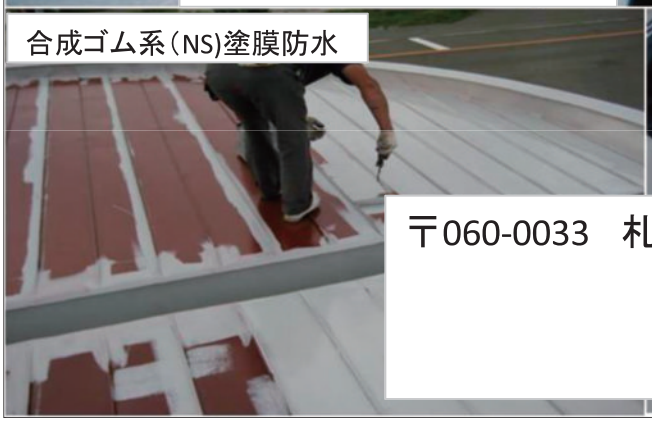
ウレタン防水

改質アスファルト防水トーチ工法

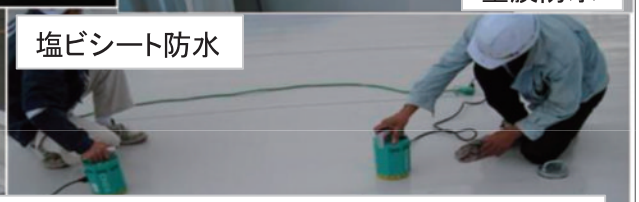
アスファルト防水

改質アスファルト防水粘着工法

塗膜防水



合成ゴム系（NS)塗膜防水



塩ビシート防水

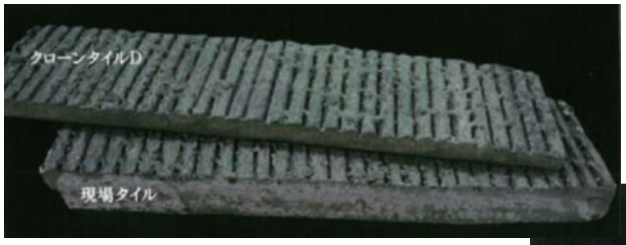
〒060-0033　札幌市中央区北3条東4丁目1番地

TEL　011-231-7511

FAX　011-231-2930

外壁タイルの画期的改修工法

ISO9001:2015 認証取得（本社）



「クローンタイル」

せっかくタイル改修したのに、
タイルの色が違い、資産価値が
下がる・・・・。
タイルの形状が現在のタイル
には無い・・・。など

←クローンタイルには、
樹脂製と磁器質製があります。
写真は樹脂製であり、ひび割れ
の再発防止と軽量化が可能。

東興アイテック株式会社

代表取締役　朝倉　友和

営　業　品　目

- 各種防水工事
- リフォーム工事
- 中空スラブ工事
- GRC工事
- 超軽量太陽光発電システム工事
- 外壁・防水調査診断
- 外断熱パネル工事
- グラウト注入工事
- 耐震補強工事
- 電気防食工事（CPI）

函　館　〒041-0824　函館市西桔梗町862番地5
本　社　TEL:0138-49-8571　/　FAX:0138-49-8572

札　幌　〒062-0901　札幌市豊平区豊平1条1丁目2-32
営業所　豊平1-1ビル　原創建(株)内
TEL:011-817-3388　/　FAX:011-817-3355

苫小牧　〒053-0823　苫小牧市柏木町3丁目10-2
営業所　TEL:0144-82-7240　/　FAX:0144-82-7241

東　北　〒984-0032　仙台市若林区荒井5丁目14番地の1
営業所　TEL:022-287-3410　/　FAX:022-287-3495

基礎杭の専門メーカーとして、土と地盤の知識と経験を駆使し、
安全性と経済性にすぐれたご提案を迅速に皆様にお届けします

- HY-BSパイル・FP-BESTEX工法
  （節付PHC杭・国土交通大臣認定工法）
- G-ECSパイル工法　北海道地区総代理店
  （羽根付鋼管杭・国土交通大臣認定工法）
- HiFB工法
  （PHC杭・国土交通大臣認定工法）
- NEWスーパーFK工法
  （節付PHC杭・国土交通大臣認定工法）
- コロンブス工法
  （地盤置換工法）

株式会社　北雄産業

http://www.hokuyuu.com

本社　北海道札幌市豊平区豊平４条９丁目２番１８号
TEL 011(824)0111　FAX 011(824)0115

東京営業所・函館営業所・東北営業所・茨城営業所・函館福島工場

三谷セキサン株式会社

福井本社／福井市豊島1丁目3番1号　TEL(0776)20-3333(代)
札幌支店／札幌市中央区南1条東1-3(パークイースト札幌8F)　TEL(011)206-7771(代)

http://www.m-sekisan.co.jp/

TAKEDA GROUP

特定建設業・一級建築士事務所

武ダ技建創株式会社

代表取締役社長　武　田　幹　郎

ＩＳＯ９００１：２０１５　認証取得

ＩＳＯ１４００１：２０１５　認証取得

ＯＨＳＡＳ１８００１：２００７　認証取得

本　　社：〒003-0012
北海道札幌市白石区中央２条１丁目
６番15号武田ビル

Ｔ　Ｅ　Ｌ：（代表）011-842-8888

Ｆ　Ａ　Ｘ：011-842-8880

Ｕ　Ｒ　Ｌ：http://www.takeda-gikensou.co.jp/

Ｅ－ｍａｉｌ：info@takeda-gikensou.co.jp

支　　店：東京、安平

元旦 屋根に夢と技術をのせて

雪に強く
落ち葉が入らない
雨どい

表面の落ち葉は
自然の風で落下

自然の風力で
屋根裏の熱気や
湿気を換気する

住宅換気棟 PAT.P

地震・台風・雪に強い
高断熱の住宅横葺き金属屋根

断熱ビューティルーフ®2型 PAT.P

断熱ビューティルーフ 2型(1次防水)
断熱バックアップ材(2次防水)
下葺材(3次防水)
ハゼ内部まで断熱材が入る(高断熱・高強度)

軒先がシャープで美しい
屋根と一体化したデザイン

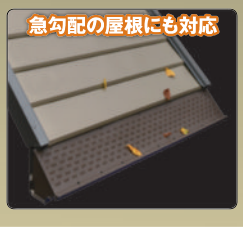
特許・意匠多数出願中(特許16件・意匠50件)

平成生まれの

元旦内樋 PAT.P

GANTAN UCHIDOI

落ち葉が入らず
雨水だけが流れ込む



●新築・リフォーム(改築、後付)
どちらにも対応可能

●ほとんどの屋根材
(金属・スレート・瓦等)に
元旦内樋の設置が可能

「元旦内樋」を
ムービーでご紹介
QRコードを読み取ってください。

「住宅換気棟」を
ムービーでご紹介
QRコードを読み取ってください。

さらに詳しくホームページで
元旦内樋 断熱ビューティルーフ2型 住宅換気棟

製造
発売元
元旦ビューティ工業株式会社
北海道営業所：北海道札幌市東区北三十条東 16-3-21 アミティエ 101 号室 TEL：011-792-6611

カタログ・資料請求
お問い合わせ
フリーダイヤル 0120-09-49-39 (マルク ヨク サンキュー)
https://www.gantan.co.jp

元旦会
信頼・安心・確かな技術で責任施工
全国約8000人の施工ネットワーク

ものつくりマイスター Meister Japan
国際技能・技術振興財団認定
金属屋根マイスター

成功のパートナー

タニコー株式会社

札幌営業所　北海道札幌市白石区平和通 17- 南 3-11
TEL:011-862-3000

岩見沢　TEL.0126-45-3123　旭川　TEL.0166-51-4600　釧路　TEL.0154-25-1341
函館　TEL.0138-47-5377　帯広　TEL.0155-24-8612　北見　TEL.0157-66-1123
苫小牧　TEL.0144-37-2700

詳しくはこちらまで
タニコー　検索
http://www.tanico.co.jp

北海道の大規模木造建築が、“SE構法”で変わります。

SE構法　大規模木造建築　検索

鉄骨造から木骨造へ

株式会社エヌ・シー・エヌ　特建事業部
東京都港区港南 1-7-18 A-PLACE 品川東
tel.03-6872-5641　www.ncn-se.co.jp/large/

構造計算　図面一式　作成

RC壁式構造を得意としております。
貴社の単価に出来るだけ合わせる様に努力いたします。
構造計算で皆様をサポートさせてください！

省エネルギー計算書作成

延べ面積(㎡)	料金(税別)
~500㎡未満	¥60,000
500~1,000㎡未満	¥100,000
1,000~2,000㎡未満	¥150,000

・計算書作成には物件資料受取り後約2週間程かかります。
・書類審査には約1ヶ月程かかります。
・省エネ基準適合の場合は別途お見積りいたします。
・折り返しお電話にてご連絡させていただきます。

FAX　011-665-9348

FAX依頼	建築物の用途	延べ面積　㎡
	構造	階数
	貴社名	ご担当者名
	住所	
	電話番号：	FAX番号：

一級建築士設計事務所 (有)芝木設計

〒063-0062　北海道札幌市西区西町南１７丁目2－45
TEL：011-665-3252　　Email：shibaki-@sea.plala.or.jp

編　集　後　記

早くも 2018 年が終わろうとしています。

2005 年に構造計算偽装問題があり、地元、北海道の建築士も関わり建築設計の信頼を損ないました。同時に、我々設計に携わる者として、なお一層誠実に設計に向き合うよう要請もされました。

設計に携わるようになって、20 年が過ぎようとしています。

幼稚園・老人ホーム・病院・事務所・共同住宅・店舗・ホテル等と様々な物件の依頼を受け一つ一つ勉強しながら、寝ずに設計をしたこともあります。

私を含め趣味は「建築設計」と言ってはばからない建築設計士が多いのも、この普通ではない仕事が、楽しいからです。人様のお金を使って、子供達に「この建物は、お父さんの設計だよ」と言える幸せ、建物の形が一生残るこんな良い仕事はないのである。

建築設計士が若い人があこがれる仕事の上位に再びなる様に、希望に満ちた建築文化を我々が、残さなければなりません。

時間と共に、愛される建築を生み出す為、趣味は「建築設計」と言って、新年も図面を作成する一年になりますように。

（広報委員会委員　髙橋雅敏）

一般社団法人　北海道建築士事務所協会　ひろば No.91／ARC 2018 No.51 建築作品集

発　行　平成 30 年 12 月
発行人　専務理事　中川　國義
編集人　広報委員会
担当副会長　三浦　　啓
委　員　長　藤原　昇悟
副委員長　蒔田　淳一
委　　員　宮房　晋矢　西島　弘志
徳留　裕敏　山田　利彦
佐藤　徳文　髙橋　雅敏
事　務　局　佐藤ひとみ

発行所　一般社団法人北海道建築士事務所協会
会長　庄司　雅美
〒060-0042
札幌市中央区大通西 5 丁目 11 番地
大五ビル 6 F
TEL：011-231-3165
FAX：011-241-1517
HP　http：//www.do-kjk.or.jp
E-mail　hokkaido@do-kjk.or.jp
印　刷　株式会社アイワード

松前町立松前中学校

史跡松前城を有し、北海道唯一の城下町に位置する松前中学校は、昭和44年に町内の3校を統合して誕生した中学校です。建て替え前の旧校舎は築40年以上を経過し、老朽化が著しいことから平成25年に改築に着手しました。改築にあたり特にこだわったのが「地材地消」の学校づくりでした。地域材である松前杉をふんだんに使用し、構造材としての利用はもちろんのこと、造作材として内装材や外装材、そして生徒が使用する机の天板にまで松前杉を利用した温かみのある中学校となっています。また、実際の建設にあたっては木造在来工法を採用し「オール松前」の名の下、全ての業種で地元の人々の協力が得られ官民一体となった松前町を代表する建物となりました。この松前中学校を卒業した子供たちが誇りに思える建物であるとともに、末永く町民の皆さんに愛されることを心より願っています。

松前町長　石山英雄

一般社団法人 北海道建築士事務所協会
〒060-0042 札幌市中央区大通西5丁目·大五ビル6F　TEL:011-231-3165　　FAX:011-241-1517
http://www.do-kjk.or.jp E-mail:hokkaido@do-kjk.or.jp